

地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和 3 事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果
小項目評価

年度評価
令和 4 (2022) 年 3 月 31 日現在

内容

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大 項 目	I	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
I-①		さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	1
(1)		活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備	1
(2)		幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信	20
(3)		戦略的広報の展開	42

大 項 目 I	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
I－②	幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	53
(1)	ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備	53
(2)	周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携	61
(3)	民間企業等との協働等	65

大 項 目 I	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
I-③	人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	69
(1)	こども及び教員等への支援	69
(2)	幅広い利用者への支援	73
(3)	参画機会の提供	83

大 項 目 I	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
I－④	大阪中之島美術館の開館に向けて	87
(1)	大阪中之島美術館の開館に向けて	87

大 項 目 Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 人材の活用と育成	90
(2) 評価制度の活用	91
(3) ICTの導入及び活用	92
(4) 民間活力の導入	93

大 項 目 Ⅲ 財務内容の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 収入の確保	95
(2) 経費の節減	96

大 項 目 Ⅳ その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置

(1) 環境整備	97
(2) 重要なリスク回避のための体制の構築	99
(3) 利用者等の安全確保	100
(4) 環境保全の取組み	102
(5) 情報公開の推進	103

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 I-①	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」 (1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備 (2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信 (3) 戦略的広報の展開
------------	--

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」 法人は、大阪の都市格の向上に寄与するよう、博物館等における歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)の蓄積と人々が学び、楽しみ、育んできた成果を更に発展させ戦略的に発信する (1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備 各館の活動の成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む 【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 ・博物館等資料(寄託品を含む、以下、同じ。)の新たな収集 ・防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化【1-(2)において記載】 ・博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 【中長期的 発展を見据えて 取り組む事項 】 ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 ・博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 ・博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 ・ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化(重要な資料等をひとまとめにしてデジタルデータ化すること等により、資料等を広く相互利用が可能な形式で保存することをいう。以下同じ。)による公開の推進【1-(2)において記載】 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 ・調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備						
各館の活動成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、次の通り、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 1 博物館等資料の新たな収集 各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 中：3 各館とも寄贈による資料収集を進めることができた。特に東洋陶磁では、評価額が4,820万円にも及ぶ高額な資料の寄贈を受けた。	3		3

	(大阪市立美術館) ア 絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。 イ 博物館活動に有効な資料の寄託確保に努める。	1	(大阪市立美術館) ア 購入0件 寄贈3件、19点 【令和2年度実績】 購入0件 寄贈6件 寄贈作品数24件 イ 受入9件41点、返戻14件276点(うち中之島236点) 【令和2年度実績】 受入10件29点、返戻13件117点	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に努める。今年度は移動式物品棚を昨年度整備した旧第二収蔵庫、棚を移動した特別収蔵庫の再配置と効率化をすすめる。	1	(大阪市立自然史博物館) ア 藤田コレクション化石岩石標本一式、同貝標本600点、水野辰彦甲虫コレクション、一井トンボ標本などが寄贈され、現在精査中である。 【令和2年度実績】総資料数1,910,710点(昨年度末比26,456点増) イ 旧第二収蔵庫に移動式物品棚を設置し、一部収蔵品を移動した。空いたスペースに昆虫、植物などの標本棚を新規に購入。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。	1	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 寄贈件数6件(作品数19件19点) 評価額計4,820万円 【令和2年度実績】寄贈14件(作品数119件133点) イ 購入作品0件 【令和2年度実績】0件 ウ 寄託作品6件(作品数40件):継続6件(作品数40件)、解除2件(作品数4件) 【令和2年度実績】 8件(作品数44件)新規受入1件(作品数3件)、継続7件(作品数41件)、解除1件(作品数2件)	4	
	(大阪市立科学館) ア 物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした分野の新規資料を収集し、科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。 イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。	1	(大阪市立科学館) ア 展示場1階の展示物を一部更新し、スーパーコンピュータ「京」ほかの所蔵資料を展示化した。また、今年度3件の資料寄贈を受けた。 【令和2年度実績】寄贈・寄託12件、借用14件 イ 大学へ資料や実験装置等の調査を9件行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。	1	(大阪歴史博物館) ア 令和3年度実績:購入0件、寄贈491件546点 【令和2年度実績】購入0件、寄贈1,405点 イ 令和3年度実績:9件9点 【令和2年度実績】0件0点	3	
	(大阪中之島美術館) ア 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。	1	(大阪中之島美術館) ア 令和3年度作品収集:1件 ・令和4年度以降の作品収集の準備・情報収集に	3	

	・開館後のコレクション展示等における活用のため、収集方針に従って令和4年度以降の作品収集にかかる準備を行う。 ・作品資料収集活動に必要かつ適切な情報を入手するため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。 ・所蔵作品作家の著作権状況について継続的に調査を進める。		- については、随時積極的に実施した。 ・所蔵作品作家の著作権状況についても継続的に調査を進め、情報を更新した。 【令和2年度作品収集実績】購入16件（35点）、寄贈等19件（318点）、寄託5件（55点）		
<u>2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承</u> 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3、 各館とも、計画通りに温湿度管理、IPM、防犯・防災等に着実に取り組んだ。	3	3
	（大阪市立美術館） ア 館内での総合的虫菌害の管理（IPM）及び収蔵庫の燻蒸を行う。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。	2	（大阪市立美術館） ア 月1回害虫トラップ調査、年2回空気環境調査を行い、必要に応じた処置をした。収蔵庫の虫の発生は減少傾向にある。11月に南収蔵庫の燻蒸を行った。 イ 24時間体制で監視し、展覧会毎に必要な応じた体制をとった。今夏は気候の影響が原因と考えられるが、湿度が高い日があり、カビの発生が起きかねないので、雨天の日などは特に注意を払った。 ウ 定期的に点検した。9月に消防署の点検を受け、適合となった。 エ 受入の度に登録した。	3	
	（大阪市立自然史博物館） ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワークなどとの連携による災害対策の検討をすすめる。	2	（大阪市立自然史博物館） ア トラップによる監視、データロガーによる監視、定期的な点検を行った。ドアブラシ設置によるIPM管理を強化した。旧第二収蔵庫に吹付け工事に伴う水分による一時的なカビ発生があり、対処を行った。 イ 入退室記録簿、各研究室による資料貸借簿による適切な管理を行った。 ウ 防犯・防災システムの定期点検を行い、2月に教養型防災訓練を実施した。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を検討した。 オ 検討した。	3	
	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 【令和3年度目標】定期清掃（収蔵庫、資料展示室、李博士研究室）12回（月1回） イ 館蔵品の確認を計画的に行う。 【令和3年度目標】国宝2件、重文13件、重要美術品9件及び主要作品250件等 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。	2	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア 展示室環境を把握するため収蔵庫・展示室の温湿度測定を継続して行った。 ・虫菌害の対策として定期清掃（収蔵庫等）を10回行った。 ・モニタリングトラップによる展示室・収蔵庫の環境調査及び調査結果に基づくIPMクリーニング、防虫ブラシの設置を行った。 イ 館蔵品の所在確認及び状態確認を「大阪市立東洋陶磁美術館館蔵品管理方法」に沿って計画的に行った。 ・出品、調査、修復、撮影による状態確認を320	3	

			件行った。 ・令和4年2月7日～10日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 【令和2年度実績】 ・出品、調査、修復、撮影による状態確認を301件行った。 ・令和3年3月23日 令和2年度の新規館蔵品(寄附、寄託等)について監査法人による実査調査を行った(2回目)。 ・令和2年11月10日～19日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和2年10月20日 令和2年度の新規館蔵品(寄附、寄託等)について監査法人による実査調査を行った(1回目)。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検した。 エ 新規受入作品の登録を継続的に行った。 ・令和3年度寄贈件数6件(作品数19件)について1月に収蔵品データベースに登録を行った。 【令和2年度実績】 ・令和2年度寄贈件数14件(作品数119件)について8月に行った。		
	(大阪市立科学館) ア 常設稼働展示品を保守管理し、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。 イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによるセキュリティ確保を図る。 ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。	2	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大リスク回避のための改修も含め、展示物20件の改修、改善を行った。 イ 重要な貴金属資料等については、機械警備、ビデオ撮影、定期的な警備員の巡回確認を実施した。 ウ 所蔵資料の出納実施の際は、出納簿に記録を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。 ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。	2	(大阪歴史博物館) ア 年1回の生物調査を実施し、収蔵庫前に粘着シートを設置するなど靴底に付着する虫菌の侵入を防いだ。 イ 出納簿を収蔵庫前室に設置し、記録を実施した。 ウ 防犯システムのメンテナンスを行い、システムの維持に努めた。収蔵庫扉を点検し、不具合の生じた前室扉を修理した。 エ 前年度の新規資料は順次登録を進めた。統合データベース、登録手続き、館蔵品台帳が連動する企画を作成した。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館の開館前の燻蒸及び IPM を実施する。 ・PFI 事業者と協働し、収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施する。	2	(大阪中之島美術館) ア 開館前の燻蒸及び IPMクリーニングを実施した。 ・出向学芸員及びPFI事業者全社員を対象としてIPM研修を実施した。	3	

	・PFI 事業者と協働し、昨年度策定した作品資料収蔵エリア等の IPM クリーニングの計画に基づき実施する。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行う。	・PFI 事業者と協働し、収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施した。 ・PFI 事業者と協働し、昨年度策定した作品資料収蔵エリア等の IPM クリーニングの計画に基づき実施した。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に実施した。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検した。 エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行った（令和2年度受入作品資料の登録は完了）。			
<u>3 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供</u> 博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 各館とも計画通り、館蔵資料のデジタル撮影や図書・雑誌の収集を着実に実施した。特に大阪市立美術館では、CRSの一環として撮影数が約11倍増加した。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。	3	(大阪市立美術館) ア CRSの一環として、改修リニューアル後に備えて本年度は集中的に作品の撮影を進めた。 撮影：1972カット 【令和2年度実績】 撮影：174カット イ 図書等の文件資料の収集を継続的に進めた。 図書・雑誌購入148点 【令和2年度実績】 図書・雑誌購入139点	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 継続的な資料の登録・整理をすすめ、収蔵資料目録を発行する。 イ 標本資料だけでなく、自然史科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理を進める。 ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。	3	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵資料目録53集を発行した。 イ 継続して取り組んだ。 ウ 図書資料の購入・寄贈受け入れも順調に進めた。科研費により獲得した間接経費を投入しての自己努力により、将来の公開に向けた整備を進めた。 【令和2年度実績】 図書単行本1,330点増、逐次刊行物6,658点増、累計図書25,140点、逐次刊行物207,656点	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 継続的に館蔵品の撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。 【令和3年度目標】 デジタル撮影 作品24件（オープンデータ化作品20件、現代陶芸柳原睦夫作品4件） イ 継続的に研究図書などの収集を行う。 ウ グーグル・アートなど各種媒体との連携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。	3	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料173件(柳原睦夫作品4件、濱田庄司作品39件、オープンデータ化作品20件、韓国陶磁110件)のデジタル撮影を行った。 【令和2年度実績】 館蔵資料81件(中国黒釉関係陶磁16件、近現代天目関係陶磁19件、青銅器1件、オープンデータ化作品20件、黒田泰蔵作品22件)のデジタル撮影を行った。 イ 継続的に研究図書などの収集を行った。 購入図書資料241点(図書48点、雑誌34誌193点) 寄贈図書資料415点(図書322点、雑誌15誌93点) 【令和2年度実績】 購入図書資料255点(図書36点	3	

			、雑誌219点) ウ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との連携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。		
	(大阪市立科学館) ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。 ・古代の宇宙観 (6点) ・学天則 (3点) ・江戸時代の天文書 (6点) ・西洋の古書 (3点) イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。	3	(大阪市立科学館) ア 資料画像6件の有償提供を行った。 【令和2年度実績】8件 イ 研究用図書51冊、雑誌8誌を収集した。 【令和2年度実績】研究用図書62冊、雑誌8誌	3	
	(大阪歴史博物館) ア 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行う。	3	(大阪歴史博物館) ア 資料撮影 158カット マイクロフィルム撮影 なし なお、マイクロフィルム2,329カットの電子化を実施した。 デジタル撮影 なし 【令和2年度実績】 館蔵資料撮影 202カット マイクロフィルム撮影 なし デジタル撮影 1,406カット イ 市民図書等として320冊の図書を購入し、寄贈を受けた図書は2,808冊 【令和2年度実績】購入図書189冊、寄贈図書3,522冊	3	
	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。(開館前より継続実施) イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。(開館前より継続実施) ウ 作品資料の撮影を行う。 ・美術館建物引渡しの後、大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。 ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。	3	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行った。またアーカイブ資料については寄贈により12件を受け入れた。 【令和2年度資料収集実績】寄贈等6件 イ アーカイブズ情報室の開設準備を進め、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開のための整理・配架を進めた。 ウ 作品資料の撮影。 ・美術館にて大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施した。 【令和2年度実績】・作品撮影：283カット、資料撮影：440カット ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図った。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 <u>4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成</u> 法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 経：3、事：3 学芸員について、欠員にともない市立美術館2名を採用し、また、自然史博物館、歴史博物館において各1名、令和4年度採用予定の準備を進めた。 また、コロナ禍で出張や対面が厳しい中、主にオンラインで研修等に参加した。	3	3

	(大阪市立美術館) ア 職員のスキルアップをはかるため、研修情報等の収集に努める。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。 ウ 館の将来の運営を見据えた専門的人材の獲得をめざす。	4	(大阪市立美術館) ア 文化庁、教育委員会など公的機関より研修情報を得る他に、保存や展示などに関する技術などの民間によるセミナーなどの情報の収集にも努めた。 学会・研究会・シンポジウム・セミナーなどムがオンラインでも行われるようになり、各学芸員が参加に努めた。 参加：44回 イ 10月に欠員となっていた学芸員2名を採用した。 これとは別に産休育休に入った学芸員の補充として、8月にアルバイト1名を採用した。 ウ リニューアル後の教育普及・広報事業の拡大に備え、担当学芸員の採用の準備を進めた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 退職・育休・産休などに伴う欠員を速やかに補充する。 イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事をオンライン・オフラインで誘致・実施する。 ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修への参加を進める。 エ 総務課職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。	4	(大阪市立自然史博物館) ア 令和3年度末退職予定の学芸員を補充するため、公募し一名の採用を進めた。令和4年4月1日着任予定。 イ ユニバーサルミュージアムに向けたシンポジウムを令和4年2月6日にウェブ上で実施した（同時視聴者96人、751回再生）。 ウ 多くの学会が中止またはオンライン開催となっているが積極的に参加・発表した。全日本博物館学会、ミュージアムマネジメント学会、デジタルアーカイブ研究会、昆虫学会、ベントス学会、魚類学会、鳥学会、第四紀学会、地質学会、IcomNatHist、文化財科学会などにオンライン参加、発表を行った。 【令和2年度実績】学会発表10学会11件（国際学会含む）その他参加15件 エ ユニバーサルミュージアム、西日本ネットと共催した博物館動向のシンポジウムを研修として利用した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 専門的人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的専門美術館としての体制の充実を図る。 イ 学芸員のスキルアップをはかるため、国内外での研修参加を推進する。 ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担、職制などを模索する。	4	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 欠員に伴い、アルバイト（学芸員）を1名採用した。 インターン4名（継続2名・新規2名）を受入 【令和2年度実績】インターン受入3名 イ 研修実績 のべ21名 ・日本博物館協会シンポジウム「これからの博物館制度を考える」（4月24日、1名） ・デジタルアーカイブ学会第6回研究大会サテライト・プログラム「ビヨンドブックの可能性：書籍、電子書籍を超える」（4月28日、1名） ・国際博物館の日記念シンポジウム「博物館の未来・新たな発想」（5月15日、3名） ・令和3年度 公開承認施設担当者会議（6月3日、2名） ・「ジャパンサーチ連携説明会～地域アーカイブ	3	

		をつくる・つなぐ・つかう〜」(6月11日、2名) ・2021年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 シンポジウム「美術館コレクション検索はどこへ向かうか—日本のプラットフォームの現状と将来像」・研究発表会(6月19日、1名) ・日本博物館協会近畿支部第24期後期(令和3年度)研修会(10月22日、1名) ・博物館法改正に関する研修「博物館法改正の今後の状況」(1月19日、4名) ・日本博物館協会緊急フォーラム「文化審議会答申『博物館法制度の今後の在り方』を読み解く」(1月28日、1名) ・2021年度大阪市立自然史博物館研究倫理研修「『史上空前の論文捏造』から考える科学ミュージアムの果たすべき役割とは?」(2月16日、4名) ・大阪市博物館機構オンラインシンポジウム「リアルとバーチャル、博物館は未来をどう考える」(3月23日、1名) 【令和2年度実績】のべ16名 ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担、職制などを検討・実施した。		
(大阪市立科学館) ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加し、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。 イ 国内・海外の施設との人材交流や短期～長期の留学を検討・実施する。 ウ プラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価や、常設展示の改良評価の実施を通じて、学芸員の資質向上を図る。	4	(大阪市立科学館) ア 天文教育研究会、全国科学博物館協議会研究大会、日本プラネタリウム協議会研究大会、理工系学芸員展示研究大会等(オンライン開催)に参加した。 イ オンラインでオーストラリアの科学館クエスタコンとオンラインによる交流を実施した。 ウ プログラム公開前には、プラネタリウム試写会、サイエンスショー検討会を実施した。公開後は、実施内容を検討する事業検討会を合計3回開催し、議論を行った。	3	
(大阪歴史博物館) ア 若手学芸員のスキルアップをはかるため、研修情報などの収集に努め、参加機会を模索する。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。	4	(大阪歴史博物館) ア 文化庁の博物館学芸員専門講座を学芸員1名が受講した。 ・図書館等職員著作権実務講習会(文化庁)に司書3名が参加した。 ・近代史担当学芸員が国立公文書館のアーキビスト認証を受けた。 ・文化庁、日本博物館協会、歴史民俗系博物館連絡協議会等の研修情報を収集し、適宜参加を検討した。 ・特別展開催後に振り返りを行い、学芸員や館全体でも課題や手法等を共有化した(・あやしい絵展・難波をうたう展)。 イ 令和3年4月に発生した1名の学芸員の欠員補充のため、令和4年4月採用を目指して、学芸員公募を実施し、選考した。	3	

	(事務局) ア 採用されて、数年の学芸員に対して、機構、各館の運営、活動等について研修を行い、今後の現場での活動に役立つよう育成を行う。	4	(事務局経営企画課) ・情報化会議主催で博物館資料のVRコンテンツ化に関する研修を実施した博物館機構ICT関連オンライン研修（「情報化会議」）（7月10日、14名） 広報担当の係長が採用され、今後の広報活動の在り方の検討に入った。 ・博物館法改正にあたり、その狙いや内容をオンラインで学ぶ研修を実施した（1月19日）。 ・オンラインシンポジウム「リアルとバーチャル、博物館は未来をどう考える」を実施し、機構内での取組みを共有し、外部講師による今後の博物館資料のVR化等の可能性を学んだ。（3月23日）	3	
5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 博物館等資料に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。 博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。 博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。		5	【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 中：3、経：4 コロナ禍ではあったが、各館とも着実に調査研究を進め、館活動に大きく寄与する状況となった。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 館蔵品に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪市立美術館) ア 3月に研究紀要を発行し、館蔵品を中心とした研究活動の成果を公開した。 学会誌ほか様々な媒体を通じて、各学芸員が論文などで研究成果を発表した。 著書・論文等21件、研究発表5件、展覧会・コレクション展報告14件 【令和2年度実績】著書・論文等15件、研究発表12件、コレクション展報告25件 イ 大規模改修に備え、資料保存先となっている大阪歴史博物館、京都国立博物館、三井倉庫、住友倉庫の状況の調査を実施した。各地の美術館・博物館を訪れた際に参考となる情報の収集に努めた。複数の専門業者から収蔵庫の設備、展示室のケースや照明等についての最新情報の聞き取りを行った。これらをもとに、文化財保護センターおよび文化庁を訪ね、指導を受けた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。 ウ 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究科体を継続的に実施する。	5	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館の収蔵庫利用は内外の研究者に高いレベルで活用された。館員の利用は研究発表で評価できるが、外部研究者の利用実績も非常に高いレベルである。これは保管状況の良さや高い公開性を示す数値である。 一般・特別収蔵庫 外来利用者 682人日 液浸収蔵庫 外来利用者 92人日（アルバイト、実習生、館員や業者を除く） 【令和2年度実績（※コロナ禍の影響のため閉鎖期間が長かった）】 一般・特別収蔵庫 外来利用者 476人日	3	

		液浸収蔵庫 外来利用者 90人日（アルバイト、実習生、館員や業者を除く） イ 適宜、Zoomによるオンライン研究会を実施。「視覚障害者展示見学支援シンポジウム」（2月6日）、「2021-2022自然史系博物館 世界の動き、日本の動き」（西日本自然史系博物館ネットワーク共催）（2月7日） ウ 令和3年度は当館学芸員（外来研究員含む）が研究代表者となる科研費は新たに1件の採択にとどまったが新規分担課題4件、継続課題主担16件（うち延長課題4件）、継続課題分担6件とあわせ27件を獲得し著書・論文等も順調に公開された。民間助成も採択された。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。 イ 保存、展示手法、運営等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進めた。（調査実績と調査研究の成果） ・論文等5件、その他原稿10件、研究発表7件、講演会等10件、取材協力3件、科研4件 【令和2年度実績】著書翻訳1件、論文等8件、その他原稿26件、研究発表2件、講演会等12件、取材協力4件、科研4件 イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努めた。研修、シンポジウム等参加のべ11名 ・令和3年度国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（6月4日、2名） ・令和3年度第1回機構情報化会議（VRコンテンツに関するデモンストレーション等）（7月10日、1名） ・視覚障害者接遇研修（1月13日、5名） ・展示照明と比較実験（1月18日、3名） 【令和2年度実績】会議、セミナー等参加のべ26名	4	
(大阪市立科学館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集に努める。 ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等の改善・改修のための調査研究を行う。	5	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料等に関する基礎研究を実施し、成果を公表する大阪市立科学館研究報告第31号を発行したのをはじめ、33件の著書・論文等を発表した。また7件の研究発表・報告を行った。 【令和2年度実績】著書・論文等27件、研究発表7件 イ 全国科学博物館協議会研究大会、理工系学芸員展示研究大会等に参加した。 ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止によるサイエンスガイド活動休止のため、実績なし。	3	
(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪歴史博物館) ア 個々の学芸員による日常的な館蔵品研究を実施した。また館の研究事業である共同研究の内1件において、館蔵資料研究を含めた研究活動を実施した。 イ 資料の公開、保存を阻害する展示ケースの有	3	

			機酸について、学芸員によるパッシブインジケータ測定と専門業者による数値測定を展示室・展示ケース・収蔵庫で実施し、有機酸濃度の数値データを取得した。具体的な数値をもとに、文化庁や文化財活用センターから有機酸除去の指導を受け、空気清浄機・吸着シートなどの実験を行い、成果をあげた。		
	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料に関する調査研究を、継続的に進める。 イ 作品資料保存や展示方法について、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料に関する調査研究を進め、2月の開館記念展にその成果を反映した。また、収蔵作品資料についての取材に積極的に対応した。 イ 作品資料保存や展示方法について最新の情報を収集にした。IPMIについては、外部専門家を招いての研修を全社員対象に開催した。また文化庁等に展示環境にかかる基準について定期的に意見を求め、必要な対策を随時実施した。	3	
	(事務局) ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。	5	(事務局経営企画課) ・毎月の入館者情報の集約を行い、経営会議、理事会等での共有と対策に向けての基礎資料とした。 ・科学館、市立美術館、東洋陶磁美術館の観覧料に対する価格受容度調査を行い、市場における各館の価格妥当性を探った。 ・一部の特別展に対して、来館者の満足度、実施館の取り組みなどを調査・結果の分析を行い、次回以降の特別展実施に向けての基礎データを得た。	4	
6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 令和2年度に引き続き、従来の紙面でのアンケート調査に加え、ウェブ上でのアンケート作成を行い、積極的に入館状況等の分析に努めた。 特に、東洋陶磁美術館では、顧客ロイヤリティを数値化する指標（NPS）を導入し、分析の参考とした。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。	6	(大阪市立美術館) ア Googleフォームを利用したウェブアンケート、チケット購入者を対象にしたウェブアンケートなどを実施した（総回答数：607）。また、「聖徳太子展」では展覧会の関連イベント参加者への紙面アンケートを実施した（総回答数：540）。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。 イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって、効果検証などの手法開発を	6	(大阪市立自然史博物館) ア 「大阪アンダーグラウンド展」について、十分な開館期間を取ることができなかったため、関係博物館スタッフの意見を集めて評価を行った。 【令和2年度実績】明治大学源由里子教授を招聘し、ロジックモデル研修会を開催し、事務局からの参加者も得て評価手法を学び、館運営の改	3	

試みる。		善に努めた。また、インターネット調査などを用いた博物館評価調査を科研費研究の一環で実施した。 イ ミュージアムショップに関するアンケート評価を実施したほか、外部有識者によるレビューを実施した。 【令和2年度実績】ミュージアムグッズサミットなどに招待を受け、外部からの評価を頂いた。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者に対するアンケート調査（ウェブ版含む）を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。 【令和3年度目標】開館期間中1か月に1回（最大11回） イ 受付・看視スタッフの日報などにより、来館者の生の声を収集し、運営に活かす。	6	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア アンケート実績 入館者に対するアンケート調査（ウェブ版含む）を展覧会ごとに実施し、その結果の分析を行い、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かした。 なお、アンケートでは顧客ロイヤリティを数値化する指標（NPS）を導入し、分析の参考とした。 ・黒田展 実施回数：3回 実施期間：18日 回答数162（実施期間中入館者の約5.1%） ※非常事態宣言に伴う臨時休館のため、4月は実施できず。 ・柳原/古九谷展 実施回数：7回 実施期間：42日 回答数219（実施期間中入館者の約6.3%） ・コレクション展関連テーマ展示 感想フォーム 設置期間：会期中常時 回答数46 ウェブ感想フォームを常時設置、紙での感想受付も期間を設け設置し、アンケートとは別に入館者からの感想・要望を収集して、それをホームページなどの広報に活かした。 【令和2年度実績】 ・天目展 実施回数：3回 実施期間：18日 回答数213（実施期間中入館者の約6%） ・黒田展 実施回数：5回 実施期間：30日 回答数255（実施期間中入館者の約11.5%） ※ 非常事態宣言に伴う臨時休館のため、竹工芸展の今年度分は実施できず。 ※ 新型コロナウイルス感染症対策の一環で、従来の用紙方式に加え、新たにウェブアンケートも同時に実施した。 従来の顧客満足度に代わり、新たに顧客ロイヤリティを数値化する指標を導入し、分析の参考とした。 イ 受付・看視スタッフの日報や報告内容により、ご来館者のご要望を把握し、運営に活かすことができた。実施した内容としては、キャプションの読みづらさをご来館者の声にあわせて作り直したことやミュージアムショップのグッズ追加要望への対応、ご利用できるカード会社の新規取り扱いなどを行った。 ウ 運営に関する調査研究・分析の成果等を雑誌やウェブで公表した。	3	

		・「大阪市立東洋陶磁美術館の現状と今後―地方独立行政法人大阪市博物館機構の下での新たな可能性―」『ミュゼ』VOL. 127、令和3年6月25日、10-11頁 ・「コロナ禍、コレクションとデジタル変革が拓く美術館の可能性」、ICOM日本ジャーナル「ミュージアムの現場より」、令和4年2月4日、 https://icomjapan.org/journal/2022/02/04/p-2797/		
(大阪市立科学館) ア 入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行うなど、住民のニーズを把握し、それに応える魅力ある事業を行う。	6	(大阪市立科学館) ア 入館者に対するアンケートをオンラインと紙媒体の両方で実施し、プラネタリウム、展示場、その他内容について10段階での評価や記述意見を収集し、それら意見を職員に回覧し、事業改善に努めた。特に個々の展示装置への来館者の滞留状態を調査し、展示装置の人気度合いを評価するデータとした。加えて、プラネタリウム、サイエンスショーの観覧者アンケートも別途実施した。また、個々の展示物についての調査も実施した。	3	
(大阪歴史博物館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。 イ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、効果を確認する。	6	(大阪歴史博物館) ア アンケートによる情報収集と分析 ・常設展(施設含む)に加え、特集展示6本、特別展2本、特別企画展2本のアンケートを実施し、結果を分析して事業策定の参考とした。 ・Googleフォームを活用し、QRコード形式で実施することで集計の効率化と、コロナ対策を図った。 イ 特別展終了後に実施する振り返りの会において、アンケート結果を参照し、検証に役立てた。	3	
(大阪中之島美術館) 次年度以降の取り組みとする。	6	(大阪中之島美術館) くらし・まち研究所による「大阪中之島美術館：認知及び美術館に対する意識調査」を実施した。1,500人のアンケート回答から利用者の意識を確認し、広報と事業戦略の参考とした。	3	
(事務局) ア 博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、6月末までに令和2年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和3年度の中間評価(仮評価)を実施する。	6	(事務局経営企画課) ア 各館における入館者状況について、入館者数と推移、属性等を可視化して把握し、各館とも共有した。 ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。 ・博物館の評価に関する調査研究を勧め、評価制度の構築やPDCAサイクルの循環に関する研究結果を公表した。	3	
<u>7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復</u> 博物館等資料の保存・継承と、展示等による効果的な活用を図るため、必要な修復を進める。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 各館とも計画通りに館蔵資料の修復や展示物の改修を実施した。	3	3
(大阪市立美術館)	7	(大阪市立美術館)	3	

	ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、修復を行う。 【令和3年度予算目標】2件		ア 近世絵画1点、中国絵画2点を修復し、うち1点の中国絵画（重要文化財）は、文化庁の国庫補助金を申請して費用の半額に当たる3,200千円強を獲得し、令和4年度までの2か年にわたる修理を行う。他の2点は修復を無事完了した。 【令和2年度実績】3点		
	(大阪市立自然史博物館) ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。	7	(大阪市立自然史博物館) ア どんぐりコースター改良のための改修を行った。 【令和2年度実績】ナウマンホール地図ビューワー、第1、3展示室（映像装置、人体骨格）や第5展示室の改良を実施した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。 【令和3年度目標】5件 5点	7	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 修復作品 韓国陶磁計4件4点 【令和2年度実績】韓国陶磁計5件5点	3	
	(大阪市立科学館) ア 科学に関する展示は、情報の更新や老朽化などが起こるため、計画的な改修・改装を実施する。	7	(大阪市立科学館) ア 展示場1階の一部展示について、新型コロナウイルスの感染リスクにより運用を休止し再開の目途が立たない展示物や、老朽化の激しい展示物に対して改修・更新を行い、1月に完成、2月2日より公開した。これにより、未公開資料であった大型計算機等を新規公開したほか、展示資料の充実、コロナ感染対策を実施した。その他、2～4階の常設展示7点の改善を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。	7	(大阪歴史博物館) ア 染織品（小袖）1件1点の修復を実施した。 【令和2年度実績】3件3点	3	
	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料について、作品保護と開館後の展示の必要性を考慮して、修復と額装を行う。（開館前より継続実施）	7	(大阪中之島美術館) ア 家具作品3点の修復を実施中。また、ポスター作品の展示にかかる簡易額装のための計測を実施した。 【令和2年度実績】 ・修復：油彩画18点、家具等デザイン作品9点、日本画8点 ・額縁：製作30点、修繕19点 ・保存処置：貴重資料157点	3	
8 各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設としての機能と利用者サービスの向上を目指し、次の改修等を計画的に実施する。		8	【機構の評価】 美：4、自：4、陶：4、科：3、歴：3 美術館、及び東洋陶磁美術館の大規模改修の実施設計等を機構事務局も含め検討を重ね、より来館者が利用しやすい施設とする実施設計が完了した。また、自然史博物館講堂、科学館のプラネタリウム改修、歴史博物館の展示場における有機酸対策など各館とも困難を伴う大規模な施設整備に関する業務が大きく進んだため。	4	4
(大阪市立美術館) 館の機能強化やサービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に、本館の大規模改修	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は基本	8	(大阪市立美術館) ア 実施設計について、役員を含め機構事務局としても検討に加わり、利用者サービスに優れた実	4	

計画を策定して、2021年度からの実施を目指す。	設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。		施設設計ができた。より見やすい展示のための工夫のほか、年間開館日を増やすための対策、歴史ある建物の魅力再生化、館のエントランスの改良による入りやすさ、多目的ホールや教育普及のための施設の設置、慶沢園とのアクセス等にさらに改良を加えた。収蔵庫改修のための館蔵品・寄託品の移動計画を立て、3月より調査・作業を開始した。		
(大阪市立自然史博物館) 今後50年を見据え、収蔵体制や常設展示をより魅力的な情報提供の場とするため、将来の展示改装に向けた構想づくりに着手する。 常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫の再配置、高密度化などを進めていく。(再掲) イ 老朽化した建物の計画的整備として、講堂の改修整備を進める。 ウ 研究機器などの継続的更新を進める。 エ 照明のLED化の推進による照明環境の向上に努める。 オ 将来的な展示更新のための調査を進める。情報機器の刷新計画と合わせ、魅力的な展示の実現に向け外部コンサルタントも依頼し、検討を行う。	8	(大阪市立自然史博物館) ア 短期的には新規の標本棚を追加、中長期に向けて本館改修のための調査を開始した。 イ 講堂の改修については、コロナ禍の経験を活かし、座席のみならずAVシステムなど、リモート事業にも対応できる改修工事が実現できた。 ウ 凍結乾燥機の制御システム更新を予定したが、電子部品の不足により年度内には完成しなかった。 エ 展示ケースのLED化を一部のケースで試行した。 オ メールサーバの変更、図鑑DBシステムの刷新を進めた。今後ウェブサーバーなどの改修に向けた検討を進めた。	4	
(大阪市立東洋陶磁美術館) 館の機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、2020年から実施を目指す。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 本館エントランスを中心とした大規模改修計画の実施設計作業を実施する。 イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを検討する。 ウ LED照明など展示機器の更新を検討する。	8	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 議論を重ね、景観にも配慮した明るく透明感のあるエントランスとして実施設計を仕上げ、工事の着手に漕ぎ着けた。 イ 展示ケース等改修・修繕の点検、検討を行うとともに、次年度の改修に向けての準備を進めた。 ウ 展示ケースのLED照明に関する最新情報を収集し、館内での研修を兼ねた実証実験や比較実験を実施し、次年度のLED照明更新に向けての準備を進めた。	4	
(大阪市立科学館) 展示情報を更新し老朽化を回避するため、計画的な改修・改装を実施する。	(大阪市立科学館) ア 第4次展示改装2期目の検討を行う。 イ 常設展示品・展示場の老朽化、安全対策の計画を行う。 ウ プラネタリウムホール及び全天周映像システム更新の計画を実施する。 エ 受変電設備更新、給排水設備更新をはじめとした各種施設整備の計画を行う。	8	(大阪市立科学館) ア 展示改装の基本構想作成に向けて、フロア案の検討や、各所との調整を行い、館内構想の策定を進めた。 イ 展示物の定期的な保守を実施した。また展示改装に向けての基本構想(案)を作成した。 ウ プラネタリウムホール設備および全天周システムの更新には最新の映像システムを導入するとともに、コロナ禍の経験を活かし、ゆとりと安全・安心を確保した座席の全面改修を実現できた。2月2日より公開開始。更新完成によるルオープン後の年度内プラネタリウム観覧者は38,811人で、コロナ禍以前の平成29年度の同期間での観覧者数46,453人の83.6%となっており、コロナ禍で定員を当時から50%に絞っているにもかかわらず好調であった。	3	

(大阪歴史博物館) 常設展示場の見直しを行い、老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示機器の更新などを実施する常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。 増加する海外からの来館者に対応するための施設整備に努める。	(大阪歴史博物館) ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末などの展示機器の状況を把握し、適宜対応を行う。 イ 展示更新計画の策定のための調査（改修方法と内容、費用、スケジュール）を実施し、調査結果をとりまとめ、基本構想へ向けての準備を進める。 ウ 展示ケースの有機酸対策について日常的に対応するとともに必要データを集め、展示更新計画のなかに改修工事を位置づける。	8 (大阪歴史博物館) エ 受変電設備更新、給排水設備更新をはじめとした各種施設整備を行い、1月に完成した。 ア 展示ケースおよび展示用蛍光灯、映像機器、展示情報端末（コロナ対策により使用停止中）については経年による劣化、故障が生じており、随時、修理などの対策を実施した。 イ 展示等の改修については令和6年度中の完成をめざし、令和2年度に完成した基本構想をもとに、常設展示等改修基本計画の策定を進め、令和4年1月に中間報告を作成し、令和4年5月に完成予定。 ウ 資料の公開、保存を阻害する展示ケース内の有機酸について、研究会等に参加しながら他館状況等の情報を収集し、機構内各館とも情報共有するとともに文化庁との協議を経て、特別展示室の展示ケースについて、調査費の予算化も含め、来年度以降の改修の具体的目途を立てることができた。 特別展示室については、有機酸問題を解消するため、展示改修事業とは分離して計画を進めることとなり、令和4年度からの改修設計実施に向けて改修計画を策定中である。	3	
9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 科学研究費補助金をはじめ助成金等の獲得に努める。 科学研究費補助金の新たな館での研究機関指定を目指す。		【機構の評価】 美：4、自：4、陶：4、科：3、歴：4 中：4、事：3 科学研究費補助金については、代表研究29件・分担研究16件合計45件が進行して（内令和3年度の新規採択は、機構全体で8件）、令和3年度の研究助成費は33,644千円であった。（件数は延長を除く）また、文化庁からは、「地域と共働した博物館創造活動支援事業」として、11,976千円の支援を得た。	4	4
	(大阪市立美術館) ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す。	9 (大阪市立美術館) ア 学芸員6名中のべ5名が獲得。 科学研究費：3名が獲得 文化庁助成金：1名が獲得 民間助成金：1名が獲得 【令和2年度実績】 学芸員9名中のべ5名が獲得。 科学研究費：4名が獲得、1名が分担者 文化庁助成金：1名が獲得	4	
	(大阪市立自然史博物館) ア 研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。	9 (大阪市立自然史博物館) ア 令和3年度は当館学芸員（外来研究員含む）が研究代表者となる科研費は新たに1件の採択にとどまったが新規分担課題4件、継続課題主担16件（うち延長課題4件）、継続課題分担6件とあわせ27件を獲得し、多様な研究を行った。 令和4年度に向けても新規申請代表12件、分担者としての申請参画9件。	4	

		【令和２年度実績】研究代表者として14件（新規課題５件、継続課題９件）が採択された（これと別に延長課題２件）。他研究機関の分担者として参加する課題も７件（新規２件、継続は５件）、その他民間助成５件（新規２件、継続３件） イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」の採択を受け、視覚障害者対応。大阪自然史フェスティバル関連シンポジウムを実施した。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行う。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。 【令和３年度目標】新規申請１件（前年度に引き続き「館蔵資料オープンデータ化による国際発信（館蔵品20件）」の拡充のため）	9	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行った。 ・新規申請２名３件(研究代表者１名１件、研究分担者２名２件) 新規採択１名(研究代表者１名) 継続４名(研究代表者３名、研究分担者１名) 【令和２年度実績】新規申請２名３件、新規採択１名(研究代表者) 継続４名(研究代表者３名、研究分担者１名) イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」の応募を行い、採択を受け「館蔵資料のオープンデータ化による国際発信」を実施した。 【令和２年度実績】「館蔵資料オープンデータ化による国際発信」により、オープンデータサイトの製作・館蔵資料の高精細デジタル画像撮影等を実施した。 ウ 文化庁の「ARTS for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」の応募を行い、採択を受け（5,851千円）、コレクション展関連テーマ展示及び関連イベントを企画・実施した。	4	
(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金をはじめとした各種研究助成金を獲得するため、学芸員が新規応募を行う。 イ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。	9	(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、令和４年度に向けて11件応募した(研究分担者を含む。採択１件)。その他民間助成等にも３件応募した(採択２件)。 【令和２年度実績】応募11件、採択１件 イ 事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された。	3	
(大阪歴史博物館) ア 科学研究費補助金等外部資金を獲得するため、学芸員が新規応募する。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。	9	(大阪歴史博物館) ア 令和３年度の科学研究費助成金は新規応募件数が４件で、うち１件が新規に採択された。また、研究成果公開促進費１件に応募した(結果は不採択)。その結果、前年度からの継続課題を合わせて、令和３年度の研究代表者は６件、研究分担者８件(組織内部の分担者２名を含む)となった。	4	

		・令和4年度科学研究費助成金の新規応募した（応募5件）。 【令和3年度実績】 研究代表者6件（継続課題5件、新規採択1件） 研究分担者6件（継続課題7件、新規採択1件）（組織内部の分担者2名を含む） ・令和2年度に引き続き、出光文化福祉財団の調査・研究助成を受けた。（1件） 【令和2年度実績】 研究代表者5件（継続課題3件、新規採択2件） 研究分担者7件（継続課題2件、新規採択5件ただし新規採択1件は機構内部の分担者） ・出光文化福祉財団の調査・研究助成（1件）			
	（大阪中之島美術館） 次年度以降の取り組みとする。	9	（大阪中之島美術館） ・文化庁による令和3年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）に申請し、一部採択された（採択額16,338千円）。※ ・一般財団法人地域創造の「地域の文化・芸術活動助成事業」の助成金を獲得した。※ ※ 外部団体と共同し、実行委員会として獲得 【令和2年度採択額：600千円】	4	
	（事務局） ア 科学研究費補助金を活用した研究課題1件を継続的に実施し、また新規の応募を行い研究資金の獲得に努める。 イ 文化庁補助金「コロナ禍を契機とした新たな利用形態の開発に向けて都市型地域ミュージアムモデル形成事業（申請中）」を活用した事業を予定し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。	9	（事務局経営企画課） ア 科学研究費補助金を活用した研究課題については、令和元年度に獲得した課題を継続実施した。また令和3年度の科学研究費補助金について分担者として申し込みをした内容については、落選。 イ 各館と共同して文化庁補助金「コロナ禍を契機とした新たな利用形態の開発に向けて都市型地域ミュージアムモデル形成事業地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された。（採択額11,976千円）	3	
10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修	高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。 さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 市立美術館、東洋陶磁美術館については改修計画に合わせてバリアフリー化等を実施設計に反映させた。また、計画を有している館については、その計画を進めた。	3	3
	（大阪市立美術館） ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は基本設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。（再掲）	10	（大阪市立美術館） ア 本年度は実施設計を終了させ、令和4年度10月から工事着工の予定。バリアフリー対応として、来館者用に正面エントランス側に2機、慶沢園側に1機のエレベーターを設置する（うち2機は新設）。 イ 正面エントランスから中央ホールに通じるエスカレーターを新設し、多くの来館者が階段を使用せずに入館できるようにした。 ウ ユニバーサルデザイン化を含め、来館者に分かりやすい館内掲示を目標とした。	3	

(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。 イ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討を進める。	10	(大阪市立自然史博物館) ア 日本ライトハウスによるアドバイスを受けた研修などを実施した。 イ 科研費による研究会を検討したが、コロナ禍の影響により実施できなかった。友の会やYouTubeの利用者層についての分析を進めた。	3	
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める。	10	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための情報収集を行い、バリアフリー化などをエントランス増築棟建築計画に合せて実施設計に反映した。 イ トイレ改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた設備の検討をエントランス増築棟建築計画に合せて実施設計に反映した。	3	
(大阪市立科学館) ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。 イ トイレ洋式化などの計画策定を進める。	10	(大阪市立科学館) ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッドを設置しているほか、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施した。 また、文化庁から補助金を受け、日本ライトハウスの協力を得て、視覚障がい者の展示鑑賞支援のための「展示場見学ガイド」点字版、大きな活字版、音声CD版を作成し、利用に供した。 イ 地下1階のトイレについて、洋式化に加えて多機能トイレの整備等を含めた全面改修を行い、地下1階多機能トイレに自動ドア、オストメイト、多機能シート（成人用おむつ替えベッド）を新設し、2月より供用を開始した。	3	
(大阪歴史博物館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ 増加する海外からの来館者対応のため、万博に向けた改修計画のなかでトイレの洋式化などの調整を進める。 ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。	10	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。更なる改善点については情報収集を行った。 イ トイレの洋式化は、改修計画を作成した。 ウ AED（自動体外式除細動器）を1階ならびに5階に設置した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施した。	3	

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」 (2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信 博物館等の魅力を広く伝えるため、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携する ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 ・博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用 ・各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 ・ＩＣＴ等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 ・他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用 ・各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信						
博物館等の魅力を広く伝えるため、次の通り、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関と積極的に連携する。						
【各館及び法人(以下、「各館等」という。)の基礎的活動の充実を目指す事項】 11 常設展における展示替え 常設展示について、次の方針のもと、展示更新をはじめその充実に努める。			【機構の評価】 美：2、自：2、陶：2、科：2、歴：3 コロナ禍のため、休館や、入場者数の制限などから当初の目標人数から歴史博物館を除く各館において目標人数に届かなかった。	2		2
(大阪市立美術館) 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。	(大阪市立美術館) コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など8,400件をこえる館蔵品と、社寺などからの寄託品から作品を選定して展示する。 ア 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示に取り組む。 イ 館蔵品及び寄託品を紹介するため、本年度は「桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相」、「戦国武将像」「春夏養陽—中国の書画—」「雕刻時光 北魏の石像仏教・道教彫刻」「受贈記念 アンコール・ワットの拓本」などのコレクション展、特集展示を10 本程度実施する。 【令和3年度予算目標】31,000人	11	(大阪市立美術館) ア コロナ禍で一時間閉館を強いられたが、組み直した新企画を加え計11本の展覧会を実施した。 コレクション展単独：2,967人 総入場者：18,200人 イ 左記の5本の他に、コレクション展として「大阪の洋画」「秀麗精緻 明清時代の工芸」「小出三郎」「社寺縁起—聖なるファンタジー」の4企画を開催した。 特集展示として「美の殿堂の85年 大阪市立美術館の展示室」「井口古今堂と近代大阪—船場の表具師と芸術ネットワーク」の新たな2企画を開催した。後者では民間からの助成金を獲得して展覧会リーフレットを作成し、観覧者に無料で配布した。	2		
(大阪市立自然史博物館) 「自然と人間」をテーマにした展示を行い、自然科学研究の進展や、新たな資料やコンテンツの活用に合わせて適時の更新を進める(開館日)。	(大阪市立自然史博物館) 人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマを軸に、最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示に取り組む。	11	(大阪市立自然史博物館) 常設展示の入場者数実績は臨時休館後の6月末以降、順調な推移を見せていたが、夏の緊急事態宣言によって再び大幅に減速した。A. 4～6月の閉館 B.	2		

常設展示室内で、小規模な企画展示を適時実施する。	マで展示する。 ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示などを開催する。 ・テーマ展示「世界一変な火山展」 4/24～5/50 ・ミニ展示「異常巻きアンモナイト」 4月下旬～5/9 ・テーマ展示「砂」 7/24～9/26 ・テーマ展示「メタセコイア展」 10/9～11/7 ・「自由研究展」 12/11～1/30 ・干支展示 1/5～30 ・テーマ展示「岸川椿蔵書」 3/12～4/3 【令和3年度予算目標】232,700人 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化。感染症の蔓延など、実施できない場合には、オンラインコンテンツなどを提供する。	小中学校の校外学習の中止 C. 夏の大規模展覧会の時期の緊急事態宣言 D. 大阪自然史フェスティバルの中止などの影響があり、無料入館者数が特に減少を見せていたが、全体的には回復を見せており、常設展の入館者数は176,530人（うち、有料 92,220人、無料 84,310人）とR2年度に比べ大幅な回復を見た。 【令和2年度実績】 入館者数 102,488人（うち、有料 48,361人、無料54,127人） ア テーマ展示・コーナー展示を実施 ・【テーマ展示】「世界一変な火山」展 休館の影響で 6月21日から7月4日まで実施 ・【ミニ展示】「和泉層群から41年ぶりに新種記載された異常巻きアンモナイト」 6月21日から7月18日まで開催 ・【テーマ展示】「砂浜の砂とその自然」 7月24日から9月26日まで開催 ・【ミニ展示】再発見された「カワツルモ」 6月26日から8月29日まで開催 ・【ミニ展示】「ホシウスバカゲロウの新種が発見・記載されました」 7月3日から8月1日まで開催 ・テーマ展示「メタセコイア命名80周年記念展」10月9日から11月7日まで開催 ・テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」令和3年12月11日から令和4年2月27日まで開催 ・干支展示「寅年」 令和4年1月5日から～30日まで開催 ・テーマ展示「岸川椿蔵書」 令和4年3月12日から4月3日まで開催 イ 子どもワークショップを37回分企画したが、コロナ禍の影響により実施形態を変更して開催するケースが目立った。オンラインによる実施も試行した。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) 独自の展示方法による魅力ある館蔵品の展示を行う。	(大阪市立東洋陶磁美術館) 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌（イ・ビョンチャン）コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示する。 ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。 【令和3年度目標】28,200人 イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催する。 ・「柿右衛門—Yumezuras セレクション」2020年11月21日～2021年7月25日	11 (大阪市立東洋陶磁美術館) 国宝2点、重要文化財13点を含む世界有数の東洋陶磁コレクションである安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌（イ・ビョンチャン）コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を自然採光や自然光に近いLED照明、独自の免震装置、日英解説などにより展示した。 【令和3年度実績計】18,655人（4月～2月） ※2月7日から 改修工事休館 ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示した。 イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品及び借用作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンル	2	

	・受贈記念「柳原睦夫 花喰の器」 8月11日～11月28日 ・「福井夫妻コレクション 古九谷」 12月1日～2022年2月6日		・「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」 8月11日～2月6日 ・「福井夫妻コレクション 古九谷」 8月11日～2月6日 ※常設展示（コレクション展）と関連したテーマ展示を新たに企画し、文化庁支援事業に申請して採択（5,851千円）され、実施した。 ・文化庁「ARTS for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」〈大阪市立東洋陶磁美術館コレクション展テーマ展示「加彩婦女俑に魅せられて」〉9月28日～12月26日 【令和2年度実績計】32,221人（6月～3月） ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示した。 イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催した。 ・「現代の天目—伝統と創造」6月2日～11月8日 ・「柿右衛門—Yumezurasセクション」 11月21日～令和3年7月25日	
(大阪市立科学館) 物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料及び実験装置、観測装置の実物資料の展示、並びに体験型展示を行う（開館日）。展示化が困難な現象やより展示内容を掘り下げた現象について、サイエンスショーを通じて演示する。	(大阪市立科学館) 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで模型・装置・実物などにより展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。 【令和3年度目標】常設展示入場者 143,000人 ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験展示を設置する。 イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3か月に1本実施する。	11	(大阪市立科学館) 新型コロナウイルス感染症拡大防止による全館休館（4/26～6/20）と館内設備改修による全館休館（8/23～2/1）に伴い、展示場公開も休止した。常設展示入場者は87,815人。 ア 常設展示場では、実物資料静展示や体験型展示を222点設置しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染リスクの高い展示物8点の公開を休止した。展示物は、随時感染リスク軽減措置を図っており、対応が完了したものは供用を再開したほか、長期休止を余儀なくされている3点については代替の展示内容に変更して公開した。 イ サイエンスショーの演示回数は354回。8月にはサイエンスショーで満席が続いたため、特別にショーを1回追加して対応した。またサイエンスショーのリアルタイム配信やYouTubeによる動画配信を行い、コロナ禍で会場の定員を減らしたことへの対策を行った。	2
(大阪歴史博物館) 「都市おおさかの歴史」をテーマに展示を行うとともに、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催する（開館日）。	(大阪歴史博物館) 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。 【令和3年度目標】常設展示入場者 65,100人 ア 最新の調査研究成果にもとづき、季節や時宜に応じた展示、話題性のあるテーマ・内容の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。	11	(大阪歴史博物館) 令和3年度実績 65,167人 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から8月31日時点で累計57日間の臨時休館を余儀なくされた。再開後も訪日外国人旅行者の激減、国内の来館者の減少は続いているものの、常設展示入場者数は、前年度実績を上回り（前年比143.4%）、今	3

	イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。 ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。 ・「古代の都 難波京」5月19日～7月12日 ・「豊臣秀吉ゆかりの品々」7月14日～8月30日 ・「大阪の太子信仰 - 旭区太子橋の太子講資料 - 」9月1日～10月25日 ・「新発見！なにわの考古学2021」10月27日～12月20日 ・「大大阪、その西へ - 湾岸・河口地域の変遷史 - 」12月22日～2月21日 ・「新収品お披露目展」2月2日～4月18日	年度目標(65,100人)を達成した。 【令和2年度実績】 45,463人 ア 常設展示の更新は30件を実施。時宜に応じた展示として「東京オリンピック聖火リレートーチ」を展示、テーマ展示「近代化となにわの商い」を実施、また特別展と連携して生人形の展示を実施した。 イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。 ウ 特集展示は、下記の展示を実施した。 ・「大阪市の指定文化財」令和3年3月24日～5月17日 ・「古代の都 難波京」5月19日～7月12日 ・「豊臣秀吉ゆかりの品々」7月14日～8月30日 ・「大阪の太子信仰 - 旭区太子橋の太子講資料 - 」9月1日～10月25日 ・「新発見！なにわの考古学2021」10月27日～12月20日 ・「大大阪、その西へ - 湾岸・河口地域の変遷史 - 」12月22日～2月21日 ・「新収品お披露目展」令和4年2月23日～4月18日		
12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 特別展等について、次の方針のもと、利用者ニーズにも配慮した魅力的な企画の実現に努める。		【機構の評価】 美：2、自：3、陶：2、科：3、歴：2、中：4 コロナ禍のため、休館や、入場者数の制限などから当初の目標人数から各館において目標人数に届かなかった。しかしながら、自然史博物館では、会期の最大限の延長や、VRでの公開等、様々な試みを行った。	2	2
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 本年度6本の特別展のうち、次の4本について、国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携し、自主企画で実施する。 ・「豊臣の美術」4月3日～5月16日 開催日数39日 - 天下統一を果たし、大坂に政治拠点を定めた豊臣秀吉、およびその一族が関わった桃山時代の美術工芸の粋を総覧する。 【令和3年度予算目標】30,000人 ・「揚州八怪」6月12日～8月15日 開催日数57日 - 清朝中期、揚子江のほとりに繁栄した揚州に集った「揚州八怪」と呼ばれる個性的な書画家たちの魅力を紹介。国内の蔵品に加え上海博物館から名品を借用する。 【令和3年度予算目標】39,900人 ・「聖徳太子展」9月4日～10月24日 開催日数45日 - 令和4年(2022年)の聖徳太子没後1400年にあわせ、聖徳太子の生涯をたどり、没後の聖徳太子信仰の広がりを紹介する。	12	2	(大阪市立美術館) ア コロナ禍により昨年に続き入場者数が伸びない状況が続いた。令和2年度の「天平礼賛」と同様、「揚州八怪」展や「聖徳太子」展でも文化庁から多額の補助金を獲得できた。 ・「豊臣の美術」(自主企画) - コロナ禍により4月25日以降は閉館を余儀なくされ、僅か19日間の開館にとどまった。 - 会期前半に予定していた2度の講演会と2度の見どころレクチャーは開催した。 - 入館者数：7,840人 ・「揚州八怪」(自主企画) - コロナ禍のため、4月に本展の核である上海博物館の作品が借入できない事態に到り、展示計画や広報などに大きな変更を強いられた。 - また6月21日以前ののべ8日間は閉館となった。 - 入館者数：7,618人 - 文化庁のAFF(ARTS For the Future)補助金を申請して、8,105,000円を獲得できた。※ ・「聖徳太子展」(自主企画) 「揚州八怪」展に引き続きコロナ禍の影響が続き、

	【令和3年度予算目標】73,000人 ・「第67回全関西美術展」 2月5日～2月15日 開催日数10日 大阪市立美術館が関西圏の作家に出品を募集し、審査をして開催する公募展覧会。 【令和3年度予算目標】6,800人		厳しい状況であった。 入館者数：30,042人 文化庁の日本補助金を申請して、20,000,000円を獲得することができた。※ ※ 外部団体と共同し、実行委員会として獲得 ・「第67回全関西美術展」（公募） 多人数が同時に参加する作品審査を行う必要があり、オミクロン株の感染拡大によりクラスター発生の危険を回避するために中止した。		
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館) 本年度3本の特別展のうち、これまでの調査研究の成果を活かし、関係機関の協力を得て、自主企画展を1本実施する。 ・特別展「アンダーグラウンド展(仮)」 4月24日～6月20日 ※新型コロナウイルス感染症の影響により開始日を変更。 目で見ることのむずかしい地面の下の世界を紹介する。具体的に大阪の地下を対象とすることで、見えない地下をリアリティを持って感じてもらうとともに、大阪の地史への興味や地学そのものの研究手法への理解を深めてもらう。 展示品は当館所蔵標本を中心とし、適宜文化財研究所などの成果品を用いる。 【令和3年度目標】入場者数 6,915人	12	(大阪市立自然史博物館) これまでの調査研究の成果を活かし、関係機関の協力を得た自主企画展として「大阪アンダーグラウンド ―掘ってわかった大地のひみつ―」を開催したが、コロナ禍により開催期間がわずか8日間となった。このため、このままでは「大阪の地史への興味や地学そのものの研究手法への理解を深めてもらう。」という趣旨が達成できないと考え、VR展示として作成し、公開を続けた(3月現在約4,200アクセス)。入館者数 1,241人(うち、有料 559人、無料 682人フリーパス販売枚数 8枚)	3	
(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立東洋陶磁美術館) 以下の2本の特別展を実施する。 ・「黒田泰蔵」2020年11月21日～2021年7月25日、開催日数206日うち2021年度100日 陶芸家の黒田泰蔵(1946-)は、静謐な白磁の造形で世界的に知られている。本展ではこれまで国内の美術館では紹介される機会の少なかった黒田の活動を、イセ文化基金所蔵品と当館所蔵品を中心に、白磁作品約60点で紹介する。 【令和3年度目標】9,800名 ・「希瀬廬コレクション 清朝陶磁の精華(仮称)」8月11日～2022年2月6日、開催日数148日 本展は、香港在住の清朝陶磁コレクターとして著名な希瀬廬(きうんろ)氏の所蔵品から、日本ではほとんど見ることでできない日本初公開の清朝陶磁を初め、明・清の宮廷用磁器や玉器など86点を紹介する。 【令和3年度目標】18,400名	12	(大阪市立東洋陶磁美術館) ・「黒田泰蔵」(自主企画) 令和2年11月21日～令和3年7月25日、開催日数206日(令和3年度100日) 【令和3年度入館者実績】6,766名(有料率73%) 【令和3年度開館日数実績】51日(4/25-6/21臨時休館) 現役の日本人作家としては当館で初めての特別展となった本展は、白磁作品で世界的に知られる陶芸家の黒田泰蔵(1946-2021)の作品を紹介した。本展に先立って黒田作品の寄贈が相次ぎ、館蔵品として22点を出品することができた。これに加え、イセ文化基金所蔵品40点、個人蔵1点、そして作家蔵1点の計64点の代表作を展示した。本展にはイセ文化基金から協賛金250万円をいただいた。また、安藤忠雄氏の協力を得て新聞やウェブの取材を受け展覧会評の掲載につなげた。緊急事態宣言期間中は、作家のアトリエを紹介する映像や、作品解説のウェブ公開など、オンラインで展覧会を積極的に紹介し、InstagramなどSNS広報によって新たな来館者獲得に努めた。また、オリジナルグッズの委託販売など、企業との協力を行った。 ※・「希瀬廬コレクション 清朝陶磁の精華」 8月11日～2022年2月6日、開催日数148日 本展は、新型コロナウイルス感染症により開催が	2	

			困難であることから延期となった。また、本展の延期に伴い、代替として特集展「柳原睦夫展」と特集展「古九谷展」を、それぞれ企画展として同時開催した。会期中に柳原氏と華道家・杉田一弥氏、当館館長の三者によるトークイベントを無観客で実施し、収録動画をYouTubeで公開した。ウェブ版美術手帖をはじめ、これまでに利用しなかった有料広報媒体も活用し、InstagramなどSNS広報によっても展覧会情報の発信を継続した。 - 企画展「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」 8月11日～2022年2月6日、開催日数148日 - 企画展「福井夫妻コレクション 古九谷」 8月11日～2022年2月6日、開催日数148日 【入館者目標値】18,400名 【入館者実績】11,889名 【令和2年度実績】 「天目—中国黒釉の美」（自主企画） 6月2日～11月8日、開催日数138日 【入館者目標値】22,600名【入館者実績】24,524名 コレクションを活用し、研究成果を反映した本展は、回転ケースや踏台など国宝「油滴天目」などの見せ方に工夫をこらし、また最新の撮影技術による画期的な図録や新たな鑑賞方法を開拓した。さらに、現代の天目を集めた特集展を同時開催し、特別展と関連させた企画内容は好評で、新規層の取り込みにもつながった。その他、特集展のQRコードによるウェブ解説やデジタル図録のHPでの無償頒布、関連高額グッズの販売、記念講演会のチケットのネット予約・販売など新たな試みにも積極的に取り組み、効果を上げた。この他、会期の長期化や支出削減などの取り組みもあり、結果として目標を超える収益増、入館者増となった。また、ウェブアンケートを新たに実施し、迅速なサービス改善に務めるとともに、従来の顧客満足度に代わり、顧客ロイヤルティを数値化する指標を導入した。 ※新型コロナウイルス感染症のため特別展「上海博物館所蔵 明時代“空白期”の景德鎮磁器」の開催は中止となり、天目展の会期変更、長期化による開催で対応した。	
(大阪市立科学館) プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、定期的にテーマを変え、実施する(開館日)。 小～中規模の企画展を開催する(年1～2回程度)。	(大阪市立科学館) ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、特別プログラムを年1本制作する。 【令和3年度目標】常設展示入場者 137,000人 イ 企画展「アインシュタインがみた大阪」(仮)、「科学とアート」(仮)を実施し、世界的な科学者の業績や、一般に広く利用される科学知識について紹介することにより、市民の興味を喚起する。 【令和3年度目標】開催期間中展示場 観覧者数 30,000人	12	(大阪市立科学館) 新型コロナウイルス感染症拡大拡大防止による全館休館(4/26～6/20)と館内設備改修による全館休館(8/23～2/1)に伴い、プラネタリウム事業も休止した。 ア 一般投影：3か月毎に2パターンずつプログラム更新し、582回実施した。 ファミリータイム：幼児から小学校低学年の子どもとその家族を対象としたプログラムで、199回実施した。 学習投影：小中学校の天文分野の学習内容に準拠し	3

	ウ プラネタリウムや展示等の各種事業において、学芸員の専門性を生かして、幅広い層にアピールするプログラムを開発する。		た学校団体専用プログラムで、19回実施した。 その他：学芸員の専門性を活かしたプログラム「学芸員スペシャル」を31回、小学校の夏休み自由研究むけの特別投影を1回実施した。 イ 企画展として、「もっと知りたい！アインシュタイン」(6月22日～8月22日、期間展示場入場者数45,905人)、「色と形のふしぎ」(2月2日～5月28日(予定)、今年度の期間展示場入場者数36,384人)を実施した。その他、アトリウムとホワイエ(無料スペース)において以下の期間限定展示を行った。 ①「蔵出しコレクション展2021」(3/31～7/18) 今年度の期間入館者数：38,201人 ②「夏休み”mini”“気象台」(7/21～8/22) 期間入館者数：63,654人 ③「蔵出しコレクション展2022」(2/2～5/28(予定)) 今年度の期間入場者数：74,770人 ウ プラネタリウムにおいて、学芸員がそれぞれ企画・制作したプログラムで投影を行う特別プログラム「学芸員スペシャル」を49回実施した。また、サイエンスショーは3か月ごとにプログラムを更新し、354回実施した。	
(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。	(大阪歴史博物館) ア 本年度は2本の特別展のうち、下記の1本を自主企画によって実施する。 ・「難波をうたう - 万葉集と考古学 - 」 10月2日～12月5日、開催日数56日 万葉集には古代難波の風景や宮殿、大宮人や遣唐使、防人の詠んだ多くの歌が綴られ、人々の思いを今に伝える。一方で、発掘された土器や木簡、宮殿の柱跡といった遺物・遺構は、過去の世界を具体的に示す。本展では、万葉集の助けを得ながら、考古資料を多角的にとらえ、古代難波の実像に迫る。これまでの考古ファンだけでなく、万葉集や文学に関心を寄せる方にも楽しめる展示とする。 【令和3年度予算目標】23,000人 イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を実施する。 ・「動物絵画はお家芸 - 大坂・森派の絵描きたち - 」(自主企画) 4月3日～5月17日、開催日数40日 大坂に住み、リアルな猿の絵を描いて名を高めた江戸時代の絵師・森狙仙。その一派の作品を紹介する。本展は令和2年度にコロナ禍によりわずか3日で中断した特別展「猿描き狙仙三兄弟」を、館蔵品を中心に再構成したものである。 ・「大阪町めぐり 喜連」(共同企画) 1月26日～3月21日、開催日数49日	12	(大阪歴史博物館) ア 下記の自主企画の特別展を開催した。 ○特別展「難波をうたう - 万葉集と考古学 - 」 入館者数 16,026人 ・目標 23,000人 ・会期 10月2日～12月5日 開催日数56日 ・図録にかえて展示内容を詳細に紹介する展示ガイドブックを発行するなどの工夫を凝らした。 イ 2本の特別企画展を予定し、年度初めの特別企画展「動物絵画はお家芸」が開始19日で、緊急事態宣言のため中止となった。 ○「動物絵画はお家芸 - 大坂・森派の絵描きたち - 」(自主企画) 会期：4月3日～24日(開催日数19日) (当初予定 4月3日～5月17日、開催日数40日) ・令和元年度末に開催し、コロナ禍により、3日間で中止となった特別展「猿描き狙仙三兄弟」で蓄積した資料や情報等を活用して実施した。 ○「大阪町めぐり 喜連」 (喜連村史の会と共同企画) 会期：1月26日～3月21日 ・当館学芸員と喜連村史の会とが10年以上継続してきた研究会の成果展であり、市民の研究発表の場としての側面を持つ。	2

	大阪市平野区に所在する「喜連」は、古代の「伎人郷」と伝えられ、中世の環濠集落、近世には綿作の中心地として知られる。展示では、地元に残る古文書等を通じて、特徴ある「喜連」の歴史を紹介する。				
(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を、新聞社・テレビ局などと連携して開催する。	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館の開館にあたり、5階及び4階すべての展示室を活用し、テレビ局と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する開館記念企画展を開催する。 ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」(自主企画・特別展) 2月2日～3月21日、開催日数42日 【令和3年度予算目標】84,000人(再掲)	12	(大阪中之島美術館) ア 開館記念としてNHK及び読売新聞社との共同出資による展覧会を実施し大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介することができ、来館者数は目標を大きく上回った。 【来館者：126,310人】 ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」(自主企画・特別展) 2月2日～3月21日、開催日数42日 【令和3年度予算目標】92,000人	4	
13 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。 踏査や見学会を通じて、実物に接する機会を提供する。 ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：3、中：3 中：3、経：3 コロナ禍のため、令和2年度に引き続き対面行事が大きく制約される中、ZoomやYouTubeの利用などオンラインでの取り組みに活路を見出し、各館事業に取り組んだ。特に自然史博物館ではオンライン事業に切り替えることで新規ユーザーを開拓し、また、科学館ではオンライン事業を新規導入し、質、量ともに遜色ない事業を展開できた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会、ギャラリートーク等を開催する。	13	(大阪市立美術館) ア「豊臣の美術」展では2回の講演会と2回の見どころレクチャーを実施した。 ・「揚州八怪」展では、4回のレクチャーを行った。また、上海博物館の動画3本、茶事動画3本、学芸員インタビュー動画8本、4コマ漫画8話を作成した。 ・「聖徳太子」展では講演会1回、舞楽公演1回、絵解き法話10回(好評につき追加)+英語版1回を行った。 ・「メトロポリタン美術館展」では、1回の特別公演会と2回の講演会を実施した。 【令和2年度実績】 講演会：2回 オンラインでのミニギャラリートーク：3回	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。 ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。	13	(大阪市立自然史博物館) ア 野外観察会、室内実習、ワークショップなど合計174回を企画したが、緊急事態宣言の期間、対面行事は実施することができなかった。結果、 ・コロナにより中止となった行事78回 ・オンライン形式など形式を変更して実施56回 ・新規にオンラインで企画 33回 実施した行事の参加者数は2,139名であった。オンライン行事はこれらに加え、ライブ参加者1,795名、再配信約1万5千回を超えた。自然史フェスティ	4	

			バルやジオカーニバルも中止となり、対面の行事は人数制限など厳しい状況となった。中止になった行事の代替としてTwitterやホームページによるコンテンツ提供を「おうちミュージアム」と連携して行った。また、YouTubeへ動画コンテンツを積極的に公開し、4月以降新規に公開した26番組で約1.4万回再生された。大阪市立自然史博物館チャンネル全体では令和3年4月から4年3月末までで10.1万回再生、1.3万時間再生、1,113名チャンネル登録者増加となった。 (令和2年度実績 7万5千回の再生、7,222時間の再生時間、742名のチャンネル登録者増加) イ 大阪アンダーグラウンド展に関連し、学芸員によるオープンセミナーを2回、これを含め学芸員のセミナーを12回企画しオンライン実施した。合計861人がライブ視聴、1.3万回再生。 ウ 地学団体研究会との共催講演会を5月に特別展関連企画として実施198人ライブ参加、再生回数1363回。さらに貝類学会と共催した公開講演会が5月に行われた127人参加(再配信なし)。12月に関西自然保護機構との共催webシンポジウムでは87人ライブ参加、再生回数781回であった。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する。感染症予防対策のため、オンラインによる実施等を検討する。 【令和3年度目標】2回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。感染症予防対策のため、オンラインによる実施等を検討する。 【令和3年度目標】1回 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。 【令和3年度目標】2022年2月頃予定	13	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などの開催は感染症予防対策のため主に動画コンテンツを制作して配信した。オンラインによる実施により感染症予防対策を行うと同時に、これまで実来場が叶わなかった幅広い利用者層を想定した事業として実施した。実来場1回、オンライン配信4本 【令和2年度実績】実来場2回、オンライン2回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会などは感染症予防対策のため、オンラインでの講演を行った。オンラインによる実施を通し、実来場が難しい利用者に対しても参加の機会を提供した。2回(オンライン) 【令和2年度実績】2回(オンライン) ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」をオンライン開催(令和4年3月5日)で行った。 【令和2年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」をオンライン開催(令和3年3月7日)で行った。	3	
	(大阪市立科学館) ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。 イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。 ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。	13	(大阪市立科学館) ア 学芸員等による各種実験教室・講座として、天体観望会を2回(うち1回はオンライン事業)、大人の化学クラブをのべ2回、中之島科学研究所コロキウムを3回、夏休みの自由研究教室を3回開催した。会員制のジュニア科学クラブは、会場実施とオンライン実施を併用して月1回開催した。	4	

	る。 エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。 オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。		。また、新規事業として、文化庁の補助金も活用してオンライン事業の環境整備を進め、当初の計画になかった「連続オンライン講座」(全11回)、「金曜星空トーク」(週1回)を9月から1月に実施することができた。 【令和2年度実績】8件 イ 5月より月1回、科学デモンストレーターによるオンライン事業「オンライン科学実験・工作教室 身近な科学、再発見！うちの科学を探して遊ぼう！」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーは休止した。 【令和2年度実績】 展示ガイド活動、エキストラ実験ショー、ともに実績なし。 ウ アウトリーチ事業では、5件実施した。 【令和2年度実績】5件 エ 市民からの問い合わせ対応は随時行った。		
	(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえるなにわ歴博講座」を継続的に実施する。 イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する。 ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する。 エ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。	13	(大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は、コロナウイルスの感染拡大状況を見据え、上半期の開催は見送り、12月に3回、1月から3月に3回(計6回)開催した。 【令和2年度実績】1期3回(165人) イ 感染症対策としてガイドレシーバーを利用した考古学入門講座「考古学散歩」を実施した(1期2回19名、第3回は緊急事態宣言のため中止したが12月に実施、19名)。漢文講座、古文書講座は、コロナウイルスの影響で今年度の実施を見送った。 【令和2年度実績】 ・考古学入門講座、漢文講座は開催せず ウ 特別展「あやしい絵展」 ・スライドトーク 157人 ・声優トークショー 126名 ・講演会 85人 特別展「難波をうたう」 ・講演会 76名 ・スライドトーク 53名 特別企画展「大阪町めぐり 喜連」 ・スライドトーク 2回：計140人 特集展示「新発見！なにわの考古学2021」 ・講演会 60名 エ 11月3日には開館20周年記念として「館長講演会 細川ガラシャと大坂」を実施(90名)	3	
	(大阪中之島美術館) ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施する。(開館前より継続実施)(再掲)	13	(大阪中之島美術館) ア PFI事業者、外部機関と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施した。 ・展示：中之島三井ビルディングとの協働による「中之島アートウォール」(4月～) ・トークイベント：「アートとデザインの境界を語る vol.1」(8月：オンライン・実来場の併用)	3	

			・シンポジウム：国際ミーティング「都市のアーカイブ」（9月：オンライン・実来場の併用） ・キッズプラザ大阪との協働による子どものためのラーニングプログラム（10、3月） ・「生きた建築ミュージアムフェスティバル」への参加（10月） ・おおさか創造千島財団との協働による現代美術イベント（11月） ・開館記念トークイベント（11、12、1、2月） ・開館記念ラウンドテーブル（3月） ・開館記念シンポジウム（2月） ・クリエイティブアイランド中之島実行委員会との協働によるシンポジウム（2月） ・大阪市、文案、現代美術作家との協働による舞台芸術イベント（2月） ・NHKとの協働による府内各所で開催されるコレクションについての連続講座（2月） ・開館記念「超コレクション展」における子どものためのラーニングプログラム「いろ色 いろんな作品たち」（2月～3月） ・現代美術作家との協働による市民参加型作品制作（3月）		
	（事務局経営企画課） ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。 イ 大阪市立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ（6講演）、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。 ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。	13	（事務局経営企画課） ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を1～2月に16回実施した。また、著作権上の問題のない12講座（期間限定1講座含む）については、アーカイブ化し、YouTubeで随時閲覧できるようにした。 イ 大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、3月に6講座した。また、3月5日にシンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く～大坂/阪 画壇再考～」を実施した。 ウ 3月に1件実施 【令和2年度実績】 2件	3	
14 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する。		14	【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3 コロナ禍ではあったが、各館とも計画通り、展覧会ごとに図録を発行し、シリーズ・定期刊行物を発行するなど堅実に取り組んだ。	3	3
	（大阪市立美術館） ア 研究紀要を刊行し、ホームページ上で公開する。【令和3年度予算目標】1冊 イ 特別展の図録を作成・販売する。 【令和3年度予算目標】5冊（うち独自作成3冊、作成協力1冊）	14	（大阪市立美術館） ア 研究紀要を3月に刊行・公開した。 【令和2年度実績】研究紀要年1回 イ 「豊臣の美術」（独自作成）、「揚州八怪」（独自作成）、「聖徳太子」（独自作成）、「メトロポリタン美術館展」（作成協力）の4回の特別展で図録を作成・販売した。	3	

	ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。 【令和3年度予算目標】2回		【令和2年度実績】独自作成2冊 ウ 広報誌『美をつくし』を9月・3月に発行。 【令和2年度実績】2回 エ 民間からの助成金により特集展示「井口古今堂と近代大阪」展リーフレットを作成した。		
	(大阪市立自然史博物館) ア 研究報告、自然史研究の発行とホームページ上の公開を進める。 イ 収蔵資料目録・ミニガイドなどを継続的に発行する。 ウ 特別展「アンダーグラウンド」解説書を作成する。鳥の巣展の解説書を準備する。 エ 友の会発行の月刊誌Nature Studyを12冊監修、編集する。 オ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。 カ SNS (Facebook, Twitter) やブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。	14	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館研究報告76号を発行し、リポジトリに掲載した。 また、自然史研究4巻5号を発行し、リポジトリに掲載した。 【令和2年度実績】各1冊発行 イ 収蔵資料目録53集発行予定、ミニガイドNo. 34「砂浜の砂をのぞいてみたら」を発行した。 【令和2年度実績】収蔵目録1冊、ミニガイド1冊 ウ 10月に館報45号を発行し、リポジトリに掲載した。 エ 特別展、大阪アンダーグラウンド展の解説書を発行した。令和4年度発行の鳥の巣展解説書の準備を行った。 【令和2年度実績】「大阪アンダーグラウンド」展発行準備 オ 友の会発行の月刊誌Nature Study67巻4号から9号を発行済み、10-12号および68巻1-3号の計12冊を発行した。 【令和2年度実績】12冊 カ 共著書籍の出版が発行された。今年度数冊予定(令和2年5冊) キ HPでの新着情報60件、Twitter 235件、FaceBook180件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを10330人がフォロー、FaceBook 2564人がフォローした。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信した。投稿数は大幅に増加した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行販売などを行う。 【令和3年度目標】編集発行1件、編集1件 ・特集展「福井夫妻コレクション 古九谷」展図録の編集 ・特集展「柳原睦夫 花喰の器」展図録の編集、発行 ・館蔵品図録『大阪市立東洋陶磁美術館コレクション選』の販売 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。 【令和3年度目標】2022年2月頃発行予定	14	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行った。編集発行2件、編集2件 ・企画展「柳原睦夫 花喰ノ器」展図録の編集、発行、販売 ・企画展「福井夫妻コレクション 古九谷」展図録の編集、販売 ・館蔵品図録『大阪市立東洋陶磁美術館コレクション選』の販売 ・デジタル冊子『加彩婦女俑に魅せられて』の編集発行、HP上での無償頒布 【令和2年度実績】編集発行3件、編集2件、再版1件 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、報告書「李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」を印刷・発行。あわせて	3	

		、同報告書のオンライン開催用カラーPDF版を作成・配布した。		
(大阪市立科学館) ア 学芸員の調査研究成果などを、学会発表や研究報告の出版、HPを通じて公開する。 イ 月刊誌「うちゅう」を発行する(年12回)。 ウ 展示解説の動画配信やSNSツールを利用した情報発信を行う。 エ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。	14	(大阪市立科学館) ア 大阪市立科学館研究報告誌第31号を出版した。 また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表(口頭、論文を含む)を7件行った。 イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。 【令和2年度実績】12冊発行 ウ ホームページ上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」124件を配信した。またサイエンスショーのライブ配信を実施した。Twitterでは、「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」、「館長の散歩@科学館」の3つのアカウントを開設し、情報発信を行った。 エ ホームページ上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌などのオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。 また、Twitterでは、4～6月と8～2月の休館期間中において通常の発信に加え、ハッシュタグ[#エア大阪市立科学館]を付けて、科学情報を積極的に発信した。またYouTube上において、「学芸員の展示場ガイド」の他にも、科学実験動画、天文学習用動画、サイエンスショーや金曜星空トークの見逃し配信なども行った。	3	
(大阪歴史博物館) ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。 イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。 ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。 エ 特別展の図録を作成する。 オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。	14	(大阪歴史博物館) ア 研究紀要第20号を編集・発行した。第19号からデータ公開をホームページから、総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」での公開に統一した。 【令和2年度実績】研究紀要 第19号 イ 共同研究報告書16、館蔵資料集18「田中半次郎関係史料」を発行した。 【令和2年度実績】共同研究報告書15、館蔵資料集17「旧大阪市都市工学情報センター所蔵写真 大阪城とその周辺」 ウ 令和2年度の年報を発行し、ホームページに掲載した。 【令和2年度実績】「大阪歴史博物館年報」平成31(令和元)年度 エ 特別展「あやしい絵展」は巡回展のため図録販売を行った。「難波をうたう」は図録(展示ガイドブック)を作成し、販売した。 【令和2年度実績】2本の巡回特別展において企画参画し作成 オ 開催した6本の特集展示で作成・配布した。 【令和2年度実績】開催した4本の特集展示において作成・配布した(中止の特集展示1本は作成のみ)	3	

	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイト等を通じて公開する。 イ 特別展の図録を作成・販売する。	14	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイトにて調査研究成果を発信するページを作成公開した。また、大阪中之島美術館YouTubeチャンネルや外部機関によるYouTubeチャンネルによってトークイベントをアーカイブ配信をした。 ・外部研究者との共同研究による報告書「写真・映像による具体美術協会の研究ー戦後美術史研究の基盤構築と活性化の試みとして」を掲載した。 ・「中之島dialogue for 2022 菅谷富夫×松本 隆」のアーカイブを配信した。 ・パナソニックミュージアム3周年記念トーク「歴史に残るデザインの理由」のアーカイブを配信した（外部サイト）。 イ 開館記念展の図録を作成した。	3		
15 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用 博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸し出し等を行う。 博物館等資料の館外研究者への特別研究や、図書等の貸出しの対応を行う。 他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。 企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借用し、有効活用する。			【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：4、歴：3 各館と計画通りに実施し、コロナ禍ではあったが美術館では自主企画の特別展、特集展示が多かったため借用が前年に比べ約2.5倍となった。 また、科学館では、独自開発の企画展を全国に展開した。	3	科学館独自の企画展（南部楊一郎生誕100周年企画展）が機構として初めて全国展開したということが高く評価できる。	4
	(大阪市立美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、各館への作品の貸し出し及び借用を行い展示の充実に努める。	15	(大阪市立美術館) ア 貸出：47件95点 借用：豊臣73、揚州57、井口62、聖徳太子203、メトロ65、計460点 【令和2年度実績】貸出107点、借用181点	4		
	(大阪市立自然史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。	15	(大阪市立自然史博物館) ア 国立科学博物館で開催された「植物」展などに多数の貸し出しを実施した。その他、研究目的の貸し出しを多数実施した。 また、大阪アンダーグラウンド展には京都大学阿武山地震観測所や和歌山県立自然博物館などから貸し出しを受けた。 【令和2年度実績】貸出等10件	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行う。	15	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努めた。作品貸出にあたり、調査希望のあった作品調査の対応を行った。 貸出件数6回、貸出作品数計151件 【令和2年度実績】貸出件数5回、貸出作品数計13件（うち海外分1回9件） イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行った。 ・柳原睦夫展：国内個人コレクター等所蔵作品	3		

			・古丸谷展：国内個人コレクター所蔵作品 【令和２年度実績】 ・天目展：国内個人コレクター等所蔵作品 ・黒田泰蔵展：国内個人や財団コレクター所蔵作品 ・特集展：国内個人コレクター所蔵作品		
	(大阪市立科学館) ア 展示物、資料、当館制作の企画展の貸し出しを行う。 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。	15	(大阪市立科学館) ア 展示物貸出実績は１件、資料貸出は３件。 また科学館学芸員が独自企画・制作し、令和２年度に実施したノーベル賞受賞物理学者・南部陽一郎生誕100周年企画展について、今年度は愛媛、愛知、大阪(豊中)の３施設に貸出・巡回した。科学館独自開発の企画展が全国に展開したのは初めての事例である。 【令和２年度実績】２件 イ プラネタリウム番組は、28件に配給した。 【令和２年度実績】32件配給	4	
	(大阪歴史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。	15	(大阪歴史博物館) ア 他館から展覧会のため借用申請を受けた資料については21件114点を許可した。 【令和２年度実績】貸出11件55点 ・国指定重要文化財長原古墳群の出土資料など、常設展示に活用できる考古資料については、文化庁や大阪市教育委員会などから年間借用を実施し、展示の充実に図った。	3	
16 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 法人の複数館が連携・協働した企画展・特別展を開催する。 定期的な刊行物を通じて、法人各館の情報を一元的に発信する。 法人の複数館が共同して外部資金等の獲得し、総合的な調査研究を実施する。			【機構の評価】 美：４、自：４、陶：３、科：４、歴：３、 中：４、事：３ 各館とも機構内の博物館の資料の貸し借りや、事業の共同実施、共同で研修を行うなど、連携を図り、それぞれの強みを生かしながら、より良い事業を実施することができた。特に市立美術館と中之島美術館は調査から展覧会の実施まで一貫して協力した。また、自然史博物館と科学館で「アインシュタイン展」を共同開催した。	4	4
	(大阪市立美術館) ア 特別展において、作品借用など他館と協力する。 イ 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。	16	(大阪市立美術館) ア 「豊臣の美術」において歴史博物館から２件、東洋陶磁美術館から１件、「聖徳太子」において歴史博物館から１件の作品を借用展示した。 イ 中之島美術館の学芸員と共同調査を３年間にわたって行い(継続中)、その成果を特集展示「井口古今堂と近代大阪」に結実させた。展示企画、作品選定、写真撮影、原稿執筆、会場設営、展示作業といった一連の作業を通じて相互協力によって行った。	4	
	(大阪市立自然史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。 イ 将来の特別展示などの企画、及び常設展示の更	16	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立科学館との初の共同開催企画としてアインシュタイン展を実施、分野を超えて科学を伝える展示として両館の所蔵品を含めて展示を構成することができた。残念ながら大阪府緊急事態などのために科学館ボランティアの参画は叶わなか	4	

	新につながる共同研究を模索する。大阪歴史博物館学芸員などと共同研究員の科学研究費課題を申請中。 ウ 共同の展示企画を準備 令和3年7月に実施予定の「アインシュタイン展」に向けて大阪市立科学館と準備を進めていく。 エ 科学研究費に関連して、職員向け研修を機構内に公開して実施 オ 市民向け共同事業の開催		ったが、質問対応などに科学館学芸員が対応するなど両館の共同開催により市民への対応を高めることができた。 また、大阪市立科学館で2月2日から開催中の企画展「色と形のふしぎ」にもモルフォチョウやロマネスコブロッコリーのフリーズドライ標本などを提供。 機構以外には大東歴史博物館やきしわだ自然資料館、咲くやこの花館などに資料展示の協力を行った。 イ 機構内外を問わず、共同研究の科学研究費課題は多数申請した。そのほか情報化会議を開催し、ウェブ展示などの状況を報告した。 ウ 博物画、本草画に関する企画調査を検討した。 エ 科研費従事者への研究者倫理研修として、機構の研究者を対象に、実施した。 オ 「TALK&THINK」など共同事業に参加した。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大阪中之島美術館(準備室)や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、国立国際美術館やこども本の森 中之島など中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を目指す。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。(再掲)	16	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大阪中之島美術館や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行った。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行い、採択された。(再掲) ウ 大阪市立美術館「豊臣の美術」への作品貸出および広報協力を行った。 エ 当館コレクション展関連テーマ展示のシンポジウム及び大阪市立科学館企画展「色と形のふしぎ」関連トークイベントにおいて、大阪市立科学館との連携を行った。 オ 機構内外の学芸員とともにオンラインシンポジウム「リアルとバーチャル、博物館は未来をどう考える」(3/23)に参加し、意見交換や情報共有を行った。	3	
	(大阪市立科学館) ア ノーベル賞受賞100周年記念特別展「アインシュタイン」を自然史博物館と共催で開催する。 イ 自然史博物館と協力して、こどものためのジオ・カーニバルの実施に協力する。 ウ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。(再掲)	16	(大阪市立科学館) ア ノーベル賞受賞 100 周年記念特別展「アインシュタイン」を自然史博物館と共催で開催した。機構内に複数館による特別展の共催は初めての取り組みであり、連携により活動の幅を広げることができた。 イ 自然史博物館と協力して、こどものためのジオ・カーニバルに協力したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。 ウ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募し、採択された。	4	
	(大阪歴史博物館) ア 美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。 イ 機構内各館と連携した展示や共同研究の企画を	16	(大阪歴史博物館) ア あべのハルカスの掲示板に美術館と共同で広報を実施した。 イ 館蔵品3Dデータの作成研究において、機構の情	3	

	模索する。 ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。			
	(大阪中之島美術館) ア 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。	16	(大阪中之島美術館) ア 大阪歴史博物館等の所蔵品を調査・借用し、令和4年度以降、大阪をテーマとした展覧会でその成果を公開する事業の目途を立てた。	4
	(事務局) ア 展示・収蔵環境、オンライン発信の整備等の各館に共通する課題について、情報・意見交換の場、研修を主催し、課題の改善に取り組む。 ・展示・収蔵環境部会の開催 ・情報化ネットワークに関する検討会 等 イ 収蔵資料貸借による展示の充実、共同研究、地域イベントへの参画など連携・協業を通じて、パフォーマンスの向上に取り組む。 ・自然史博物館と大阪歴史博物館学芸員などと科学研究費課題の申請（再掲）。 ・「アインシュタイン展」における自然史博物館と大阪市立科学館との連携（再掲）。 ・自然史博物館「自然史フェスティバル」において、科学館と連携し「ジオ・カーニバル」の実施。 ・東洋陶磁美術館、科学館、大阪中之島美術館準備室の「クリエイティブアイランド中之島」への参画による、クリエイティブコンテンツの開発・創出（再掲）。 ウ 共同広報、連続講座、講演会の開催を主催し、各館、機構のPRに取り組む。 ・インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。 ・Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。 ・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回発行する。 ・各館の概要を案内する「総合案内パンフレット」（多言語）ならびに新たに作成した英文案内冊子を適宜配布する。 ・各館の学芸員等が連携して行う連続講座を約16講演程度開催する（再掲）。 ・大阪市立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ（6講演）、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じて、オンライン配信の取り組みを行	16	(事務局経営企画課) ア オンライン発信にかかる研修会を7月に実施し、今後の資料のVR化などの検討を行った。 イ 市美の特展「豊臣展」における、資料の賃借、また、歴史博物館と東洋陶磁美術館における、資料の3Dモデル化などを実施した。 ・歴史博物館および東洋陶磁美術館の学芸員が共同研究として科学研究課題の申請を行った。 また、科学館と自然史博物館の連携により、「アインシュタイン展」を実施し、所蔵資料も展示するなどの連携を図った。 さらに科学館の企画展「色と形のふしぎ」においても、テーマに沿った自然史博物館の蝶や鉱物の資料の展示をするなど連携を図った。 ウ 文化庁補助金「コロナ禍を契機とした新たな利用形態の開発に向けて都市型地域ミュージアムモデル形成事業」を活用し、広報誌等を通じた各館情報の発信に努めた。 ・広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回/年、発行した。 インターネットのポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載している。令和3年12月、令和4年3月発行の「OSAKA MUSEUMS」では、中之島美術館特集号として発行し、冊数も通常より1万部多い4万部を発行し、より多くの市民に対して中之島美術館に関しての情報を提供した。また、大阪市内の博物館施設を紹介する冊子「大阪市ミュージアムガイド」を作成し、市内の博物館施設と連携を図り、市民への情報発信を行った。 ・Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に実施した。また、特別展などにおいて、発信頻度を増やした。 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を令和4年1～2月に16講座実施した。 ・大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、3月に6講座した。また、3月5日にシンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く ～大	4

	う。(再掲)		坂/阪 画壇再考～」を実施した。 ・中之島美術館が開館するにあたり機構内各館の広報も兼ねた広報を行い、大阪駅での大型シート広告、JR東日本主要30駅への大型広告設置、Osaka Metroとの連携による肥後橋駅での大型シート設置を行った。またJR西日本、Osaka Metroの列車内での動画広報を実施した。		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 17 ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 博物館等資料や図書等のデータベース化を図る。 博物館等資料のアーカイブ化とその公開と活用方法を検討する。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3、中：3 各館とも計画通りに館蔵資料のデジタル化、アーカイブ化を進めた。特に自然史博物館のYouTubeの動画配信事業については、再生回数、再生回数、チャンネル登録者数ともに前年度より増加した。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める(再掲)。	17	(大阪市立美術館) ア 来年度に作品を外部収蔵施設に移動させると写真撮影の作業が容易にできなくなるため、CRS予算を活用して集中的に写真撮影を行い、アーカイブ化に備えた。 撮影：1972カット 【令和2年度実績】撮影：174カット	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 標本資料、自然科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費などを活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。デジタル化のさらなる加速に向けて検討を行う。講演やシンポジウムもYouTubeなどを活用してアーカイブ化、公開する。 イ 標本情報について、Science-Museum Net、GBIFなどを通じた継続的な公開を進める ウ 図書情報について、市立中央図書館などとの共有による活用促進に向けた準備を進める。 エ 研究報告などの研究成果をリポジトリによりインターネット公開を進める。	17	(大阪市立自然史博物館) ア 公開した講演、シンポジウム、ギャラリートークなどの映像(動画資料)を中心にアーカイブ化を進めた。著作権などの契約も進めている。静止画のコンテンツ登録もシステムの改良を検討した。 なお、YouTubeへ動画コンテンツを積極的に公開し、4月以降新規に公開した26番組で1.4万回再生された。大阪市立自然史博物館チャンネル全体では令和3年4月から4年3月末までで10.1万回再生、1.3万時間再生、1,113名チャンネル登録者増加となった。 (令和2年度実績 7万5千回の再生、7222時間の再生時間、742名のチャンネル登録者増加) イ Science-Museum Net、GBIFにも計6,400点の情報を提供した。(件数は国立科学博物館側事情による) 【令和2年度実績】データレコードの追加3,000件 ウ 図書館との情報交換を進めた。 エ 4月1日以降112件の論文・レポートを登録、公開した。 【令和2年度実績】論文・レポートの新規公開84件	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。 【令和3年度目標】新撮画像の既存データベースへの追加登録180件 イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化を進める。 【令和3年度目標】20件	17	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 新規資料撮影については、収蔵品データベースへアーカイブ化を進めた。既存撮影画像については収蔵品データベースへ登録するための準備として整理を行った。 20件(中国陶磁9件、日本陶磁9件、絵画1件、その他資料1件) 【令和2年度実績】119件(中国陶磁13件、韓国陶磁	3	

			4件、日本陶磁38件、近現代陶芸55件、その他工芸2件、その他資料2件、絵画5件) イ 館蔵品のデジタル画像20件を追加撮影し、オープンデータサイトで公開した。 【令和2年度実績】オープンデータ化のために規程の変更や利用規約の新規制定、新規規約の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行い、ホームページでのデジタル画像のアップや容量の調整を行った。 ウ 収蔵品検索・収蔵品画像オープンデータのデータベース2件について、国の分野横断型ポータル「ジャパンサーチ」との連携を実施した。 【令和2年度実績】館蔵資料23件については、「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトの製作・公開(3月26日)に伴い、館蔵資料23件をオープンデータ化した。		
	(大阪市立科学館)	17	ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。	3	
	(大阪歴史博物館)	17	ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。	3	
	(大阪中之島美術館)	17	ア 開館後のアーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。(開館前より継続実施)(再掲) イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。(開館前より継続実施)(再掲) ウ 作品資料の撮影を行う。 ・美術館建物引渡しの後、大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。(再掲) ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲)	3	
18 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用	災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。 他館の博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、経：3 コロナ禍ではあったが、各館とも計画通りに、国内や海外の博物館等と協力・連携を図り、情報の共有を推進した。	3	3

	(大阪市立美術館) ア 国内外の博物館・美術館等との協力により、館藏品・寄託品の効果的な活用と保全を図る。 イ とりわけ上海博物館・台北國立故宮博物院とは連携を結び、相互に所蔵品を貸借する交流展の開催を目指す。	18	(大阪市立美術館) ア 国内諸館からの調査に積極的に協力しており、82件の調査を受け入れ、59件、83点の貸出を行った。 【令和2年度実績】調査88件、貸出107件 イ 上海博物館の特別協力で開催した「揚州八怪」展ではコロナの影響で最終的に作品の借用は叶わなかったが、調査研究・作品選定に始まり、図録やグッズの作成や広報活動などで一貫して相互に協力してきた。今回の残念な結果をふまえて、令和6年に上海に作品を貸出、令和7年に上海から作品を借用して、交換展を行うことをめざすことを契約した。 台北の国立故宮博物院に館蔵の中国書画40を貸し出し、「遺珠-大阪市立美術館珍藏書畫」展を7月24日-9月21日にかけて開催した。同展は台北故宮の歴史の上で、本館で海外から借用して大規模展を行う初めての試みであり、大きな反響があった。 メトロポリタン美術館展の協力を得て、藏品中でも屈指の名作を借用が叶った。また、今後の協力として2025年のリニューアル開館後の大規模展覧会における作品借用を打診し、前向きな返答をいただいた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館、大阪府立中央図書館での巡回展示などを実施する。 イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究をすすめる、学術的な価値の向上に努める。(再掲) ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターにもとづいた大阪大学との研究交流を進める。	18	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪アンダーグラウンド展に関連して、大阪市内各区の図書館で展示する資料キットを提供した。 イ 通常の研究活動として実施、館員だけでなく、共同研究者の成果として発表された。 【令和2年度実績】「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」により「陸前高田市立博物館コレクションが遺す地域の自然と文化ー自然史標本レスキューの現在地点ー」を開催し、陸前高田市立博物館関連資料約100点を展示。 ウ 実施なし。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを実施する。	18	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを実施した。 ・韓国全羅南道谷城郡の「谷城下汗里白磁窯場」国際シンポジウムの開催にあたって、浅川伯教と谷城の窯について論文提出及びシンポジウムにてオンライン発表を行った(10月22日)。 ・台北・國立故宮博物院の展覧会の開催に向けての協力支援を行った。 ・根津美術館所蔵の朝鮮陶磁の陶片について学術協力を行った。 ・韓国Sumsung Leeum美術館と朝鮮白磁について学	3	

		術交流を行った。 ・大阪歴史博物館学芸員と館蔵品の3D化に関する共同研究を企画・科学研究費補助金申請を行った。 【令和2年度実績】 台北故宮1件、韓国2件 のべ3件 ・国立故宮博物院との共同研究を継続して実施した。一方、国際シンポジウム「天目、茶文化、生け花(案)」を開催予定だったが新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となった。 ・韓国国立光州博物館「Asia Ceramic News」季刊誌に「天目展」の紹介記事、学術交流(12月刊行) ・韓国全羅南道谷城郡の「谷城下汗里白磁窯場学術研究報告書」刊行にあたって、浅川伯教関連の論文提出及び学術交流(6月～9月)。		
(大阪市立科学館) ア 大阪大学、大阪市立大学など近隣大学、各種研究機関と調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。 イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。(再掲) ウ 気象台や電気協会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。 エ 第12回展示研究大会開催に協力し、同大会開催の継続的支援を行う。 オ 全国科学博物館協議会をはじめとする各種協議会・会議等へ参画する。 カ 中之島科学研究所事業やその人脈を通じて、調査研究や事業の質の底上げを図る。 キ ドイツ博物館やクエスタコン(オーストラリア国立科学技術センター)など海外の先進館との交流を実施する。 ク 当館の知見を生かした他科学館等に対する、展示製作等のコンサルティングを行う。	18	(大阪市立科学館) ア 大阪市立大学と共催でオンライン講演会を1件実施した。また大阪大学と連携し、常設展示場の博学連携コーナーで展示を行った。 イ 大学へ実験装置等の調査を3件行った。 ウ 大阪管区気象台との連携による「夏休みミニ気象台」は展示事業に変更して実施し、その他オンライン講座を2回実施した。また日本気象予報士会関西支部と連携した「楽しいお天気講座」は、2回実施した。 エ 第12回全国理工系学芸員展示研究大会の開催を支援し、3月に大会を開催した。 オ 日本プラネタリウム協議会研究大会の開催を支援した。 カ 中之島科学研究所コロキウムを3回実施した。また、元研究員による研究報告誌での研究成果の発表が1件あった。 キ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、海外の先進館との交流は休止する一方で、在大阪スイス領事館、駐大阪・神戸米国総領事館と交流についての会合を持った。また、クエスタコンとオンラインによる交流を行った。 ク 今年度実績なし。	3	
(大阪歴史博物館) ア 共同研究における外部研究者との研究を行う。 イ 大阪市文化財協会が調査した埋蔵文化財資料の展示や速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。 ウ 東京都江戸東京博物館との共同研究を継続実施する。 エ 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を実施する。	18	(大阪歴史博物館) ア 共同研究の実績は2件。コロナ禍により、館内の基礎作業が中心となることを余儀なくされたが、外部研究員との大阪市内の調査やウェブを利用した東アジアの研究者との研究会など、徐々に研究活動を広げた。共同研究の内1本は大阪市文化財協会と連携した。 イ 大阪市文化財協会の調査成果を紹介するパネル展を3回実施した。また共催で特別展「難波をうたう」、特集展示「古代の都 難波京」、「新発見! なにわの考古学2021」を開催し、10階特設コーナー展示を行った。	3	

			ウ 東京都江戸東京博物館と連携した基礎研究は、コロナ禍のため活動を休止した。 エ 国立大邱博物館は、コロナウイルス感染症の影響で交流ができない状態であった。 オ 全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、幹事館を務めるとともに、各種情報交換を行い、また被災文化財レスキューへの協力体制に参画した。 カ 日本博物館協会の被災博物館復興支援事業の担当者登録により、文化財レスキュー情報を収集した。		
	(事務局) ア 大阪市立大学と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館学・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。 イ 大阪市文化財協会と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。	18	(事務局経営企画課) ア 令和2年度に続き協定を締結した。キャンパスメンバーズ制度への継続加入、博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3授業)への出講などを行った。 また、シンポジウム、ミュージアム連続講座などを令和4年3月に共同開催を行った。 イ・大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、3月に6講座した。また、3月5日にシンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く ～大坂/阪 画壇再考～」を実施した。 (再掲)	3	
19 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施 各館の活用と魅力の発信に向けたユニークベニューなどを計画・実施する。 文化財指定された建物等の有効活用を促進する。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：4、中：2 経：－ 各館の建物や付帯施設について、オンラインも活用しながら事業を行った。特に歴史博物館では、謎解きゲームや巡礼クイズという新規事業を行った。	3	3
	(大阪市立美術館) 記述なし	19	・前年度に引き続き、大阪クラシック2021(無料動画配信)の演奏収録に協力した。中央ホールの音響効果が評価され、今後も継続して協力していくことで検討した。 ・大阪観光局との共催でユニークベニュー機会創出のための限定イベントを開催した。改修後のユニークベニュー活用促進に努めた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市との調整が完了次第、学術関連催事を中心に、ポーチ(クジラ展示下)及びナウマンホールなどを活用したユニークベニュー事業に取り組む。	19	(大阪市立自然史博物館) ア コロナ禍にあって実施できる状況にないが、実施に向けて講堂などを整備した。講堂は席数を減らしてディスタンスの確保とともに座り心地やカーペットの改善などアメニティ面、映像投影設備や配信環境を大幅に改善し、博物館をレクチャーやイベントに活用する際の魅力を向上させた。これらのプロモーションに向けて準備を進めた。	3	
	(大阪市立科学館) ア プラネタリウムやアトリウムを活用したイベントを実施することにより、需要創出を図る。	19	(大阪市立科学館) ア 閉館後の夜間にプラネタリウムを用いた特別イベントを2件開催した。うち1件はNHK大阪放送局との共催によるもので、魚眼レンズで撮影した他の地域(岡山、福島)の星空の画像を、科学館のプラネタリウムのドーム全体にリアルタイム中継で公開するという、全国初の試みであった。	3	

	(大阪歴史博物館) ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどの実施。	19	(大阪歴史博物館) ア 難波宮の地下遺構および5世紀の倉庫のガイドツアーは臨時休館およびコロナウイルスの影響で休止した。また例年5月と11月に実施していたNHK大阪放送局地下に保存されている難波宮の石組み溝の公開を中止した。 ガイドツアーの代替として、YouTubeに遺跡解説動画2本を投稿した。 【令和2年度実績】難波宮遺跡探訪参加者0人（感染症対策のため中止） 【令和2年度実績】復元倉庫公開参加者0人（感染症対策のため中止） イ 7月より常設展示室などでリアル謎解きゲーム「時をさまよう皇子と失われた都」を開催し、好評を得て1,757セットを販売した。11月からは第2弾として「五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」を開催し、139セットを販売した。	4	
	(大阪中之島美術館) ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館プレイベントを実施する。（開館前より継続実施）（再掲）	19	大阪クラシック撮影への協力等、外部事業者の夜イベントへの対応を実施した。	3	
	(事務局) ア 大阪MICEデスティネーション・ショーケースへの出展等、各館のユニークベニューの取り組みを支援する。	19	(事務局経営企画課) コロナウイルス感染症のためMICE等もなく、現在実施なし。	—	

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」
	(3) 戦略的広報の展開 時機及びニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開することを通じて、大阪における文化資源の蓄積及び各館の活動の成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信する ・ 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 ・ マスメディア等への積極的な情報発信 ・ 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 ・ 生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 ・ 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 戦略的広報の展開						
大阪における文化資源の蓄積及び成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信するため、次の通り、時宜やニーズを捉えた戦略的な広報の展開を目指す。						

【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 <u>20 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信</u> 紙・マスメディア・SNSなど各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。 最適な時期や場所を逃さない情報発信を行う。 外国人観光客の動向に応じた情報発信を行う。		【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：3 中：4、経：3 各館とも計画通りに進めた。コロナ禍であったため、これまでに以上に積極的にSNS発信を行った。特に自然史博物館では、新着情報の発信を昨年以上に力を入れて展開した。また、科学館ではホームページのリニューアルを行った。	3	3
	(大阪市立美術館) ア ホームページ等での情報発信を行う。 イ SNSでの情報発信を行う。 ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)	20 (大阪市立美術館) ア 2,789,288pv／月平均232,441pv イ Twitter フォロワー数：3,650 Instagram フォロワー数：2,496 ほかにもYouTubeなどでの情報発信を実施した。 ウ 広報誌『美をつくし』3月発行197号には改修に関する情報も掲載した。閉館中も引き続き情報発信の媒体として使用した。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア ホームページ、Facebook、Twitterなどでの情報発信を継続して行う。特にYouTube、おうちミュージアムなどと連携した取り組みの発信を強化する。 イ 車内放送、ポストカード、学校向け案内など多様な手段を用いて広報を実施する。 ウ 特別展などにおいて、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に努める。同時に、Webやグッズなどへの展開による効果的な特別展イメージ訴求に努める。	20 (大阪市立自然史博物館) ア HPでの新着情報60件、Twitter 628件、FaceBook180件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを10,670人がフォロー、FaceBook 2,680人がフォローしている。今年度は、アインシュタイン展、植物展の情報提供を博物館Twitterなどにも連動させるなどの工夫を行った。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。外国人向け発信は現在特に行っていない。YouTubeは大阪市立自然史博物館チャンネル全体では令和3年4月から4年3月末までで10.1万回再生、1.3万時間再生、1,113名チャンネル登録者増加となった。 (令和2年度実績 7万5千回の再生、7,222時間の再生時間、742名のチャンネル登録者増加) イ 車内放送や学校向け案内を実施した。ポストカードはコロナ影響により実施せず。 ウ アンダーグラウンド展は、地学現象に理解の深いイラストレーターを起用、好評を得た。ホームページへの展開も含め成果を得た。	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア ホームページ(4か国語対応)、館案内パンフレット(5か国語)、年間展示予定、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTubeなどにより情報発信を継続して行う。 イ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。(再掲)	20 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア ホームページ(展覧会概要を含む4ヶ国語対応)のスマホ対応化、館案内パンフレット(5ヶ国語)、年間展示予定表、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTubeなどにより情報発信を継続して行った。また、展覧会会期中には関連イベントの動画コンテンツの収録と公開を行った。 ・Instagram投稿回数109件(4月-3月) フォロワー4,364人(4月1日より1,152人増) 【令和2年度実績】Instagram投稿回数51件 ・収蔵品画像オープンデータサイトのコンテンツ拡充 ・YouTube 動画コンテンツの数	3	

		・テーマ展デジタル冊子発行・プレス資料用冊子 イ ジャパンサーチやグーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。(再掲) ウ 海外出版の刊行物への作品画像提供協力を通じ、外国人観光客に対して魅力を発信した。 香港2件、台湾1件、『美の猟犬 安宅コレクション余聞』翻訳出版(中国)1件、『高麗青磁・李朝白磁へのオマージュ』翻訳出版(韓国)1件 エ 新しい試みとして『陶説』へのチラシ封入・JAFの協力によるコンサート会場でのチラシ配布、新興のフリーペーパー『MEG』への広告出稿等を通じ、ニーズを捉えた戦略的な広報を展開した。 チラシ配布サービス「おちらしさん」を実施した。		
(大阪市立科学館) ア ホームページ、Twitter、YouTube等を利用した情報発信を行う。 イ 月刊誌「うちゅう」を発行する。(再掲) ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行する。(年4回) エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。	20	(大阪市立科学館) ア・科学館のホームページをリニューアルし、より見やすい、使いやすいものとした。 ・新たにインスタグラムのサイトを開設し、広報活動を開始した。 ・オンライン事業として、文化庁の補助金も活用してオンライン事業の環境整備を進め、当初の計画になかった「オンライン連続講座」、「金曜星空トーク」をはじめ、5月と11月にネット中継による月食オンライン観望会を実施した。 ・YouTube上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」124件を配信した他、科学実験動画、天文学習用動画、サイエンスショーや金曜星空トークの見逃し配信なども行った。またサイエンスショーのライブ配信も実施した。 ・Twitterでは、「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」、「館長の散歩@科学館」の3つのアカウントを開設し、情報発信を行った。特に、4～6月、8～2月の休館期間中には通常の発信に加え、ハッシュタグ[#エア大阪市立科学館]を付けて、科学情報を積極的に発信した。 ・その他ホームページ上において、月刊「うちゅう」や研究報告誌などのオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。 ・ホームページ内に学芸員のページを設置した。 【令和2年度実績】ツイート数680件、YouTube動画公開数117件。 イ 月刊「うちゅう」4月号～3月号の計12冊を発行した。 ウ 「科学館だより」を3回発行した。今年度は8月23日から2月1日まで長期休館したため、3回の発行となった。 エ ミニブックを20冊作成し、ミュージアムショップとオンラインショップで販売した。今年度は2冊を新規製作した。	4	

(大阪歴史博物館) ア ホームページ、Twitterでの情報発信を継続して行う。 イ 紙媒体として「歴博カレンダー」を継続的に発行する（年4回）。 ウ 谷町四丁目駅での電照広告や掲示板の効果的な活用を図る。	20	(大阪歴史博物館) ア ホームページ、Twitterでの情報発信を継続的に行った。コロナウイルスの影響下で、ホームページには「おうちで楽しむ なにわ歴博」「もっと楽しむ なにわ歴博」を設け、ネット展示などを行った。ツイッターでも「きょうは何の日?」「明治のすごろくで、なにわ旅気分」「大阪百年前」などを臨時休館中・休館後などにツイートし、特別展・特集展示などの展示紹介も積極的に行った（3月31日現在919件）。フォロワー数も約7,870名（3月31日現在）と伸びた。なお、謎解きゲームは別アカウントによりツイートした。公式YouTubeチャンネルに展覧会解説動画等を16本アップした。 広報強化のため、インスタグラム、フェイスブックの新規開設を年度内に準備した。 【令和2年度実績】 ツイート数 682件 イ 歴博カレンダー 4回発行 【令和2年度実績】 3回作成（1回は配布中止） ウ 谷町四丁目駅において、ホームの電照広告で常設展および特別展等の広報を行い、構内の掲示板で特別展をはじめとする各種広報を実施した。	3	
(大阪中之島美術館) ア PFI事業者と協働し、大阪中之島美術館公式ウェブサイトやSNS等を継続的かつ効果的に更新する。（再掲） イ 印刷媒体や交通広告、街路パナール等、多様な層を射程に媒体と時機の最適化を図り、PFI事業者と協働して、美術館事業の広報、広告を実施する。	20	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイトの多言語化をはじめとする2次リニューアルを実施した。オンラインチケット販売及び決済機能を実装した。Twitter、Facebook、Instagramアカウント、YouTubeチャンネルを開設し、ほぼ毎日継続的に情報発信を行った。フォロワー数も順調に伸びた。特にInstagramのフォロワーは2万2,000人超となり、関西の美術館で第2位のフォロワー数となった。 イ 美術専門誌、電波、新聞、交通広告、パナール等ターゲットごとにきめ細かく広告を掲出した。また、約250件を超える取材に対応し、多くのメディアに取り上げられたことで、効果的な開館広報が実施できた。 【参考】 令和3年度実績 Twitter 投稿数：248 フォロワー：5,521 Instagram 投稿数：172 フォロワー：22,644 Youtube 総再生回数：5,029回 登録者数：127人 Facebook いいね：16,117 フォロワー：778	4	

	(事務局) ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載する。(再掲) イ Twitter や Facebook といった SNSによる展覧会情報等の広報を日常的に行う。(再掲) ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回発行する。(再掲) エ 大阪市内の博物館群を紹介する冊子を作り、市民への情報発信、各館連携を図る。(文化庁補助金による) オ 機構全体の広報戦略を作成し、第1期中期計画の残りの期間の広報計画を立てる。	20	(事務局経営企画課) ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載している。 中之島美術館の開館について、Googleやヤフーを通じてのインターネット広告を打った。他にもテレビ、ラジオ、新聞、雑誌等のマスメディアへの情報提供を行い、取材対応も実施し、市民のみならず、全国への中之島美術館や機構組織の広報を実施した。サンケイリビング小中学生新聞において、開館告知の広告を打ち、大阪市内の小中学生に配布した。 イ Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に実施した。また、特別展などにおいて、発信頻度を増やした。 広報誌「OSAKA MUSEUMS」を年度末までに4回発行した。 エ 大阪市内の博物館群を紹介する冊子「大阪市ミュージアムガイド」作成し、市民への情報発信、各館連携を図った(文化庁補助金による)。 オ 機構全体の広報戦略を作成し、第2期中期計画の残りの期間の広報計画の素案とした。	3		
21 マスメディア等への積極的な情報発信 プレスリリースや内覧会など、マスメディア向けの情報発信を行う。			【機構の評価】 美：3 自：3、陶：3、科：3、歴：4、中：4 各種事業の開催などについて、適宜情報発信を行った。特に歴史博物館では、「あやしい絵展」での民間事業者委託の情報発信を実施して多くの来場者を得た。	3		3
	(大阪市立美術館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪市立美術館) 特別展にあわせてプレス向け内覧会やプレスリリースを行った。 ・豊臣の美術 ・揚州八怪 ・聖徳太子 ・メトロポリタン美術館展 「豊臣の美術」では外部のプレスリリース配信サービスを利用することで、「めざましテレビ」(フジテレビ系)など、美術系メディア以外での露出、掲載も目立った。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪市立自然史博物館) 大阪アンダーグラウンド展、アインシュタイン展ともにプレス向け内覧会を実施した。プレスリリース9件(定例で行っている毎月の催事情報、臨時休館・再開館情報を除く)を行い、さらにプレス発表以外にホームページおよびSNSで情報発信したものが18件あり、展覧会および関連企画の広報に努めた。	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディアなどへのプレスリリースを実施する。 イ マスメディアなど向けの展覧会プレスレビュー	21	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディアに対して展覧会などのプレスリリースを送信した。 9件 ・臨時休館・休館延長(2回)・再開館案内	3		

	ーを実施する。		・柳原睦夫・古丸谷展 ・ジャパンサーチ連携 ・文化庁AFF事業によるテーマ展示 ・李秉昌公開講座開催案内 ・李秉昌公開講座アーカイブ配信案内 イ マスメディア向けの展覧会プレスプレビューを開催した。 ・柳原睦夫・古丸谷展		
	(大阪市立科学館) ア 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。 イ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。(再掲)	21	(大阪市立科学館) ア メールマガジン、プレスリリースを計13件発行したほか、253件の記事・広告掲載があった。 【令和2年度実績】記事・広告掲載 325件 イ ホームページ内に学芸員のページを設置した。また、スタッフだより、ツイッターなど、学芸員が紹介するページの設置、公開を行った。 ホームページ上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌などのオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。 また、Twitterでは、4～6月と8～2月の休館期間中において通常の発信に加え、ハッシュタグ[#エア大阪市立科学館]を付けて、科学情報を積極的に発信した。またYouTube上において、「学芸員の展示場ガイド」の他にも、科学実験動画、天文学習用動画、サイエンスショーや金曜星空トークの見逃し配信なども行った。(再掲)	3	
	(大阪歴史博物館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪歴史博物館) ア 特別展・特集展示について、マスコミ等にプレスリリースを行った。特別展「あやしい絵展」では、実行委員会より民間事業者に委託して広報を実施し、多くの集客につなげた。特別展・特別企画展については記者内覧会を開催した。また連携事業であるクラブツーリズムとの旅行企画、サクヤコノハナのアンバサダー就任について記者発表会を開催した。	4	
	(大阪中之島美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。 イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図る。	21	(大阪中之島美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行った。美術館開館時にプレス内覧会を開催し、数多くの記事掲載につなげた。また、従来の美術専門媒体にとどまらず、館長等がテレビ、ラジオのバラエティ番組等に可能な限り出演し、大阪中之島美術館の周知に努めた。 イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図った。	4	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニー			【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3、 中：3、事：3 各館とも計画通り事業を行った。特に市立美術館で	3	3

ズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う(再掲)。 各種活動への参加者に対するアンケート等を実施し、ニーズの把握に努める。 広報専門職員や外国人スタッフの確保など、外国人観光客や海外に情報発信するための体制整備や戦略立案に努める。				
	(大阪市立美術館) ア 観光関連団体との相互の協力体制を構築し、美術館にはない手法での情報発信を進める。	22 (大阪市立美術館) ア 大阪観光局、JTBとの座組で文化庁「ウィズコロナに対応した文化資源の高付加価値化促進事業」に採択、委託事業費(18,000千円)をもとに、美術館リニューアル後も見据えて、天王寺～新今宮エリアでの文化観光コンテンツの創出をめざして以下の取り組みを行った。 ・慶沢園と連携した観光事業者対象夜間貸切モニター ・ユニークベニュー機会創出のための限定イベント ・ロボットによる実証実験 ・U30世代にむけた美術館体験イベント ・天王寺エリアに特化したウェブプロモーションなど	4	
	(大阪市立自然史博物館) ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。	22 (大阪市立自然史博物館) ア 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「OSAKA MUSEUMS」)などに参画した。 館での活動としては当初予定していた展示室での情報発信には注力せず、YouTube での字幕やテロップを追加して理解しやすく工夫に注力した。展示場でもこれらをサイネージとして活用した。また弱視者向けに墨字の案内パンフレット(貸し出し及び特別支援学校用)を作成した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努める。	22 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、ホームページや作品解説アプリ等により多言語での情報発信の充実に努めた。 イ 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「OSAKA MUSEUMS」等の刊行)に参画した。 ウ 入館者に対するアンケート調査(ウェブ版含む)を展覧会ごとに実施し、その結果の分析を行い、入館者のニーズや状況を把握して、効果的な広報戦略の策定に活かした。(再掲) ・黒田展 実施回数:3回 実施期間:18日 回答数162(実施期間中入館者の約5.1%) ※非常事態宣言に伴う臨時休館のため、4月は実施できず。 ・柳原/古九谷展 実施回数:7回 実施期間:42日 回答数219(実施期間中入館者の約6.3%) ・コレクション展関連テーマ展示 感想フォーム 設置期間:会期中常時 回答数46	3	

			ウェブ感想フォームを常時設置、紙での感想受付も期間を設け設置し、アンケートとは別に入館者からの感想・要望を収集して、それをホームページなどの広報に活かした。 【令和２年度実績】 ・天目展 実施回数：３回 実施期間：18日 回答数213(実施期間中入館者の約6%) ・黒田展 実施回数：５回 実施期間：30日 回答数255(実施期間中入館者の約11.5%) ※ 非常事態宣言に伴う臨時休館のため、竹工芸展の今年度分は実施できず。 ※ 新型コロナウイルス感染症対策の一環で、従来の用紙方式に加え、新たにウェブアンケートも同時に実施した。 従来の顧客満足度に代わり、新たに顧客ロイヤルティを数値化する指標を導入し、分析の参考とした。		
	(大阪市立科学館) ア チケット発券システム等により、来館者属性や来館動向を調査分析し、データに基づいた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。	22	(大阪市立科学館) ア 現時点でのプラネタリウム観覧料の妥当性の調査を実施し、その際に科学館の市民ニーズも調査した。これにより、次年度以降の広報・マーケティングのための基礎データを得ることができた。 また、各事業においてアンケートを実施し、来館者の属性などのデータ分析を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 機構の広報誌「OSAKA MUSEUMS」に編集協力し、それを配布して当館および機構各館の広報を行う。	22	(大阪歴史博物館) ア 機構の広報誌「OSAKA MUSEUMS」の編集に協力し、館内で配布した。 イ 昨年度行った常設展示リニューアル関連の利用者調査の成果について、下半期に実施するリニューアル基本計画に生かした。引き続き機構や各館の広報戦略の参考として情報共有を図った。	3	
	(事務局) ア 試験的にカスタマーリレーションシップマネジメントを行う。 イ 広報強化の一環として、顧客データベースを構築し顧客数増の施策を試行実施する。	22	(事務局経営企画課) ア 業者との打ち合わせを実施し、ＥＣや、今後の集客方法について検討を行った。 イ 美術館のＥＣを通じて、顧客情報の収集を開始し、博物館に対する好感度の高い層へ向けてのメールマガジンの発行を開始した。集客、広報宣伝の検討及び成果に結びつけ、顧客層を把握することができた。本情報を共有し。歴博で実施する準備を始めた。	3	
23 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 市立の生涯学習施設等を利用した講座などの事業展開や、施設との広報連携を進める。			【機構の評価】 美：３、自：３、陶：３、科：３、歴：３、経：３ 各館ともに生涯学習施設を利用した講座の実施や、広報連携に努めた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(大阪市立美術館) ア いちよう並木掲載 年間２回（ミュージアムトビックス1、おすすめコレクション1）	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、セレッソ大阪などと連携した情報発信に努める。	23	(大阪市立自然史博物館) ア セレッソ大阪のホーム開催に合わせ、アインシュタイン展の割引、情報提供を実施した。コロナ	3	

イ 咲くやこの花館・動物園など大阪周辺の生物多様性関連施設との連携した広報に努める。 ウ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。		対応でも連携を行った。 イ 咲くやこの花館で行われた「スパイス展」、「POPなきのこ展」に協力した。また当館で開催される「植物展」での協力を依頼、実施した。来年度の動物園との連携も検討した。 ウ 年間2回（ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1）		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。 イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を実施する。	23	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 年間2回（ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1） イ 大阪中之島美術館、国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行った。 ・大阪中之島美術館、国立国際美術館、中之島香雪美術館とのチラシの相互設置など広報相互協力を継続して実施した。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や広報協力を実施した。 ・中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を実施した。	3	
(大阪市立科学館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(大阪市立科学館) ア ・「いちよう並木」への情報提供を12回提供した。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、実行委員会が開設したホームページに当館のイベント情報を掲載し、共同広報を行った。加えて中之島エリアの各種機関と広報協力について検討した。中之島エリアの各種機関と広報協力について検討した。 ・難波市民学習センター、大阪市立大学と連携して実施する「ミュージアム連続講座」で共同広報を実施し、また学芸員2名が講演した。	3	
(大阪歴史博物館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。 イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、あべのハルカス近鉄本店内でポスター掲出を行い、同上本町店のデジタルサイネージで特別展広報を行う。	23	(大阪歴史博物館) ア 年間2回（ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1）掲載した。 イ 近鉄百貨店（あべのハルカス、上本町）での特別展ポスター掲出やデジタルサイネージ広報は、先方が休館の期間を除き実施した。	3	
(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌「いちよう並木」の原稿執筆に関して各館への割り振り執筆依頼を実施した。 また、ミュージアム連続講座を難波市民学習センターで実施するにあたり、学習センターの広報ネットワークを利用した。その講座は、定員50名に対して4倍以上の申し込みがあるなど、内容の良さのみならず、広く周知が行きわたる広報の成果が表れた。 ・大阪城天守閣、大阪くらしの今昔館と連携を図りキャンパスメンバーズ制度を実施しており、その加	3	

			入や利用に関して各大学、高校への広報を実施した。		
24 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 地域の広報誌や新聞誌上への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、効果的発信を行う。			【機構の評価】 美：3 自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも順調に実施した。東洋陶磁は海外で発信力を持つ美術雑誌に協力した。東洋陶磁及び歴博ではNHK「歴史秘話ヒストリア」などのテレビ番組に協力・出演するなど、学芸員の専門知識を活かして多方面で広報を行った。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。	24	(大阪市立美術館) ア 下記の特別展を中心に、担当学芸員による展覧会紹介や作品紹介などをテレビや新聞などのメディアで行った。 ・豊臣の美術 ・揚州八怪 ・美の殿堂の85年 ・聖徳太子 ・メトロポリタン美術館展 「アートシーン」(NHK)、日本経済新聞社「海を渡った中国美術十選」(連載)、「芸術新潮」(新潮社)など	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演などを通じた広報活動を行う。 イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。	24	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪自然環境保全協会、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行った。一部はコロナ影響によりオンラインで行った。大阪自然環境保全協会「海岸・湿地植物から考える夢洲の生物多様性」(長谷川学芸員)、大阪みどりのトラスト「シンポジウム 和泉葛城山ブナ林の過去・現在・未来を語る」(佐久間学芸員)など多数。 イ 査読付き論文、査読なし論文および雑誌記事、書籍などを多数執筆した。現在集計中だが今年度も200本を超える。 (令和2年度実績 査読付き論文20本、著書5冊、その他246本発表11件) ウ NHK・民放放送局、新聞社等多数の取材対応を行った。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信する。 【令和3年度目標】7件	24	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信した。 ・計11件『Orientations』、『陶説』、『目の眼』(2件)、『炎芸術』、『小原流』(4～12月号分)11件 【令和2年度実績】9件 ・海外の出版社等に対し作品画像の提供を行った。10件 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信した。3件 ・『朝日新聞』「私のイチオシコレクション」	3	

		・京阪神エルマガジン社の運営するWEBメディア「Lmaga.jp」（SNSで話題になった館蔵品に関する取材協力） ・NHK「大阪中之島美術館開館記念特番」【令和2年度実績】4件 ・NHK・歴史秘話ヒストリア「謎の茶碗はなにを語る」（4月1日）取材協力、出演 ・NHK「ぐるっと関西おひるまえ」（「ぐるかん おうちで美術館」、7月6日）展覧会紹介、取材協力、出演 ・NHK・ETV「日曜美術館」（「アートシーン」、7月26日、2月14日）展覧会紹介、取材協力		
(大阪市立科学館) ア 情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。	24	(大阪市立科学館) ア 今年度のマスコミによる取材対応件数は、43件。特に5月の「皆既月食オンライン観望会」イベントをはじめ、夏休みシーズンの自由研究、2月のリニューアルオープン等、その時期に応じた科学情報を提供することができた。また「アインシュタイン展」は、関西テレビ、読売新聞を中心に定期的に取り上げられ、学芸員の活動を積極的に発信することができた。	3	
(大阪歴史博物館) ア さまざまなメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。	24	(大阪歴史博物館) ・NHKテレビ「ファミリーヒストリー」（10月4日放送）、TBSラジオ「ラジオで語る昭和のはなし」（3月6日放送）出演など、新聞・テレビ・ラジオ等を通して、学芸員の活動成果を紹介し、館の存在を知ってもらう機会となった。 ・日本経済新聞「関西のミカタ」（9月8日夕刊）に館長インタビュー記事が掲載された。また同紙「関西タイムライン とことん調査隊」（8月10日、9月7日、3月22日夕刊）に学芸員が歴史的背景に関するコメント等を寄せたのをはじめ、朝日・読売・産経など各紙に学芸員のコメントが掲載された。 ・駐大阪韓国文化院ホームページに館長の連載「朝鮮通信使と大阪」やそれを映像化したオンラインフィールドワーク動画がアップされた。	3	

大項目 I-②	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (3) 民間企業等との協働等
------------	--

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 ・マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致 ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 ・芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 ・さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備						
各館の立地の優位性を活かし、幅広い利用者を獲得するため、次の通り、展覧会又は展示物に係るソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備を図る。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 25 マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致			【機構の評価】 美：2、自：3、陶：3、科：3、歴：4、中：4 コロナ禍の影響を受け、目標人数に未達の展覧会が複数あったが、歴史博物館の「あやしい絵展」、中之島美術館の「Hello, Super Collection 超コレクション展」では目標人数を大幅に超え、また有料率も高いものとなった。	3		3
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 本年度6本の特別展のうち、次の2本について新聞社・テレビ局等と協働し、実施する。 ・「メトロポリタン美術館展」《仮称》(巡回企画) 11月13日～1月16日 開催日数(予定)50日 世界三大美術館の一つであるニューヨークのメトロポリタン美術館西洋絵画ギャラリーが所蔵品のなかから、巨匠ばかりの傑作65点を展示する。 【令和3年度予算目標】280,000人 ・「第8回 日展」(巡回企画) 2月26日～3月21日 開催日数21日 日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。 【令和3年度予算目標】40,300人	25	(大阪市立美術館) ・「メトロポリタン美術館展」(巡回企画) コロナ禍が落ち着いている時期の開催であったこともあり、予約制や入場制限があったにもかかわらず、多くの方の来館があり、決算で黒字化することができた。 入館者数：165,334人 ・「第8回 日展」(巡回企画) まん延防止等重点措置のなか予定通り実施。依然として来館者の少なさが目立った。 入館者数：29,498人	2		

(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館やマスメディアなどと連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館) ア 読売新聞社との共催による「アインシュタイン展」、NHK と連携した「ミラクルプランツ展(仮称)」を実施する。令和4年度以降の企画に向け各社と準備をすすめる。 ・「アインシュタイン」展(巡回企画) 7月17日～10月10日 本特別展では、ノーベル賞受賞100周年を記念し、アインシュタインの生涯、光電効果や相対性理論などの研究業績とともにアインシュタインと日本の関係を紹介する。特に研究業績については、ゲーム性を取り入れた体験装置や映像技術を駆使し、人物像については様々なエピソードや実物資料により、興味関心を喚起していく。 【令和3年度目標】 入場者数69,400人 ・「ミラクルプランツ(仮)」展(巡回企画) 令和3年1月15日～4月3日 光合成という、太陽エネルギーから有機物を作り出す能力を手に入れたことによって、地球上の生命存在にとって必須の働きをしている植物は、人間と同じ祖先から出発し、今や地球上で最も成功している生物群である。食糧生産から環境維持まで、人類の存在にとってなくてはならない存在として、最先端科学で明らかにされつつある植物という生命の実体をリアルに伝える。地球上で人類が共に生きる存在としての植物の重要性に新たな視点をもたらし、SDGs的な観点の重要性を伝える。 【令和3年度目標】 入場者数81,400人	25	(大阪市立自然史博物館) ・「アインシュタイン」展(巡回企画) 7月17日～10月10日 読売新聞社・関西テレビ放送・大阪市立科学館と共催で実施した。 本特別展では、ノーベル賞受賞100周年を記念し、アインシュタインの生涯、光電効果や相対性理論などの研究業績とともにアインシュタインと日本の関係を紹介する。特に研究業績については、ゲーム性を取り入れた体験装置や映像技術を駆使し、人物像については様々なエピソードや実物資料により、興味関心を喚起している。 入場者数は69,400人としていたが、緊急事態宣言などにより来場者は8月中旬以降落ち込み、46,007人となった。 ・「植物」展(巡回企画) 令和4年1月14日～4月3日 NHKエンタープライズ、朝日新聞社共催。 食糧生産から環境維持まで、人類の存在にとってなくてはならない存在として、最先端科学で明らかにされつつある植物という生命の実体をリアルに伝える。地球上で人類が共に生きる存在としての植物の重要性に新たな視点をもたらし、SDGs的な観点の重要性を伝える特別展として実施した。およそ5万人が来場した。コロナ対策を進めながら広報に難しい点があった。	3	
(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立東洋陶磁美術館) 本年度の特別展2本はいずれも自主企画として実施する。	25	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 本年度の特別展1本及び企画展2本はいずれも自主企画で実施した。 ・特別展「黒田泰蔵」11月21日～令和3年7月25日 ・企画展「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」 8月11日～2月6日 ・「福井夫妻コレクション 古九谷」 8月11日～2月6日 【令和2年度実績】2件 ・NHK大阪放送局・NHKエンタープライズ近畿との共催による「天目—中国黒釉の美」(6月2日～11月8日)を実施した。 ・NHKプロモーションとの共催による特別展「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」(12月21日～令和2年4月12日)が会期中途中で休館のため中断したことをうけ、共催先と連携して展覧会に合わせて制作された現代作家によるインスタレーション作品の展示延長を行った(9月27日まで)。	3	

	(大阪市立科学館) ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。	25	(大阪市立科学館) ア 読売新聞社が主催する青少年のための科学の祭典に参画し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインにより実施した。また、読売新聞社、関西テレビ、自然史博物館等と共催でノーベル賞受賞 100 周年記念特別展「アインシュタイン」を開催した。 【令和2年度実績】新型コロナウイルス感染症拡大のため中止	3	
(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携し、巡回展や共催展などの特別展を開催する(年3~4回程度)。	(大阪歴史博物館) 毎日新聞大阪本社および毎日放送との共催で特別展「あやしい絵展」(7月3日~8月15日)を実施する。 ・「あやしい絵展」(巡回企画) 7月3日~8月15日、開催日数38日 明治時代、美術の世界では西洋の技法や美術思潮の影響により、新しい時代にふさわしい作品が制作されるようになった。これらのなかには、退廃的、妖艶、グロテスク、エロティックといった言葉で形容できる作品がある。その表現は、当時美術界の一部で批判を受けたが、文学などをバックグラウンドとして大衆に広まっていった。本展では、幕末から昭和初期に制作された絵画、版画、雑誌・書籍の挿絵などから、このような表現を紹介する。 【令和3年度予算目標】29,800人	25	(大阪歴史博物館) 特別展「あやしい絵展」は、毎日新聞・MBSテレビと共催して開催した。展覧会公式ホームページを開設し、インターネット広告、SNSでの情報発信などにも努め、若年層を含む幅広い年齢層の支持を得て、目標を大きく上回る成果を上げ、有料率も80%に達した(目標は60%)。声優を起用した音声ガイドやオリジナルグッズの販売も好評であった。 ○特別展「あやしい絵展」 ・目標 29,800人 ・入場者数 47,801人(達成率160%) ・会期 7月3日~8月15日 開催日数39日	4	
(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催する。	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館の開館にあたり、5階及び4階すべての展示室を活用し、テレビ局と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する開館記念企画展を開催する。 ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」(自主企画・特別展) 2月2日~3月21日、開催日数42日 【令和3年度予算目標】84,000人(再掲)	25	(大阪中之島美術館) ア 開館記念としてNHK及び読売新聞社との共同出資による展覧会を実施し大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介することができ、来館者数は目標を大きく上回った。 【来館者:126,310人】 ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」(自主企画・特別展) 2月2日~3月21日、開催日数42日 【令和3年度予算目標】92,000人	4	
26 さまざまな利用者の受入れ体制の充実(中期目標にはないが、計画で追加) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する(再掲)。 わかりやすいサインの掲出や安全な導線確保に努める。			【機構の評価】 美:3、自:3、陶:3、科:3、歴:3 施設の大規模改修等によりバリアフリー化を計画するとともに、科学館では文化庁から補助金を受け、視覚障がい者の展示鑑賞支援のための「展示場見学ガイド」点字版、大きな活字版、音声CD版を作成した。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は基本設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。(再掲) イ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。	26	(大阪市立美術館) ア 実施設計を完了させ、10月からの工事着工に臨む。中央ホールの無料化、多目的ホールや教育普及のための施設の設置などの他、中央ホールのエスカレーターの新設、エレベーターの増設を設計に盛り込んだ。引き続き展示ケースや収蔵庫内部の棚、展示館内掲示などについて検討した。	3	

			イ 実施した（1,363人）。		
	(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。(再掲) イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。 ウ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討を進める。(再掲) エ 授乳場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。	26	(大阪市立自然史博物館) ア 日本ライトハウスによるアドバイスを受け、10月以降、館内研修、点字資料などの改善・作成を行った。この取組は全日本博物館学会で報告した。 イ 受付スタッフにタブレット端末を配備しているが、外国人案内の機会がほとんど無かった。 ウ 科研費による研究会を計画したが実施できず、翌年以降に延期した。 エ コロナ禍の状況を鑑み、救護室と授乳室を別に確保し、運用した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。(再掲) イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める。(再掲) ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。 エ 館内 Free Wi-Fiの提供を継続して行う。 オ 年間バス販売などによるリピーターの確保に努める。 【令和3年度目標】販売件数40枚	26	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための情報収集を行い、バリアフリー化などを エントランス増築棟建築計画に合せて実施設計に反映した。(再掲) イ トイレ改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた設備の検討をエントランス増築棟建築計画に合せて実施設計に反映した。(再掲) ウ エントランス増築棟建築計画に合せて実施設計に反映した。 エ 館内Free Wi-fiの提供を継続して行った。 オ 年間パスポートの販売を継続して行い、臨時休館分の有効期間の延長の対応も行った。販売枚数65枚【令和2年度実績】146枚	3	
	(大阪市立科学館) ア 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。(再掲) イ 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。(再掲) ウ トイレ洋式化などの計画策定を進める。(再掲)	26	(大阪市立科学館) ア 施設案内の英語、中国語など多言語化を一部実施している。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。 イ 救護室、おむつ交換用ベビーベッドを設置しているほか、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施した。 また、文化庁から補助金を受け、日本ライトハウスの協力を得て、視覚障がい者の展示鑑賞支援のための「展示場見学ガイド」点字版、大きな活字版、音声CD版を作成し、利用に供した。(再掲)。 ウ 地下1階のトイレについて、洋式化に加えて多機能トイレの整備等を含めた全面改修を行い、地下1階多機能トイレに自動ドア、オストメイト、多機能シート（成人用おむつ替えベッド）を新設し、2月より供用を開始した。(再掲)。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。(再掲) イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める。(再掲) ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。	26	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。更なる改善点については情報収集を行った。(再掲) イ トイレの洋式化は、改修計画を作成した。(再掲) ウ AED（自動体外式除細動器）を1階ならびに5階に設置した。新型コロナウイルス感染症拡大	3	

	エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。(再掲)		防止の案内を多言語で実施した。(再掲) エ AED(自動体外式除細動器)を1階ならびに5階に設置した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施した。(再掲)		
27 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)などを活用した多言語対応を進める。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る。			【機構の評価】 美:3、自:2、陶:3、科:3、歴:3、中:3 コロナ禍の影響を受けインバウンドが皆無の状況であったが、多言語化について対応を継続した。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 改修後の運用を見据え設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。 イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。	27	(大阪市立美術館) ア 施設案内の英語表示以外の多言語化については改修工事を含めて検討した。ウェブサイトでの展覧会情報の英語対応を実施した。 イ 展示室ごとの解説や、作品のキャプションタイトルなどは英語対応している。 ホームページなどでの対応も進めた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲) イ 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。 ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。	27	(大阪市立自然史博物館) ア 今年度は多言語対応の優先順位を下げた。海外向け発信については今後検討を深める。 イ 改善について検討を続けている。 ウ 英語による非常放送などは実現しているが、スタッフによる対応などさらなる改善手法について検討を続ける。	2	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品60点の多言語対応音声ガイド機のレンタル(有料)に代わり、無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を開始する。 【令和3年度目標】ダウンロード数を指標とする イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。 ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。(再掲)	27	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(ポケット学芸員)の提供を継続しながら多言語対応として中国語(簡・繁)、韓国語を追加した。 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため「写真利用規約」等の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行った。 ・館蔵品情報の研究成果を反映して解説の改訂を行い、それに伴い多言語への反映を行った。 【令和2年度実績】作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・鼻煙壺のキャプション改訂 ウ エントランス増築棟建築計画に合わせて実施設計に反映した。(再掲)	3	
	(大阪市立科学館) ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。 イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化	27	(大阪市立科学館) ア ホームページの自動翻訳や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語・仏語(三つ折りリーフレットのみ)の対応を実施した。	3	

	、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。 ウ 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。 エ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。		イ 常設展示物の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」において、英語、中国語、韓国語で運用した。また、YouTubeで公開中の展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」の一部に英語字幕を入れて公開した。 ウ 施設案内の英語、中国語など多言語化を一部実施した。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。 エ YouTubeの展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」は順次撮影、公開件数を増やした。またスマートフォンアプリを利用した展示場解説文の多言語化（英語、中国語簡体字、韓国語）を運用した。		
	(大阪歴史博物館) ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。 イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。（再掲）	27	(大阪歴史博物館) ア 平常は7種の外国語パンフレット配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めたが、本年度もインバウンドが皆無の状態である。また展示改修基本計画において音声ガイドや情報システムでの外国語対応について検討した。（再掲） イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した（再掲）。 ウ インバウンドの来館はないが、デジタルサイネージを用いた日本語での案内を充実させた。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実にも努める。	27	(大阪中之島美術館) ア 館内サインや公式ホームページ、オンラインチケット販売システム等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実にも努めた。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 28 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3 コロナ禍のため、中止になった事業もあったが、実施可能な取り組みについては、オンラインへの代替や感染対策を施しながら実施した。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する。 イ 美術団体と連携し、公募展を開催する。（以下、再掲） ・「第67回全関西美術展」 2月5日～2月15日 開催日数10日 大阪市立美術館が関西圏の作家に出品を募集し、審査をして開催する公募展覧会。 ・「第8回 日展」(巡回企画) 2月26日～3月21日 開催日数21日 日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。	28	(大阪市立美術館) ア 利用のべ82団体 館長賞のべ52団体 イ 「第67回全関西美術展」(公募) 多人数が同時に参加する作品審査を行う必要があり、オミクロン株の感染拡大によりクラスター発生の危険を回避するために中止した。 「第8回 日展」(巡回企画) 入館者数：29,498人	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として	28	(大阪市立自然史博物館) ア ジオカーニバルを10月末に予定していたが中止	3	

	こどものためのジオカーニバル（10月）大阪自然史フェスティバル（11月）を開催する。 イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 ウ アーティストによる標本活用など、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。 エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会の確保に努める。 オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。		が決定された。自然史フェスティバルも過密を避けることが難しいと判断され、2年連続で中止となった。ウェブシンポジウムを代替として実施した。 イ 大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、大阪みどりのトラスト財団を始め、多くの団体に指導、支援を実施した。 ウ 来年度の実施に向けて検討を進めた。 エ 各種学会の、高校生ポスター発表に各学校をリクルート（例えば菌学会で3校が発表など）、3月に関西自然保護機構との共催で「地域自然史と保全研究発表大会」を開催した。 オ 11/23に大阪府高等学校生徒生物研究発表会を実施した。		
	（大阪市立科学館） ア 科学館大好きクラブ、こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会などの活動を支援し、館内での展示解説などの機会を提供する。	28	（大阪市立科学館） ア 青少年のための科学の祭典では、科学館から1名が実行委員として企画・実施などの活動を支援したのに加えて、友の会から出展を行った（オンライン開催）。科学館だいきクラブの活動支援は、新型コロナウイルス感染症感染拡大のために中止になった活動の再開に向け随時打ち合わせや準備を行った。 【令和2年度実績】 1回	3	
	（大阪歴史博物館） ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。	28	（大阪歴史博物館） ア 市民団体「喜連村史の会」との共催で、特別企画展「大阪町めぐり 喜連」を開催し、成果発表の場を提供した。 例年共催している「歴史学入門講座」はコロナウイルスの影響でオンライン開催となるなど、連携する講座等の事業を実施できなかった。	3	
29 さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：2、歴：4 ポスター掲示等の交通広告の掲示に加え、市立美術館では観光局や星野リゾートとの連携を行い、また歴史博物館ではクラブツーリズムと包括連携協定を締結した。	3	3
	（大阪市立美術館） ア 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。 イ 天王寺駅周辺の商業施設（あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。 ウ 観光関連団体との相互の協力体制を構築し、美術館にはない手法での情報発信を進める。（再掲）	29	（大阪市立美術館） ア Osaka Metro以外にも特別展ごとに近鉄、阪急、JR西日本など交通各社での広報展開を実施した。 イ あべのハルカス美術館での半券キャンペーンや、てんしば、あべちかなど周辺商業施設でのタイアップを実施した。 ウ 昨年度の「天平礼賛」以降、来年度実施の「フェルメール展」までの特別展については大阪観光局の後援申請した。JTB経由で周辺ホテルとの連携に加え、新今宮に来春オープンする「OMO7 新今宮」との連携も星野リゾートと協議した。	3	
	（大阪市立自然史博物館） ア 連携のための情報収集を行う。	29	（大阪市立自然史博物館） ア Osaka Metroエアライノーション事業の一環で小冊子「NAGAI DAYS」に協力、出向、同企画の	3	

		SNSでも連携を図った。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努める。 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施する。	29	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努めた。 ・JR、京阪電車、大阪メトロアドエラ、阪急電車等 イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行った。 ウ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施した。 ・京阪電車ミュージアム・インフォメーション当館枠へのポスターの通年掲出を行った。 ・市内主要ホテルへのチラシ送付を行った。	3	
(大阪市立科学館) ア 旅行社などを通じた来館誘致や、個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システムなどを活用する。	29	ア インターネットを通じて展示場とプラネタリウムのチケット購入ができるようシステムを構築し、運用した。新型コロナウイルス感染拡大状況下においては、インターネットによるチケットの事前予約購入システムの活用が、館内の人の密集防止に一定の役割を果たした。また、来館誘致のため、近隣ホテルや観光案内所にパンフレット配架依頼を実施した。	2	
(大阪歴史博物館) ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。 イ 新たな連携のための情報収集を行う。	29	(大阪歴史博物館) ア 共通券の発行を継続して実施し、大阪城公園PMOとの連携により観光客誘致を図った。 イ クラブツーリズムと共同で聖徳太子没後1400年を機に「古代史1日学校in大阪歴史博物館」を10月30日催行した。また、続編として「難波を目指した太子道へ」(12月11日、1月22日実施)を企画・販売した。また、クラブツーリズムとは包括連携協定を締結(10月1日)しマイクロツーリズムをはじめとした旅行企画を定期的に開発、販売した。 。あべのハルカス、四天王寺、クラブツーリズムと連携し、「聖徳太子について学ぶ大人の一日学校」と称したマイクロツーリズムを企画・販売(3月31日実施)した。	4	

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 各館の周辺エリアの魅力向上のため、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する ・各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客 ・各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携						
各館の周辺エリアの魅力向上のため、次の通り、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 30 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客 最寄り駅や近隣の商業施設との連携を図る。 近隣の集客施設や関連施設との相互連携による誘客を目指す。 周辺エリアの広報誌や地域情報誌など広報手段を積極的に活用する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：4、事：3 令和2年度に引き続き、コロナ禍ではあったが、来館者に対する感染対策を施したことにより、近隣の事業者等との協力関係を堅実に維持することができ、市民への来館機運を高めることを行った。	3		3
	(大阪市立美術館) ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加に努める。 イ 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。(再掲) ウ 天王寺駅周辺の商業施設(あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等)との共同広報展開を継続する。(再掲)	30	(大阪市立美術館) ア 以下の特別展でハルカス美術館との半券キャンペーンを実施した。 「豊臣の美術」「揚州八怪」「聖徳太子」 イ Osaka Metro以外にも特別展ごとに近鉄、阪急、JR西日本など交通各社での広報展開を実施した。 ウ てんしば、あべちかなど周辺商業施設でのタイアップを実施した。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などと連携した情報発信に努める(再掲)。 イ 最寄のOsaka Metro車内での放送やポスター掲出、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。(再掲) ウ 商業施設との連携・商店街との連携などによる広報及び誘客をすすめる。	30	(大阪市立自然史博物館) ア 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、臨時休館などのアナウンス、などで協力した。また、「長居植物園案内」はコロナ禍の影響により中止となった月も多かった。 イ 車内放送やポスター掲出を実施した(再掲)。 ウ イオン藤井寺ショッピングセンターで学校向け貸出資料や子どもワークショップ動画などをじっくりご覧いただける「ミニ自然史博物館」を実施(7/22-8/19)、イオンモール大阪ドームシティでは、身近な昆虫の世界を学べる自然史博物館のパネル展を実施した。(7/31～8/15) アインシュタイン展や植物展と関連して近隣商店街との連携も検討したがコロナ禍の影響で実現に至らなかった。	3		

	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行う。 イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行う。 ウ 国立国際美術館など近隣関連施設との相互割引を実施する。	30	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 中之島エリアを始めとしたギャラリーや古美術商など関連施設との広報協力を行った。 イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行った。 (再掲) ウ 国立国際美術館など近隣関連施設との相互割引を実施した。 エ 北浜水辺協議会カフェ事業者との意見交換を行った。	3	
	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。 ウ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。 エ 国立国際美術館との相互割引を実施する。	30	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関にポスターをプログラム更新に合わせ掲示した。 イ 近隣施設にチラシ等を設置したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、設置範囲を近隣地域に制限した。 ウ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」については新型コロナウイルス感染症拡大防止、科学館の長期休館のため、参加を見送った。 エ 国立国際美術館との連携事業は今年度予定されていないため未実施であったが、本事業は中長期的に連携を行う予定である。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める(再掲)。 イ 最寄のOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。 ウ 博物館周辺の商業施設(もりのみやキューズモールBASEなど)との共同広報展開を継続する。	30	(大阪歴史博物館) ア 共通券の発行を継続して実施し、相互の連携を維持した。 謎解きゲーム「謎の城in大阪城」を大阪城公園と大阪歴史博物館をフィールドにして実施した。 イ Osaka Metro谷町四丁目駅での電照広告や館案内ポスターの掲出や谷町線車内音声案内を継続した。特別展ポスターの車内吊り・駅の市政広報板への掲出による広報活動を展開した。 ・京阪電車各駅への特別展等のポスター掲出を実施し、京阪天満橋駅のデジタル地図への館広告掲載を継続した。 ・特別展「あやしい絵展」では、梅田地下コンコースでの大型広告掲出を実施した。 ウ もりのみやキューズモールBASEとの連携は、コロナ禍により停止中。上町台地エリアとして、あべのハルカス近鉄本店と連携し、店内に展覧会ポスター・チラシを設置した。 リアル歴史巡礼クイズ「五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」を大阪商工会議所、大阪観光局の後援を得て実施した。 あべのハルカス、四天王寺、クラブツーリズムと連携し、「聖徳太子について学ぶ大人の一日学校」と称したマイクロツーリズムを企画し、実施した。(前掲)	3	
	(大阪中之島美術館) ア Osaka Metroや京阪電車と連携し、継続的な広	30	(大阪中之島美術館) ア 中之島エリアの美術館までの動線にバナーを設	4	

	報を推進する。 イ 中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会等と連携し、民間企業との広報連携を推進する。		置、Osaka Metro肥後橋駅から京阪中之島線渡辺橋駅の地下動線に大型広告設置をした。 イ 中之島エリアの他機関との広報連携を推進した。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」によるミーティングポイントと連動し、「アートなさんぼ」プログラムポイントを中之島エリアに設置。所蔵作品を活用したポイントラリーとプレゼント企画を実施した。また京阪電車の協力の下、チラシ設置を実施した。 ・中之島三井ビルディングとの連携による「中之島アートウォール」を実施した。 ・中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会との連携を継続的に実施した。		
	(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「OSAKA MUSEUMS」を設置し、広報を行う。 イ Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。 ウ 大阪市内の博物館群を紹介する冊子を作り、市民への情報発信、各館連携を図る。(文化庁補助金による)(再掲)	30	(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「OSAKA MUSEUMS」を設置し、広報を実施した。中之島美術館を特集した「OSAKA MUSEUMS」20号については、1万部を近隣オフィスへの直接配布を行い、近隣の会社員等への周知を図った。また、中之島美術館近隣の飲食店等にポスター掲示、絵葉書設置などを依頼し来客者への周知を図った。 ・Osaka Metroとの連携により、中之島美術館開館告知B1ポスターをOsaka Metro全駅への掲示、肥後橋駅での大型シート設置を行った。 イ Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図った。 ウ 大阪市内の博物館群を紹介する冊子を作り、市民への情報発信、機構内外の博物館施設の連携を図り、「OSAKA MUSEUMS」配布に準じて配布した。(文化庁補助金による)。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 31 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施 周辺エリアの博物館・美術館と連携した事業を展開する。 近隣の公共施設や商店街等と連携したイベントへ参加する。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：4 コロナ禍のためイベント自体が中止になることが多かったが、近隣各所との連携を図りながら、参加者を絞ったり、参加方法を変えるなどして事業を開催することができた。	3	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市環境局などの開催する環境イベントほかに協力する。 イ 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などの連携に努める(再掲)。	31	(大阪市立自然史博物館) ア 予定していた環境局イベントが中止となった。 イ 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、臨時休館などのアナウンス、などで協力した。セレッソ大阪のホーム開催に合わせ、アインシュタイン展の割引、情報提供を実施した。また、アインシュタイン展や植物展と関連して近隣商店街との連携も検討したがコロナ禍の進展で実現に至らなかった。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会	31	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」	3	

	」への参加や水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う。 イ 「こども本の森 中之島」との連携を検討する。		への参加や水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行った。 ・光のルネサンスでは、当館壁面にプロフェクションマッピングの投影などイベント協力を行った。 【令和2年度実績】光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントは、新型コロナウイルスの影響により中止となり協力を継続して行う事はできなかった。 イ 「こども本の森 中之島」との今後の連携に向けての検討を行った。 ウ 中之島沿道連絡会の「中之島モダンシーン」イベントへ参加した。(11月17日～11月21日)		
	(大阪市立科学館) ア 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリアB1、中之島ウエストエリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。 イ モバイルプラネタリウム、サイエンスショーなどのアウトリーチプログラム等での連携を行う。	31	ア 中之島地域のエリアネットワーク「クリエイティブアイランド中之島」に参画し、大阪市中央公会堂や東洋陶磁美術館との共催イベント2件を実施したほか、共同広報を実施した。 イ イオンモールでアインシュタイン展と科学館の活動を紹介するパネル展を実施した。その他、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施を見送った連携事業1件につき、来年度の実施に向けて交渉を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 隣接するNHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、NHK大阪BKワンダーランドにあわせた企画を実施する。 イ 書店や図書館などが実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。	31	(大阪歴史博物館) ア BKワンダーランドは11月に開催され、展覧会チラシを設置した。コロナの影響で5月は中止となった。 イ 「まちライブラリーブックフェスタ2021 in 関西」に参加した。 ウ 次の企画にも参画・協力した。 ・JR西日本と共同で、JR大阪環状線開業60周年キャンペーンの一環として、主要6駅の歴史を解説するポスター掲出を行った(12月まで)。 ・クラブツーリズムと共同して、聖徳太子をテーマとした歴史講座・見学会を10月、12月、1月に実施した(前掲)。 ・大阪市建設局「竹内街道・横大路まつり」に協力し、10月に学芸課長がオンライン形式で講演を行った(10月配信)。 ・歴史街道推進協議会に協力して、歴史見学会の企画を企画・解説(12月、3月開催)。 ・大阪府環境農林水産部主催「ぐるっと大阪湾フォトコンテスト」開催に協力したが、コロナのため中止となった。 ・(一財)地域振興調査会などが立ち上げた「聖徳太子1400年忌まち旅プロジェクト」実行委員会に参画し、企画立案や「聖徳太子を知らうinてんしば」の講師派遣など、プロジェクトに積極的に関わった。 あべのハルカス、四天王寺、クラブツーリズムと	4	

			連携し、「聖徳太子について学ぶ大人の一日学校」と称したマイクロツーリズムを企画し、実施した。(前掲)		
--	--	--	--	--	--

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (3) 民間企業等との協働等 地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する ・各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 ・民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 ・博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	市長の評価		
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 民間企業等との協働等						
地域経済及び産業の活性化のため、次の通り、民間企業等との協働及び相互支援を推進する。 【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 32 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 ミュージアムショップやレストランについて、民間事業者の協力を得て、機能の維持と魅力向上を図る。 図書やミュージアムグッズを扱う「オンラインショップ」の開設を目指す。						
			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3 歴史博物館でオンラインショップを開設し、図録販売など新しい取り組みを始めた。科学館では前年度に引き続きオリジナル商品の開発を着実に進めた。	3		3
	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを間断なく提供できるように努める。	32	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスも休館により4/25～6/27まで休止を余儀なくされたが、ネットショップにより活動を継続した。アンケートは見合わせた。大阪アンダーグラウンド展に際し、Tシャツやエコバック、マグカップやクリアフォルダーなどを開発、販売した。新商品の開発も継続して行った。 イ 引き続き提供を行った。	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施する。 イ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップのリニューアルを検討する。	32	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施した。 イ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップのリニューアルを検討した。 ウ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップでは特別展「黒田泰蔵」にあわせてオリジナルグッズや関連商品の受託販売を行った。3月に開設したオンラインショップでも受託商品やポスター販売なども行った。 【令和3年度実績】ショップ（店頭） 5,219千円（通信販売）3,756千円、258件 【令和2年度売上実績】ショップ（店頭）6,905千	3		

			円（通信販売）3,719千円、129件		
	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。	32	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携してオリジナルデザインのボールペンや防水メモ帳、星座早見盤などを開発し、ミュージアムショップやオンラインショップで販売したほか、企画展「色と形のふしぎ」や大阪大学との博学連携展示に関連した商品を販売し、科学館とショップの魅力向上に貢献した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア ミュージアムショップの魅力向上に努める。 イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引などに加えて魅力向上にも努める。	32	(大阪歴史博物館) ア 令和4年度以降についてもミュージアムショップ運営委託先との契約を継続中である。 4月から公式オンラインショップを開設し、図録・館蔵資料集・グッズ等の販売を始めた。 イ レストランで特別展「あやしい絵展」の期間限定メニューを開発し、若年層に好評となりSNSで多数ツイートされた。	3	
	(大阪中之島美術館) ア ミュージアムショップを設置し、魅力的な物販を推進する。 イ 1階サービス施設エリアのレストランやショップ等の誘致を推進する。	32	(大阪中之島美術館) ア 在阪企業による新たな挑戦を支援する意図をもって、ミュージアムショップ業態に新規参入する企業を誘致し、ショップ設置場所、展覧会における仮設ショップ及び展覧会グッズ製作コンペ参加など、調整支援を行った。また、同企業のデザイン力を最大限に発揮してもらうためにオリジナルグッズの開発などを実施した。 イ コロナ禍における影響によりレストラン誘致については開館から遅れたが、家具用品店の開館は実施した。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 33 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を図る。 民間事業者等と協働し、ICT技術を活用した仮想展示や解説端末などの研究・開発を進める。 大阪にゆかりの深い企業の協力による資料の寄贈やデジタルアーカイブの構築・公開を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：4、中：3 各館とも民間事業者との協働を進めた。市立美術館自然史博物館、東洋陶磁、歴史博物館では、特別展に際し、新しいミュージアムグッズの製品化を行った。また、歴史博物館では通販会社と共同開発のオリジナルグッズも作成した。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 特別展開催にともなうグッズ等の商品開発を行う。	33	(大阪市立美術館) ア 「豊臣の美術」「揚州八怪」「聖徳太子」「メトロポリタン美術館展」でグッズを作成し、販売。「豊臣の美術」「揚州八怪」「聖徳太子」「メトロポリタン美術館展」で音声ガイドを用意した。「揚州八怪」では音声ガイドデータつきの図録も販売した。 8月にはオンラインショップでのセール販売も実施した。3月には大阪の中小企業の技術力あふれる商品をベースに、美術館および館蔵品などをモチーフにしたオリジナルグッズ5アイテムを開発した。来年度から販売を開始する。改修による休館中も商品化を進めていく。	3	

			てんしばを運営する近鉄不動産と、天王寺～新世界エリアの回遊性強化をめざして単発のイベントに頼らない取り組みを検討した。令和4年4月からの「華風到来」を題材にした謎解きゲームをスタートする。		
	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上に努める。 イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも務める。	33	(大阪市立自然史博物館) ア 新商品、再発商品に協力。その他書籍『ミュージアムグッズのチカラ』の表紙に当館グッズが掲載されるなど注目が集まっている。またアンケートによる店舗利用者調査を行った。 イ 大阪アンダーグラウンド展に際し、Tシャツやトートバックなどを開発、販売した。(再掲) 【令和2年度実績】外来生物展の開発4種(バッジを除く)	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。	33	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進した。 ・館蔵品画像のオープンデータの商用利用を含む利用促進に向け、ジャパンサーチとの連携を行った。	3	
	(大阪市立科学館) ア 企業の協力による展示の製作を行う。	33	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携してオリジナル商品を開発し、加えて大手製薬会社とのタイアップにより、一般店舗では入手できない商品の特別販売を行った。 イ 大阪大学、東京大学の協力により常設展示を公開している。また、近隣の企業と展示への協力に関する打ち合わせを行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア ミュージアムグッズの企画開発、販売を民間事業者と連携して実施する方策を模索する。	33	(大阪歴史博物館) ア 特別展「あやしい絵展」でオリジナルグッズを販売した。 株式会社マッシュと共同して「歴史リアル謎解きゲーム 謎の城」を実施した。 ・古代フロアの展示をモチーフとしたオリジナルグッズを通販会社と共同開発・製作した(11月販売開始)。また、ポストカード、クリアファイルなど館蔵品を活かしたオリジナルグッズも製作した(11月販売開始)。館内のショップ、公式オンラインショップ、および通販会社のチャンネルで販売中。	4	
	(大阪中之島美術館) ア 開館及び特別展開催に伴い、グッズ等の商品開発を行う。	33	(大阪中之島美術館) ア ミュージアムショップ事業者と緊密連携し、ミュージアムオリジナルグッズの開発を進めた。また、開館記念展におけるオリジナルグッズの開発については、共催のNHKと読売新聞とともに事業者コンペを実施した。	3	
34 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援 研修等を通じて、民間事業者の地元への理解促進			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：3 自然史博物館では、大阪府内の市町村を中心に、	3	3

や知識習得を支援する。 専門的知識に基づく助言等で、市民活動を行う団体等を支援する。 民間事業者による博物館等資料を使った出版活動や商品開発を支援する。			環境行政の協力を積極的に進めた。その他の館は計画通りに実施し、出版活動や商品開発を支援することができた。		
	(大阪市立自然史博物館) ア 学芸員の知見を求める自治体などの自然環境行政や企業などの環境保全活動の要請にこたえる。 イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全など、自然環境行政、環境活動に協力する。 ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。 エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市民団体の活動に協力する。	34	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府などの環境行政に委員などとして協力を行った。(令和2年度行政委員25件)。 イ 堺市RDB (Red Date Book) の改訂に協力、発行された。大阪府の生物多様性地域戦略検討委員など、事例多数 ウ 月例ハイク、合宿などを含め連携を継続 エ 業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応える。	34	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応えた。写真貸出34件(国内24件、国外10件：有料4件、免除29件) イ 市民団体への出土資料に関する助言 1件 【令和2年度実績】55件 写真貸出54件 取材協力1件 ・発掘出土資料プレス協力1件(京都府埋文)	3	
	(大阪市立科学館) ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。(再掲) ・古代人の宇宙観(6点) ・学天則(3点) ・江戸時代の天文書(6点) ・西洋の古書(3点)	34	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料画像の書籍掲載による依頼対応など、有償による画像提供を6件実施した。 【令和2年度実績】8件	3	
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。	34	(大阪歴史博物館) ア 写真利用の申請に対し、合計222件(有料130件、免除92件)に対応した。問い合わせ対応は随時実施した。 【令和2年度実績】213件(有料140件、免除73件) ・市民団体「喜連村史の会」に講師を派遣し、活動の支援を行い、その成果として共催で特別企画展「大阪町めぐり 喜連」を開催した。(令和4年1月～3月)。 ・市内のライオンズクラブ例会に協力し、館長が歴史講話を行った。	3	

大項目 I-③	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (1) こども及び教員等への支援 (2) 幅広い利用者への支援 (3) 参画機会の提供
------------	---

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 法人は、各館を人々が探究心を抱き、感受性及び創造性を育むことができ、多様な学習ニーズに応えるものとするにより、市民力の向上に貢献する。 (1) こども及び教員等への支援 ・こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 ・教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) こども及び教員等への支援						
こどものリテラシーの向上及び教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 35 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 こども・親子向け展示プログラムや体験型イベントを実施する。 学校利用向けのワークシートの作成や教材の開発・貸出しを行う。 団体鑑賞学習の受入れや来館時のオーダーメイド講演へ対応する。 職場体験の受け入れを実施する。			【機構の評価】 美：一、自：3、科：3、歴：2、中：3 デジタルコンテンツに置き換えるなどして、実施する事業もあったが、コロナ禍のため中止になる事業が多かった。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 小中学生の美術鑑賞授業の要望に応えレクチャー等を実施する。	35	(大阪市立美術館) 地元である天王寺区と連携して準備は進めたものの、コロナ禍における影響等によりレクチャーの実施には至らなかったが、地元の生魂小学校の授業において聖徳太子の絵を鑑賞してもらい、「表現」という手法を学ぶ授業に協力することで教育支援を行った。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化する。 イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う。 ウ 特別展での見学用「ワークシート」、「キッズマップ」「キッズパネル」の開発と提供を行う。 エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談	35	(大阪市立自然史博物館) ア 子どもワークショップを37回分企画したが、対面での実施ができず、休館中はオンライン実施、開館時は非対面方式での代替プログラムなどで提供した。(再掲)。 イ 継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキットなども積極的にYouTubeやホームページに提供、「おうちミュージアム」に整理、再編、積極的に行った。	3		

	対応を実施する。 オ 事前の要請に応じた博物館内での学芸員による特別授業を実施する。 カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。 キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。		ウ 「大阪アンダーグラウンド展」に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」を開発・公開した。ワークシートは学校利用が見込めない中、アインシュタイン展などの学校配布チラシを工夫した。 エ 遠足下見、説明会、相談対応を随時実施した。 オ 秋以降再開。オンライン実施を例外的に2件実施した。 カ コロナ影響により依頼がない。学芸員実習は実施した。 キ 探検クイズは開館期間は継続的に実施した。	
(大阪市立科学館) 1) こども向けワークシートの作成やワークショップ等の実施 ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。 イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。 ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、プラネタリウムに関しても「ファミリータイム」を実施する。 エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。 オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。	35	(大阪市立科学館) 1) ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。 イ 学習投影の投影実績は19回。観覧者には「学習のしおり」を無料配布した。 【令和2年度実績】108回 ウ 「ファミリータイム」の投影実績は199回。また展示場2階において「おやこでかがく」をテーマとした常設展示を行った。 【令和2年度実績】ファミリータイム実施305回 エ ジュニア科学クラブは8月からの長期休館、4～6月の新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館のため、通常の対面型での活動に加えてオンラインを併用する方法を取り、会員向け映像配信や、月刊「うちゅう」での各種情報紹介などを実施した。会員数：48名 オ 大阪市立小学校向けの出張サイエンスショーは、市教委との連携のもと10月から12月に実施した。今年度は施設整備による休館に伴い、30校30件実施した。 【令和2年度実績】計10校10件実施	3	
(大阪歴史博物館) ア 常設展示場内でのスタンブラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布。 イ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」などのこども向け事業を実施する。 ウ 学校団体を対象とした学芸員による遺跡探訪ツアーを実施する。 エ 中学生向け職業体験を実施する。	35	(大阪歴史博物館) ア コロナウイルスの影響で昨年度から引き続き中止した。 イ 「風づくりと風あげ」については1月29日に実施し、親子4組9名が参加した。これ以外についてはコロナウイルスの影響で昨年度から引き続き中止した。 【令和2年度実績】 手作りおもちゃで遊ぼう、むかしの瓦の拓本体験、和同開珎の拓本でしおりをつくろう、綿くり・糸つむぎ体験、ダンボールでつくる、風づくりと風あげ、考古学体験教室(個人)、考古学体験教室(学校向け)は、いずれもコロナのため中止した ウ コロナウイルスの影響で昨年度から引き続き中止した。 【令和2年度実績】コロナ禍のため中止した	2	

			エ 高校の職場訪問 1 件、中学校の職場体験 1 件を受け入れた。 【令和 2 年度実績】中学生向けは新型コロナ拡大のため要望がなく実施せず。高校生 1 件、小学生 1 件の職業講話を行った。 オ 小学校からの要請により、出前授業 1 件を行った。 ・学校利用促進のため、小学校、および中学校向けに作成していた 2 冊の手引書をホームページ上で公開した。		
	(大阪中之島美術館) ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施する。	35	(大阪中之島美術館) ア 外部専門家と連携して、子どもを対象としたワークショップ等の計画を推進した。また子どものためのプログラムを持続的に充実させるべく、協賛を含めた今後の事業スキームについて、財界関係者と検討を進めた。 ・キッズプラザ大阪との協働による子どものためのラーニングプログラム ・開館記念「超コレクション展」における子どものためのラーニングプログラム「いろ色 いろんな作品たち」	3	
36 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施 教員に対する博物館活用に関する研修会やワークショップを開催する。 教員による施設利用の事前学習を支援する。 大阪府・市教育センター等と連携を図り、教科部会や教員を支援する。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：3、事：3 コロナ禍のため、センター側からの中止要請のため実施しなかった研修会もあるが、独自に取り組めるオンライン事業については、実施した。	3	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用のための研修や相談を集中実施する。 イ 教員向けサポート連絡誌TM通信の発行し、利用法の周知に努める。 ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。	36	(大阪市立自然史博物館) ア コロナ禍のため、教員のための博物館の日を、オンライン形式で実施した。 イ 教員向けサポート連絡誌TM通信の発行を再開した。 ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発について、科研費事業などで取り組んだ。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 教員研修・教員のための博物館の日への協力を行う。 イ 館蔵品画像のオープンデータ化を通し、教材への利用推進を図る。	36	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 教員や子どもによる施設利用の事前学習支援の方策について検討した。 【令和 2 年度実績】なし イ 館蔵品画像のオープンデータ化等を通して、教材など教育現場への利活用推進を図った。 2 件 ・中学校教科書への掲載 ・台湾教育部による教育研究プロジェクトへの画像提供 ・館蔵資料 28 件（新規画像 20 件、既存画像 8 件）を「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトで追加公開し、オープンデータ化した（再掲）	3	
	(大阪市立科学館) ア 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエン	36	(大阪市立科学館) ア 大阪市教育センターとの連携による研修「科学	3	

	スショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。 イ 教員と連携を行い、事業の教育効果を高める。		館セミナー」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面実施を中止し、オンラインによる当館学芸員の研修に切り替えて1回実施した。 【令和2年度実績】実績なし。 イ 大阪市教委と連携した教員研修「科学館連携研修」を2回実施した。(オンライン実施)		
	(大阪歴史博物館) ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップなどで当館の魅力を伝えるようにし、当館の活用を図るようにする。 イ 教員研修への協力を行う。 ウ 教員のための博物館の日を実施する。	36	(大阪歴史博物館) ア 教員向けの発信として、学校利用促進のため、小学校、および中学校向けに作成していた2冊の手引書をホームページ上で公開した。コロナ禍で中止していた学校団体見学は再開したが、感染症防止のため教員へのガイダンスは実施していない。 ・同志社中学校が開催する「学びプロジェクト」のうち「戦国サバイバル」に中世史担当学芸員がオンライン参加して協力した(3月9日)。 イ 大阪市教育センターとの連携による教員研修をインターネット配信により8月末に実施した(参加者50名)。 【令和2年度実績】コロナ対応のため実施せず ・第59回全国小学校社会科研究協議会研究大会大阪大会のうち、市立野田小学校の研究授業「戦国の世の統一」に館長が参加し協力した(10月29日)。 ウ 事務局経営企画課と協力し、「教員のための博物館の日2021」を、8月6～31日にオンラインにより実施した。 【令和2年度実績】コロナ対応のため実施せず	3	
	(事務局経営企画課) ア 学校利用を促すための「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を配布する。 イ 夏休み期間に「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催する。	36	(事務局経営企画課) ア 「授業に役立つミュージアム活用ガイド」の配布 イ 「教員のための博物館の日」はコロナウイルス感染症による、緊急事態宣言のため、急遽オンラインに切り替えて実施した。	3	

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (2) 幅広い利用者への支援 ・学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと(再掲11) ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(再掲12) ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(再掲23)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 幅広い利用者への支援						
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 37 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 学校を単位としたメンバーズ制度による高校・大学生等の利用促進を図る。 大学院生や若手研究者への研究協力(インターン制度を含む)を行う。 市民による高度な研究を支援するための制度を継続的に実施する。 関連団体への専門的助言などを通じて支援を行う			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 コロナ禍のため、時期をずらす、オンラインでの研修など工夫を凝らし、可能な限り、実習を行った。また、キャンパスメンバーズ制度も契約を年度中から再開した。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 美術研究所での素描・絵画・彫塑の実技指導を通じて、市民の知識・技能の習得を支援するとともに、広く美術文化の振興、発展に大きく寄与する。 素描部 石膏素描科 前期 実技コンクール 年6回 石膏素描科後期 実技コンクール 年6回 人体素描科 実技コンクール 年6回 絵画部 美術研究所展 年1回 彫塑部 美術研究所展 年1回 イ 要請にもとづき、大阪市立大学等での博物館学関連講座への出講を行う。 【令和3年度目標】博物館展示論、博物館資料保存論、博物館経営論 ウ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。(再掲)	37	(大阪市立美術館) ア 次のコースを開設し、実技指導を通じた知識・技能の習得を支援した。 素描部 石膏素描科 前期 実技コンクール年6回 石膏素描科 後期 実技コンクール 年6回 人体素描科 実技コンクール 年6回 絵画部 美術研究所展 年1回 彫塑部 美術研究所展 年1回 来年度からの改修に伴う休館に向けてオンラインサポートをメニュー化。 イ 博物館関連講座出講：3名 ウ 実施(1,363人)。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 博物館実習などを通じ、学生への支援を行う。 イ 要請にもとづき、大学での博物館学関連講座への出講を行う。	37	(大阪市立自然史博物館) ア 夏期13名をオンライン形式で実習受け入れを行った。今後秋期15名、冬期に10名、他2名 合計40名を受け入れ予定。コロナ禍の影響により一部	3		

	ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。 エ ジュニア自然史クラブを通した自然史科学に興味を持つ中高生への直接的な指導を行う。 オ 周辺地域のSuper Science Highschool指定校などへのサポートを要請に基づいて行う。 カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲) キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育学的指導を含めたエデュケーターとしての育成に努める。 ク キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 東洋陶磁研究の世界的な拠点として、外来研究員や研修生(インターン)の受け入れを推進する。【令和3年度目標】研修生(インターン)1名 イ 博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れを行う。 【令和3年度目標】2大学 ウ 館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援する。 エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。	37 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大学院生インターン4名(継続2名・新規2名)の受け入れを行った。 【令和2年度実績】インターン3名の受け入れを行った。 イ 博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れを行った。 大阪市立大学46名・大阪芸術大学47名 【令和2年度実績】3大学55名(※市大の展示論を含む) ウ 館蔵資料の調査対応などを通じた研究者の活動支援を行った(2件2名)。 【令和2年度実績】なし エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促した。 キャンパスメンバーズ 443人 【令和2年度実績】483人	3
	(大阪市立科学館) ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場を設け、大学と高校生の仲立ちを担う活動を実施する。 イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学	37 (大阪市立科学館) ア 全国の大学と協力し、天文を学べる大学や大学院に興味のある高校生教員、保護者等を対象にしたイベント「天文学者大集合! 宇宙を学ぶ大学紹介イベント」は、今年度はオンライン事業に変更して6月13日に開催した。500名参加。	3

	研究所事業を行う。 ウ 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。 エ 一般市民が演示を行う科学実験大会を実施する。 オ キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す。		【令和2年度実績】オンライン実施で97名参加 イ 中之島科学研究所事業を実施し、研究員と学芸員等による講演、議論を行う「コロキウム」を3回実施した(コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館、施設整備による長期休館中は中止)。 また、中之島科学研究所事業に参加の元研究所研究員による研究報告1本を、科学館研究報告誌第31号に掲載した。 【令和元年度実績】コロキウム8回実施 ウ 友の会の活動を支援し、例会での講演をはじめとした各種支援を実施した。(参考：友の会会員数725人) エ 科学実験大会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施を見送った。 オ キャンパスメンバーズ制度の利用者数は、1,182名であった。		
	(大阪歴史博物館) ア 夏季に博物館実習などを通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。 イ 要請にもとづき、大阪大学、大阪芸術大学、大阪市立大学等への出講を行う。 ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。 エ キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す。	37	(大阪歴史博物館) ア 令和3年度は、11大学42名の実習生を受け入れた。実習中の密を避けるために、主たる会場を、従来の第1研修室から講堂に変更した。また、見学実習4大学70名を受け入れた。 【令和2年度博物館実習実績】12大学46名 イ 大阪大学、大阪芸術大学、関西大学、京都橋大学、同志社大学への出講を実施した(合計5講座)。このほか機構との連携協定により、大阪市立大学の博物館学関連講座3講座に学芸員を派遣した。 【令和2年度実績】大阪大学、大阪芸術大学、関西大学、神戸大学、同志社大学、大阪市立大学3講座 ウ 15件の資料閲覧申請に対応した。 【令和2年度実績】11件 エ 令和3年度の来館実績は1,147名。 【令和2年度実績】498名	3	
	(大阪中之島美術館) ア これまでの外部研修生(インターン)制度を見直し、開館後の研修プログラムの検討を進める。 イ 開館後の博物館実習生の受け入れ計画を作成する。 ウ 大阪市立大学での博物館学に係る講義を分担する。	37	(大阪中之島美術館) ア これまでの外部研修生(インターン)制度を見直し、開館後の研修プログラムの検討を進めた。 イ 開館後の博物館実習生の受け入れ計画を作成した。 ウ 分担なし。	3	
	(経営企画課) ア キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。	37	(事務局経営企画課) 今年度は、当初より、キャンパスメンバーズを実施したが、コロナ禍のため、4～5月の臨時休館があった。それ以降は、実施し、学生等を受け入れた。 特に大阪市立大学とは、本制度を利用しながら博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3講座)との連携を実施し、講義で各館を見学するなどした。	3	

38 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。(再掲) 踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。(再掲) ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。(再掲)		【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 コロナ禍のため、中止の事業が多かったが、可能なものについては、感染予防を施しての実施、オンラインでの開催など、機会の確保に努めた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する。(再掲)	38 (大阪市立美術館) ア「豊臣の美術」展では2回講演会と2回の見どころレクチャーを実施した。 「揚州八怪」展では4回のレクチャーを行った。また、上海博物館の動画3本、茶事動画3本、学芸員インタビュー動画8本、4コマ漫画8話を作成した。 「聖徳太子」展では講演会1回、舞楽公演1回、絵解き法話10回＋英語版1回を行った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。(再掲) イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。(再掲) ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。(再掲)	38 (大阪市立自然史博物館) ア 野外観察会、室内実習、ワークショップなど合計174回(うち9月までは94回)を企画したが、緊急事態宣言および大阪府緊急事態宣言の期間、対面行事は実施することができなかった。結果、 ・コロナにより中止となった行事55回 ・オンライン形式で実施22回 ・形式を変更して実施した行事17回 実施した行事の参加者数は1,152名であった。オンライン行事はライブ参加者889名、再配信4,641回を含む)自然史フェスティバルやジオカーニバルも中止となり、対面の行事は人数制限など厳しい状況となった。中止になった行事の代替としてTwitterやホームページによるコンテンツ提供を「おうちミュージアム」と連携して行った。また、YouTubeへ動画コンテンツを積極的に公開し、4月以降新規に実施した21番組で6863回再生された。大阪市立自然史博物館チャンネル全体では令和3年4月から9月末までで6,2万回再生、4,400時間再生、440名チャンネル登録者増加となった。 (令和2年度実績 7万5千回の再生、7222時間の再生時間、742名のチャンネル登録者増加) イ 大阪アンダーグラウンド展に関連し、学芸員によるオープンセミナーを2回、これを含め学芸員のセミナーを12回企画し9月までに6回オンライン実施した。合計303人がライブ視聴、3485回再生。 ウ 地学団体研究会との共催講演会を5月に特別展関連企画として実施198人ライブ参加、再生回数1363回。さらに貝類学会と共催した公開講演会が5月に行われた127人参加(再配信なし)。3月に関西自然保護機構との共催webシンポジウムを実施した。	4	

(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する。(再掲) 【令和3年度目標】2回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。(再掲) ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。(再掲)	38	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などの開催は感染症予防対策のため主に動画コンテンツを制作して配信した。オンラインによる実施により感染症予防対策を行うと同時に、これまで実来場が叶わなかった幅広い利用者層を想定した事業として実施した。(再掲) 実来場1回、オンライン配信4本 【令和2年度実績】実来場2回、オンライン2回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会などは感染症予防対策のため、オンラインでの講演を行った。オンラインによる実施を通し、実来場が難しい利用者に対しても参加の機会を提供した。(再掲) 2回(オンライン) 【令和2年度実績】2回(オンライン) ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」をオンライン開催(令和4年3月5日)で行った(再掲)。 【令和2年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」をオンライン開催(令和3年3月7日)で行った。	3
(大阪市立科学館) ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。(再掲) イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。(再掲) ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。(再掲) エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。 オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。(再掲)	38	(大阪市立科学館) ア 学芸員等による各種実験教室・講座として、天体観望会を2回(うち1回はオンライン事業)、大人の化学クラブをのべ2回、中之島科学研究所コロキウムを3回、夏休みの自由研究教室を3回開催した。会員制のジュニア科学クラブは、会場実施とオンライン実施を併用して月1回開催した。また新規事業として、オンラインによる「連続オンライン講座」(全11回)、「金曜星空トーク」(週1回)を9月から1月に実施した。(再掲) 【令和2年度実績】8件 イ 5月より月1回、科学デモンストレーターによるオンライン事業「オンライン科学実験・工作教室 身近な科学、再発見! おうちの科学を探して遊ぼう!」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーは休止した。(再掲) 【令和2年度実績】展示ガイド活動、エキストラ実験ショー、ともに実績なし。 ウ アウトリーチ事業では、5件実施した。(再掲) 【令和2年度実績】5件 エ 市民からの問い合わせ対応を随時行った。(再掲)	3
(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」の継続的に実施する。(再掲)	38	(大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は、コロナウイルスの感染拡大状況を見据え、上半期の開催は見送り、12月に3回、1月から3月に3回(計6回)開催した。(再掲)	3

イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する。 （再掲） ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する。（再掲） エ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。 。（再掲）		） 【令和2年度実績】1期3回（165人） イ 感染症対策としてガイドレシーバーを利用した考古学入門講座「考古学散歩」を実施した（1期2回19名、第3回は緊急事態宣言のため中止したが12月に実施。19名）。漢文講座、古文書講座は、コロナウイルスの影響で今年度の実施を見送った。（再掲） 【令和2年度実績】 ・考古学入門講座、漢文講座は、いずれも中止した ウ 特別展「あやしい絵展」 ・スライドトーク 157人 ・声優トークショー 126名 ・講演会 85人 特別展「難波をうたう」 ・講演会 76名 ・スライドトーク 53名 特別企画展「大阪町めぐり 喜連」 ・スライドトーク 2回：計140人 特集展示「新発見！なにわの考古学2021」 講演会 60名 エ 11月3日に開館20周年を記念して「館長講演会 細川ガラシャと大坂」を実施（90名）。（再掲）	
（大阪中之島美術館） ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施する。（開館前より継続実施）（再掲） イ アーカイブズの方針、収集や整理、システム開発や運用方法等にかかる研修、普及事業を実施する。	38 （大阪中之島美術館） ア PFI事業者や外部機関と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施した。 ・展示：中之島三井ビルディングとの協働による「中之島アートウォール」（4月～） ・トークイベント：「アートとデザインの境界を語る vol.1」（8月：オンライン・実来場の併用） ・シンポジウム：国際ミーティング「都市のアーカイブ」（9月：オンライン・実来場の併用） ・キッズプラザ大阪との協働による子どものためのラーニングプログラム（10、3月） ・「生きた建築ミュージアムフェスティバル」への参加（10月） ・おおさか創造千島財団との協働による現代美術イベント（11月） ・開館記念トークイベント（11、12、1、2月） ・開館記念ラウンドテーブル（3月） ・開館記念シンポジウム（2月） ・クリエイティブアイランド中之島実行委員会との協働によるシンポジウム（2月） ・大阪市、文楽、現代美術作家との協働による舞台芸術イベント（2月） ・NHKとの協働による府内各所で開催されるコレクションについての連続講座（2月） ・開館記念「超コレクション展」における子どもの	3	

			ためのラーニングプログラム「いろ色 いろんな作品たち」（2月～3月） ・現代美術作家との協働による市民参加型作品制作（3月頃）（以上、再掲） イ アーカイブ関連事業として研修・普及事業を計画・準備した。 【令和2年度実績】 ・アーカイブOSSフォーラム2020（9月16日） ・大阪フィルムアーカイブ計画2020年度 収集・所蔵フィルム 上映会（文化庁／大阪歴史博物館）全7プログラム（3月7・9～15日） ・アーカイブ研修会「美術分野におけるオーラルヒストリーの収集と管理」（3月26日）		
	（事務局経営企画課） ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。（再掲） イ 大阪市立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ（6講演）、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。（再掲） ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。（再掲）	38	（事務局経営企画課） ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を1～2月に16講座実施した。 イ 大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、3月に6講座した。また、3月5日にシンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く ～大坂/阪 画壇再考～」を実施。 ウ 令和4年3月に1件実施 【令和2年度実績】 2件	3	
39 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する(再掲)。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する(再掲)。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する(再掲)。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも展覧会ごとに図録等を計画どおり作成した。東洋陶磁美術館ではデジタル冊子の製作・発行も行った。	3	3
	（大阪市立美術館） ア 研究紀要を発行し、ホームページ上で公開する。（再掲） イ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)	39	（大阪市立美術館） ア 研究紀要を3月に刊行・公開した。 【令和2年度実績】研究紀要年1回 イ 広報誌『美をつくし』を9月・3月に発行した。 。 【令和2年度実績】2回 「豊臣の美術」（独自作成）、「揚州八怪」（独自作成）、「聖徳太子」（共同作成）、「メトロポリタン美術館展」（巡回販売）の4回の特別展で図録を作成・販売した。 民間の助成金により特集展示「井口古今堂と近代大阪」展リーフレットを作成した。（再掲）	3	
	（大阪市立自然史博物館） ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開。（再掲） イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的な発行。（再掲） ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通	39	（大阪市立自然史博物館） ア 大阪市立自然史博物館研究報告76号を発行した（再掲）、自然史研究4巻5号を発行した。（再掲） イ 収蔵資料目録53集を発行した。（再掲） ミニガイドNo.34 「砂浜の砂をのぞいてみたら」	3	

	じ、館の活動を公開する。 エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。(再掲)		を発行した。(再掲) ウ 館報46号を発行した。(再掲) エ 次期特別展解説書の制作を実施した。(再掲) オ 友の会発行の月刊誌Natue Study67巻4号から68巻3号の12冊の発行を行った。(再掲) カ 共著書籍の出版が発行された。(再掲) キ HPでの新着情報60件、Twitter 235件、FaceBook180件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを10330人がフォロー、FaceBook 2564人がフォローしている。今年度は、アインシュタイン展の情報提供を博物館FaceBookにも連動させるなどの工夫を行った。特に今年は論文の発行などについての発信を強めた。(再掲)	
(大阪市立東洋陶磁美術館)	ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行う。(再掲) イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。(再掲)	39	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行った。(再掲) 編集発行2件、編集2件 - 企画展「柳原睦夫 花喰ノ器」展図録の編集、発行、販売 - 企画展「福井夫妻コレクション 古丸谷」展図録の編集、販売 - 館蔵品図録『大阪市立東洋陶磁美術館コレクション選』の販売 - デジタル冊子『加彩婦女俑に魅せられて』の編集発行、HP上での無償頒布 【令和2年度実績】編集発行3件、編集2件、再版1件 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、報告書「李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」」の冊子及びオンライン開催用PDF版を発行	3
(大阪市立科学館)	ア 月刊誌「うちゅう」を発行する。(再掲) イ 3か月ごとに「科学館だより」を発行する。(再掲) ウ ホームページ、Twitter、YouTube等を利用した情報発信を行う。(再掲) エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。(再掲) オ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。(再掲)	39	(大阪市立科学館) ア 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。(再掲) イ 「科学館だより」を3回発行した。今年度は8月23日から2月1日まで長期休館したため3回の発行となった。(再掲) ウ ホームページ内に学芸員のページを設置した。また、スタッフだより、ツイッターなど、学芸員が紹介するページの設置、公開を行った。(再掲) エ ミニブックを20冊作成し、ミュージアムショップとオンラインショップで販売した。今年度は2冊を新規製作した。(再掲) オ ホームページ上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌などのオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。また、Twitterでは、4～6月と8～2月の休館期間中において通常の発信に加え、ハッシュタグ	3

			[#エア大阪市立科学館]を付けて、科学情報を積極的に発信した。またYouTube上において、「学芸員の展示場ガイド」の他にも、科学実験動画、天文学習用動画、サイエンスショーや金曜星空トークの見逃し配信なども行った。(再掲)		
	(大阪歴史博物館) ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。(再掲) イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。(再掲) ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。(再掲) エ 特別展の図録を作成する。(再掲) オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。(再掲)	39	(大阪歴史博物館) ア 研究紀要第20号を編集・発行した。第19号からデータ公開をホームページから、総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」での公開に統一した。(再掲) 【令和2年度実績】研究紀要 第19号 イ 共同研究報告書16、館蔵資料集18を発行した。(再掲) 【令和2年度実績】共同研究報告書15、館蔵資料集17「旧大阪市都市工学情報センター所蔵写真 大阪城とその周辺」 ウ 令和2年度の年報を発行し、ホームページに掲載した。(再掲) 【令和2年度実績】 「大阪歴史博物館年報」平成31(令和元)年度 エ 特別展「あやしい絵展」は巡回展のため図録販売を行った。「難波をうたう」は図録(展示ガイドブック)の作成を行い、10月に発行・販売した。(再掲) 【令和2年度実績】2本の巡回特別展において企画参画し作成 オ 開催する6本の特集展示で作成・配布した。(再掲) 【令和2年度実績】開催した4本の特集展示において作成・配布(中止の特集展示1本は作成のみ)	3	
	(大阪中之島美術館) ア アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。(開館前より継続実施)(再掲) イ 撮影済みの画像データの公開 ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲) ウ 特別展の図録を作成・販売する。(再掲)	39	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を進めている。美術館への移送後、燻蒸を実施した。 イ 開館時に、アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開するため整備を行った。 ウ 作品資料の撮影を行うとともに、撮影済みの画像データの登録を進め、収蔵品管理システムの充実を図った。	3	
40 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)などを活用した多言語対応を進める(再掲)。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る(再掲)。			【機構の評価】 美:3、自:3、陶:3、科:3、歴:3 外国人の受け入れがほとんどなかったが、将来に向けた見直しを行った。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 改修後の運用を見据え施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。(再掲) イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を	40	(大阪市立美術館) ア 施設案内の英語表示以外の多言語化については改修工事を含めて検討した。ウェブサイトでの展覧会情報の英語対応は実施した。 イ 展示室ごとの解説や、作品のキャプションタイ	3	

	生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。（再掲） （大阪市立自然史博物館） ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。（再掲） イ 常設展示場内における外国語表記について QRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。（再掲） ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。（再掲）		トルなどは英語対応した。ホームページなどでの対応も進めた。		
40	（大阪市立自然史博物館） ア ホームページの見直しなどをすすめ、お家ミュージアムを整理作成した、ほか学芸員のリサーチマップサイトへのリンクを行った。 イ 充実に向けて引き続き検討を行った。展示室の概要説明などでの4ヶ国語表記など、最小限は実現できていると考えている。 ウ 英語による非常放送などは実現しているが、スタッフによる対応などさらなる改善手法について検討した。（再掲）	3			
40	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア 平常展示における主要館蔵品約60件の多言語対応音声ガイド機のレンタル（有料）に代わり、無料作品解説アプリ（「ポケット学芸員」）の提供を開始する。（再掲） イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。（再掲） ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲）	3	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア 平常展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ（ポケット学芸員）の提供を継続しながら多言語対応として中国語（簡・繁）、韓国語を追加した。 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化推進のため、利用規約をはじめとするテキストの英語、中国語（簡・繁）、韓国語への翻訳を行った。 【令和2年度実績】作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・鼻煙壺のキャプション改訂 ウ エントランス増築棟建築計画に合せて実施設計に反映した。（再掲）		
40	（大阪市立科学館） ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。（再掲） イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。（再掲） ウ 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲） エ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。（再掲）	3	（大阪市立科学館） ア ホームページの自動翻訳や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語・仏語（三つ折りリーフレットのみ）の対応を実施した。（再掲）。 イ 常設展示物の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」において、英語、中国語、韓国語で運用した。また、YouTubeで公開中の展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」の一部に英語字幕を入れて公開した。（再掲） ウ 施設案内の英語、中国語など多言語化を一部実施した。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。（再掲） エ YouTubeの展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」は順次撮影、公開件数を増やした。またスマートフォンアプリを利用した展示場解説文の多言語化（英語、中国語簡体字、韓国語）を運用した。（再掲）		

	(大阪歴史博物館) ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。(再掲) イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。(再掲)	40	(大阪歴史博物館) ア 平常は7種の外国語パンフレット配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めたが、本年度はインバウンドが皆無の状態であった。また展示改修基本計画において音声ガイドや情報システムでの外国語対応について検討した。(再掲) イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。(再掲)	3	
	(大阪中之島美術館) ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。(再掲)	40	(大阪中之島美術館) ア 館内サインやホームページやオンラインチケット販売システム等の他言語化を計画し、整備を進めた。	3	

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (3) 参画機会の提供 ・ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 ・各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ・さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 参画機会の提供						
市民活動に寄与するため、次の通り、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 41 ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 友の会の組織と自主性を活かした運営を支援する各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：3 コロナ禍のため、ボランティア活動などがほぼできなかったが、可能な場合は、研修や、一部活動を実施した。	3		3
	(大阪市立自然史博物館) ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を施して活動が充実するよう継続して検討を行う。 イ 学生むけのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。 ウ 関連NPO法人などとの協働事業を積極的に実施する。 エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。(再掲)	41	(大阪市立自然史博物館) ア 例年補助スタッフとして各種野外行事・実習などを支援してもらっているが、4月を除き、コロナ禍のため中止した。 イ 昨年度から継続の学生が参加し、研修を受けている。 ウ 催事は少ないが各NPOと連携を進めている。4月には活動報告会を連携してオンラインにて実施。912回再生 エ 月例ハイイク、合宿などを含め連携を継続(再掲)	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 当館活動に賛同・支援する機会を広く提供するため、ボランティア制度の再検討と新たな協賛制度を検討する。	41	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル開館後に向けたボランティア制度の再検討のため、ボランティアガイドによる意見交換会及びメールによる意向調査を実施した。ま	3		

		た、ボランティアガイドを対象に、展覧会に関する研修及び意見交換会を実来場により実施した。 1回 【令和2年度実績】 展覧会ごとの研修 2回		
(大阪市立科学館) ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、プチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。 イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。 ウ 科学館だいすきクラブ、友の会活動、東垂天文学会の活動支援を行う。	41	(大阪市立科学館) ア 展示解説ボランティア「サイエンスガイド」による活動は、4月に活動再開に向けての研修をスタートしたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言、まん延防止措置発出のため休止となった。また、自然史博物館で開催する特別展「アインシュタイン展」でのガイド実施のための研修を1回実施したが、感染症拡大防止のため活動は休止となった。 イ 5月より月1回、科学デモンストレーターによるオンライン事業「オンライン科学実験・工作教室 身近な科学、再発見！おうちの科学を探して遊ぼう！」を実施した。加えて、2025年の大阪万博に向けての活動を開始したので、館として支援している。エキストラ実験ショーについては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止し、研修を1回実施した。 ウ 友の会活動では、例会やサークルなどの実会場実施・オンライン開催を支援した。科学館大すきクラブの活動支援は、新型コロナウイルス感染症感染拡大のために中止になった活動の再開に向け随時打ち合わせなどを行った。東垂天文学会への活動支援は、新型コロナウイルスのため実施しなかった。	3	
(大阪歴史博物館) ア ボランティア活動を維持し、特別展および博物館見学、異文化理解などの研修を行い、活動が充実するように努める。 イ 近隣地域に活動拠点を置く NPO 法人などと、わくわく子ども教室「風づくりと風揚げ」などの協働事業を実施する。	41	(大阪歴史博物館) ア 新型コロナウイルス感染症防止のため、通常実施の「ハンズオン」「スタンプラリー」「歴史を掘る」「遺跡探訪」の4活動は引き続き休止、また昨年8月から実施していたバックヤードでの活動も、昨年12月に休止して以来、再開を見合わせた。 コロナ対策で研修が困難なため、研修に代わるものとして発行した「ボランティアだより」は27～34号までを発行した。また、オンラインによるボランティアミーティング(2/23)、研修(3/13)を実施した。 【令和2年度実績】132名(49日)バックヤードの活動のみ イ コロナウイルスの影響により、大阪観光ボランティアガイド協会などへの講師派遣は行えない状況であった。 【令和2年度実績】コロナ対応のため実施せず ・恒例となっているNPOまち・すまいづくりと共催の「風づくりと風あげ」は、今年度はコロナ対策を講じた上で、1月29日に実施し、9名の参加を得た。	3	

42 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取する。 友の会会員等との意見交換の場を設け、意見を聴取する。 市民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。			【機構の評価】 自：3、科：3、歴：3 コロナ禍において対面での取り組みが難しかった。そのような中でも活動再開に向け協議を行った。	3		3
	(大阪市立自然史博物館) ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議会を設置し、ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を検討する。 イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。	42	(大阪市立自然史博物館) ア 協議会についてはまちづくり関係者、コミュニティビジネス関係者、NPO経営アドバイザーなどの候補を決定し、打診し打ち合わせを目指したが臨時閉館に伴い延期している。連携活動の評価などを依頼予定。 イ 評議員会（ネット会議により実施）、事業WG（ネット会議または対面により実施）などで意見聴取した。 【令和2年度実績】総会、評議員会5回、事業ワーキンググループ8回開催 ウ 自然史センターと毎月協議を実施（オンラインが主）、事業報告会はオンライン実施により、912回再生。	3		
	(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、意見徴収を行う。	42	(大阪市立科学館) ア サイエンスガイド活動の再開等にむけ、オンライン等にてガイドリーダーと20回の打ち合わせを実施した。また、科学デモンストレーターと、活動再開や研修について適宜打ち合わせを行った。	3		
	(大阪歴史博物館) ア ボランティアとの意見交換の場として、ボランティア懇談会を開催する。 イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取する。	42	(大阪歴史博物館) ア ボランティア懇談会の開催が困難であるため、ボランティアだよりに近況報告を投稿してもらい企画を開始し、現状の把握に努めた。また、初めての試みとしてZoomを使った意見交換会を1回実施した。 【令和2年度実績】ボランティア懇談会の代替アンケートを1回実施 イ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度から引き続き活動休止中。5月、7月、11月、3月に幹事会を開き活動再開について協議したが、状況が十分に改善していないため再開を見送った。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 43 さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する(再掲)。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する(再掲)。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3 コロナ禍でも対応できる事業については、実施した。	3		3

発表の場を提供する(再掲)。					
(大阪市立美術館) ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する。(再掲)	43	(大阪市立美術館) ア 利用のべ82団体 館長賞のべ52団体	3		
(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。(再掲) イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲) ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。(再掲) エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。(再掲)	43	(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバル開催を予定したが過密を避けることが難しいと判断され、中止とした。(再掲) イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行った。(再掲)連携研究者の研究成果もアピール。 ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会として3月に『地域自然史と保全』研究発表大会をオンライン実施した。 エ アーティストによる標本活用など、芸術分野とのコラボレーションを継続して検討した。(再掲) オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努めた。(再掲)	3		
(大阪市立科学館) ア エキストラ実験ショーの実施をはじめとした科学デモンストレーターの活動を支援する。 イ サイエンスガイドによる「サイエンスガイドの日」を開催する。 ウ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。 エ 科学館だいすきクラブによる展示解説を支援する。 オ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。	43	(大阪市立科学館) ア 5月より月1回、科学デモンストレーターによるオンライン事業「オンライン科学実験・工作教室 身近な科学、再発見！おうちの科学を探して遊ぼう！」を実施した。その他研修を実施した。一方、エキストラ実験ショーは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。 イ コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は実施しなかった。 ウ 今年度はオンライン実施となった青少年のための科学の祭典へ、友の会から1件出展を行った。【令和2年度実績】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実績なし エ 科学館大好きクラブによる展示解説は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施はなかったが、活動再開に向けた打ち合わせと準備を随時行った。【令和2年度実績】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実績なし オ 5月より月1回、科学デモンストレーターによるオンライン事業「オンライン科学実験・工作教室 身近な科学、再発見！おうちの科学を探して遊ぼう！」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーは休止した。(再掲)	3		
(大阪歴史博物館) ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。(再掲)	43	(大阪歴史博物館) ア 市民団体「喜連村史の会」との共催で、特別企画展「大阪町めぐり 喜連」を開催し、成果発表	3		

			の場を提供した。 例年共催している「歴史学入門講座」はコロナウイルスの影響でオンライン開催となるなど、連携すべき講座等自体が実施できなかった。（再掲） イ わくわく子ども教室「手作りおもちゃで遊ぼう」では、市民の地域団体がボランティア「おもちゃ作りサポーター」として活動し、市民活動の発表の場ともしてきたが、今年度も感染防止のため実施を見送った。（再掲）		
--	--	--	--	--	--

大 項 目 1-④	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 4 大阪中之島美術館の開館に向けて
--------------	--

中期目標	4 大阪中之島美術館の開館に向けて 法人は、大阪市北区中之島に建設予定の大阪中之島美術館について、2021年度中の開館に必要な準備業務を行う。 (1) 大阪中之島美術館の開館に向けて ・コレクション展及び企画展の開催の準備 ・新たな博物館等資料の収集 ・博物館等資料の公開に向けた修復及びアーカイブ化 ・開館に向けた機運の醸成 ・大阪中之島美術館とともに運営するPFI事業者の選定
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 大阪中之島美術館の開館に向けて						
[1] 2019年度：法人が開館準備業務を行う。 [2] 2020年度から2021年の建物引渡し時まで：選定されたPFI事業者の一部を委託して、共に開館準備業務を行う。 [3] 2021年の建物引渡し時から開館まで：学芸員がPFI事業者等に在籍出向した上で、PFI事業者が運営権者として開館準備業務を行う。 [4] 開館後：PFI事業者が運営権者として美術館の運営を行う。 ・大阪中之島美術館の建設に関して大阪市と連携して進め、学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう助言を行う。[1] [2] (上記の各時期に該当、以下同じ) ・大阪中之島美術館の運営を担うPFI事業者の公募及び選定業務を行う。[1] ・美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。[1] [2] [3] [4]	(1) 整備事業への関与 大阪中之島美術館の建設に関して、大阪市と連携して進める。 1) 大阪市及び工事業者との間で開催される工事定例会や整備内容に関する協議等に積極的に参加し、情報の収集を行う。 2) 収蔵作品資料の管理や開館後の運営について責任をもつ学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう、大阪市に助言を行う。	44 -1	1) 工事定例会議や整備内容に関する協議について積極的に参加し、情報の収集を行った。	3	3	
		44 -2	2) 展示室及び収蔵庫の仕様・設備をはじめ、館内のあらゆる施設・設備について学芸員と大阪市技術担当が共に検討し、助言等を行った。	3	3	
		(2) 開館準備実施 1) コレクション展及び企画展の開催の準備 ア 収蔵作品資料及び図書等の大阪中之島美術館への輸送(引越)準備を行う。 ・昨年度立案した下記の計画に従い、収蔵作品資料及び書類・図書等の製函及び大規模輸送、さらに収納・配架を安全かつ効率的に実施する。 ①収蔵作品資料の輸送前製函計画 ②収蔵作品資料の輸送及び配架計画	44 -3	1) コレクション展及び企画展の開催の準備 ア ・所蔵作品資料の輸送準備及び輸送・検品を実施した。 ・収蔵庫への収納計画に基づき、収納調整を実施した。 ・図書資料を整理し、燻蒸を実施中。その後配架を実施した。 ・製函・廃棄等の計画に従い、製函・廃棄等を実施	3	3

・収蔵作品資料の公開に向けた修復と額装を行う。[1] [2] [3] [4] ・開館後に開催する展覧会(企画展・コレクション展)の実施に向けた準備を進め[1] [2] [3]、開館後は展覧会の準備と開催を継続的に行う。[4] ・作品資料に関する情報及び画像データの整備を行う。[1] [2] [3] [4] ・アーカイブ活動の充実のための図書やアーカイブ資料の整備を行い[1] [2] [3] [4]、開館後はアーカイブ室を運営する。[4] ・収蔵作品資料について、準備業務をへて引っ越しを実施する。[1] [2] [3] ・ヴィジュアル・アイデンティティ(VI)の構築と展開をデザイナーと共同して推進する。[1] ・広報活動やイベント開催の実施と、開館に向けた機運の醸成を進める。[1] [2] [3] ・他の美術館・博物館、大学、企業等と連携して、共同の研究や事業を実施する。[1] [2] [3] [4]	③書類・図書等の輸送及び配架計画 ・収蔵作品資料の検品を実施する。 イ 開館後に開催する展覧会(企画展・コレクション展)について企画立案し、実施に向けた準備を進める。PFI 事業者と協働し、令和7年度以降に開催する展覧会の計画を進める。 ウ 大阪中之島美術館で必要な備品等の調達を行う。 ・昨年度選定した業者からの備品の納品及び検 ・設置等を安全かつ効率的に実施する。	した。 イ ・開館当初3年間の企画展について具体的に準備を進めた。 ・コロナ影響に係る企画変更の対応を実施した。 ・共催メディアや巡回候補美術館との協議を詳細に進めた。 ・作品借用交渉を進めた。 ・令和7年度以降に開催する展覧会の計画に着手し、準備調整を進めた。 ・観覧料の設定について、民間事業者への調査委託を通じて、適正価格を設定した。 ウ ・選定発注済みの備品の納入に対応し、検品・登録 ・設置を実施した。 ・美術館建物の引き渡し後の検証により追加が必要な備品について発注手続きを進めた。		
	3)開館記念企画展の準備 ア 開館記念企画展を準備する。 大阪中之島美術館の開館にあたり、5階及び4階すべての展示室を活用し、テレビ局と協働して開館記念企画展を開催する。 ・「Hello! Super Collection 超コレクション展」(特別展) 2月2日～3月21日、開催日数42日 開館を記念し、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する。 【令和3年度予算目標】84,000人 イ 開館記念企画展の効果的な広報を実施する。 ・PFI 事業者と協働し、ウェブサイトや SNS 等の更新や充実等を通じて、開館記念企画展とその関連事業の情報を発信する。 ・大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。	46 ア 開館記念としてNHK及び読売新聞社との共同出資による展覧会を実施し大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介することができ、来館者数は目標を大きく上回った。 【来館者】126,310人】 ・「Hello, Super Collection 超コレクション展」(自主企画・特別展) 2月2日～3月21日、開催日数42日 【令和3年度予算目標】92,000人	4	4
	4)開館に向けた機運の醸成 ア PFI 事業者と協働し、ウェブサイトや SNS 等の更新や充実等を通じて、大阪中之島美術館の整備や開館準備の状況、開館イベント、開館記念企画展とその関連事業の情報を発信する。 ・大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。(再掲) ・大阪中之島美術館の開館に向けた機運を醸成するための PR・広報活動を実施する。 ・大阪中之島美術館の整備の進捗や開館準備についてわかりやすく周知する「開館準備ニュース」を発行、ホームページ上に掲載する。 ・SNS 等を活用し、イベント等の情報を積極的に発信する。 イ PFI 事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施する。 ウ 他の美術館や大学、企業等との連携を推進する	47 ア・公式ホームページのリニューアルを実施し、Twitter、Facebook、InstagramアカウントとYouTubeチャンネルを開設し、ほぼ毎日更新し、イベントや展覧会情報をはじめ、その準備の様子を含めて、最新情報の発信を行った。 ・人員を増強し、広報担当の強化を図るとともに、PR会社や美術館広報専門家への業務委託を行い、効果的なプレスリリース配信や取材誘致を実施している。また、硬軟多彩な取材に応じ、幅広い市民への周知を図った。 ・開館準備ニュース「NAKKA NEWS」を定期的に配信し、大阪中之島美術館のさまざまな側面を深掘りする内容を市民に提供した。 イ 機構事務局やPFI事業者、外部機関と協働し、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施した。 【展示】中之島三井ビルディングとの協働による「	4	4

	。	中之島アートウォール」(4月～) 【トークイベント】「アートとデザインの境界を語る vol.1」(8月：オンライン・実来場の併用) 【シンポジウム】国際ミーティング「都市のアーカイブ」(9月：オンライン・実来場の併用) 【その他】大阪クラシック撮影への協力等、外部事業者によるイベントへの対応を実施した。 キッズプラザ大阪との協働による子どものためのラーニングプログラム(10、3月) ・「生きた建築ミュージアムフェスティバル」への参加(10月) ・おおさか創造千島財団との協働による現代美術イベント(11月) ・開館記念トークイベント(11、12、1、2月) ・開館記念ラウンドテーブル(3月) ・開館記念シンポジウム(2月) ・クリエイティブアイランド中之島実行委員会との協働によるシンポジウム(2月) ・大阪市、文楽、現代美術作家との協働による舞台芸術イベント(2月) ・NHKとの協働による府内各所で開催されるコレクションについての連続講座(2月) ・開館記念「超コレクション展」における子どものためのラーニングプログラム「いろ色 いろんな作品たち」(2月～3月) ・現代美術作家との協働による市民参加型作品制作(3月頃)(再掲) ウ 昨年度より継続して、他館や企業との連携を推進した。 【開館イベント、中之島地域連携】 大阪大学、アートエリアB1、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会、中之島まちみらい協議会、中之島三井ビルディング、大阪市立科学館、大阪市立東洋当時美術館、国立国際美術館 【研究連携】 インダストリアルデザイン・アーカイブズ協議会、パナソニック株式会社、シャープ株式会社、積水ハウス株式会社、公益財団法人日本デザイン振興会 【展覧会連携】 国立国際美術館、東京ステーションギャラリー、国立新美術館、九州国立博物館、大分県立美術館、東京国立近代美術館、ほか。		
--	---	---	--	--

大 項 目 Ⅱ	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 5 業務運営の改善及び効率化 (1) 人材の活用と育成 (2) 評価制度の活用 (3) I C Tの導入及び活用 (4) 民間活力の導入
------------	--

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 法人は、業務運営の改善及び効率化を図ることで、法人の事業の持続的かつ安定的な実施を目指す (1) 人材の活用と育成 ・職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置 ・職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 ・包摂的な社会にふさわしい人材の獲得 ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲5)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 人材の活用と育成						
49 職員の意欲及び能力を活かすため、必要な体制整備を図るとともに、職員の育成に取り組む。 【法人として充実を目指す事項】 49 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置	(事務局) 職員の意欲及び能力向上に資するため、職員の能力が発揮できる組織体制の構築や職員の適切かつ柔軟な配置を進める。	49	(事務局総務課) 公募による選考を経て4月から、大阪市立自然史博物館及び大阪市立科学館に新館長を配置し、組織体制を強固にした。 4月から、理事長の特命事項に従事する事務系管理職員として参与(部長級)を、事務系職員を内部より4名、外部より2名採用し事務部門の体制を強化した。 (市立美術館) 10月1日付で2名の学芸員を新たに配置した。	3		3
50 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 法人内での人事交流を積極的に実施する。 職員のスキルアップに寄与するため、職員の職能別・階層別の研修を実施する。	(事務局) 職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。 管理者層向けの研修を実施する。 新採・新任研究を実施する。 学芸員の資質向上を目的に、専門的研修を実施する。 法人の内部統制の推進のための研修を実施する。	50	(事務局総務課) 人事交流については、令和3年4月の定期異動において、事務局及び各館全体で積極的に実施した。 4月(事務系向け)、10月(学芸系職員向け)の新規採用者に対して、それぞれ新採研修を行った。 令和4年3月に地方独立行政法人制度における事業評価にかかる研修を実施した。(オンライン) (事務局経営企画課) 外部講師を招く等しながら、以下の研修機会を通じて知識等の共有を図った。 ・情報化会議主催で博物館資料のVRコンテンツ化に関する研修を実施した(7月10日、15名)。 ・博物館法改正の状況を理解する研修を1月に実	3		3

			施 ・コロナ禍における博物館のあり方についての実践報告や、検討を行うオンライン研修を3月に実施。			
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	(事務局) 年齢・性別等にとらわれず、能力、適性に合った人材を、すべての職種において採用する。	51	(事務局総務課) 機構発足後、継続して独自採用や民間採用等、職種を問わず多様な人材の確保に向け採用活動を積極的に行った。なお、障がいを持つ方についても翻訳アプリを使った採用手法を実践し、採用面接を実施した。(採用後、本人都合により辞退)	4	通常採用時に障がいのある方が応募された際の翻訳アプリを使用するなどし採用した点は評価できるものの、本人都合で辞退したとはいえ、最終的には獲得にいたっていないことから本市評価は3とする。	3
52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲) 業務の中核を担う職員を安定的に確保するために、中長期的な採用計画及び育成計画を立案し、運用する。 年齢等にとらわれず、能力、適性に合った人材を採用する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす(再掲)。 【中期計画期間中の目標】 2021年度の大阪中之島美術館の開館後は、準備業務に従事した職員の削減を予定(3名程度)	(事務局) 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について検討を行う。	52	(事務局総務課) 市立美術館及び事務局において、機構内外より多くの新たな人材を獲得することができた。	3		3

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (2) 評価制度の活用 ・法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 ・能力に応じた人事評価の実施 ・法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 ・インセンティブが適正に働く人事制度の導入
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 評価制度の活用						
評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、適正な制度の構築及び運用を目指す。						
【法人として充実を目指す事項】 53 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 中期計画及び年度計画(以下「中期計画等」という。)の策定及び評価に関する規程等を整備し、その適切な運用に努める。	(事務局) 年度計画については、令和4年度分の策定に向けて、評価委員会の意見に沿いながら、適正な目標設定を行ったうえで年度計画を作成する。 自己評価については、6月末までに令和2年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和3年度の間接評価(仮評価)を実施して下半期の業務改善につなげる。	53	(事務局経営企画課) ・令和4年度の年度計画を、評価委員会の意見や、中期計画の4年目である重みを鑑み作成した。 ・6月末に、令和2年度の自己評価をとりまとめ、大阪市に提出した。その後の評価委員会に置いて、評価内容の記載内容について、改善の指摘があった。 ・令和3年度上半期の間接評価を取りまとめ、下半	3		3

54 能力に応じた人事評価の実施 職員の能力向上を図るため、業務の成果を総合的に評価する人事評価制度を構築し、その運用をめざす。	(事務局) 職種に応じた能力が的確に把握できる評価制度の浸透を図る。	54	期における事業実施の取り組みについて年度計画の再確認を行った。 (事務局総務課) ・職員の人事評価制度については昨年度実施した制度について全職員にアンケート調査を実施し、制度の検証を行った上で改正実施した。 ・テレビ会議システムを利用し、全職員に対して人事評価制度にかかる研修を浸透を図った。 ・制度の深化を図るため、人事評価制度にかかる評価項目等について学芸課長を中心に意見交換を実施した(10月実施)。	3	3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 55 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。(再掲)	(事務局) 展覧会事業における観覧者数や事業費を始め、適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。	55	(事務局経営企画課) 各館における入館者状況について、入館者数と推移、属性等を可視化して把握し、各館とも共有した。 ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。 また、評価に対するPDCAIに関する論文も発表した。	3	3
56 インセンティブが適正に働く人事制度の導入 適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する調査研究を実施する。 職員の資質向上を図るため、自己評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度を構築し、その運用を目指す。	(事務局) 事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、次年度、その運用を実現する。	56	(事務局総務課) ・引き続き他の機関における人事評価制度を活用したインセンティブの在り方について、先行する独立行政法人の制度やインセンティブの配分方法について検証を行った。 (事務局経営企画課) ・11月以降、学芸課長等と打合せを行い、人事評価制度を議論する中で、その結果の反映方法についても意見を交換し、今後の運用を検討した。	3	3

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (3) ICTの導入及び活用 ・財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(3) ICTの導入・活用					
業務の標準化及び迅速な処理のため、ICTの導入及びその活用を図る。					
【法人として充実を目指す事項】 57 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用 業務の効率化を図るため、法人の各館を結ぶネットワークを構築し、各種システムを稼働させる。	(事務局) 各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。人事・給与や財務会計システムを利活用し、業務の省力化を図る。 利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。	57	(事務局総務課) 昨年度の評価結果を受けて以下の改善に取り組んだ。 ・一昨年度に本格導入した財務会計システムを活用し月1回の決算見込みを行うなどリアルタイムの経営判断に活用を図った。 ・人事・給与システムについては、引き続き適宜シ	3	3

			システムの浸透を図った。また各月の事務局及び各館の動怠把握に活用する等、事務局における業務の集約化を図った。 - 引き続き全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 - 引き続きコロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。			
--	--	--	--	--	--	--

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (4) 民間活力の導入 - 事業効果を見極めた外部委託の推進 - 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 - 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(4) 民間活力の導入						
利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。						
【法人として充実を目指す事項】 58 事業効果を見極めた外部委託の推進 施設の管理・運営業務などにおける効率化を図る観点から、競争入札等を継続するとともに、各館の特性を踏まえて、新たな仕組みの導入について検討する。	(事務局) 事務局や各館の進める事業に対する顧客の評価を把握するため、その調査における外部委託を進める。	58	(事務局総務課) 機構においてはサービスの向上や効率化に資するため、案内・受付・清掃・設備保守等の部門について外部委託を実施した。 (事務局施設管理課) ・前年に引き続き、市立美術館改修及び東洋陶磁美術館エントランス工事においてCM（コンストラクション・マネジメント）業務の委託により、スケジュール管理やコスト管理など業務の効率化に加え、工事発注方法等の手法の改善や基本設計、実施設計の精度の向上が図られた。 ・東洋陶磁美術館エントランス増築工事では、民間発注方式のメリットを取り入れた。	3		3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 59 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 広報や教育など適材適所で、専門的知識を有する外部人材の登用を検討する。	(事務局) 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について、検討を行う。（再掲）	59	(事務局総務課) ・4月から、理事長の特命事項に従事する事務系管理職員として参与（部長級）を、事務系職員を内部より4名、外部より2名採用し事務部門の体制を強化した。 ・令和4年4月1日の職員を外部から登用するための手続きを進めた。 (市立美術館) 10月1日付で市立美術館に2名の学芸員を新たに配置した。	3		3

60 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	(事務局) 1. 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	60 (事務局総務課) 定期的に、受付業務や清掃業務等の委託業者から意見を聴取し、業務改善へ反映を行った。 新しいシステムの導入に際し、他の博物館・美術館とネットワークを組み、情報交換の体制を構築した。 (事務局施設管理課) ・積算基準について、これまでの大阪市の積算基準からより実勢価格にあった民間の市場単価を採用する積算基準への改定を行った。 ・東洋陶磁美術館エントランス増築工事及び市立美術館改修工事において、CM業務の委託により、工事発注方法等の手法の改善や、基本設計、実施設計の精度の向上が図られた。	3		3
	2. リモート・ワーク（在宅勤務）の推進 コロナ禍を契機とした新しい生活様式に対応した働き方を推進するため、専用端末や諸規程等を整備し、リモート・ワークの推進を図る。	・適宜開催した新型コロナウイルス感染症対策本部会議において積極的にリモート・ワークを推奨する旨決定し職員へ周知する等、新しい生活様式に対応した働き方の浸透を図った。 ・導入した在宅勤務を可能とするための端末（モバイルパソコン）を積極的に活用し、意思疎通や情報共有を行った。	3		

大項目 Ⅲ	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 6 財務内容の改善 (1) 収入の確保 (2) 経費の節減
----------	--

中期目標	6 財務内容の改善 法人は、財務内容の改善を図り、持続可能な事業の実施に必要な資金を確保することで、安定的な経営を目指す (1) 収入の確保 ・幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 ・各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価																				
			評価の判断理由(実施状況等)	評価																			
(1) 収入の確保																							
持続可能な事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得に努める。 61 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 観覧料収入や法人資産の有効活用などにより、安定的な収入確保を図る。 【法人として充実を目指す事項】 観覧料収入の安定的確保を図るため、館毎の特性に応じた常設展及び特別展の集客力を高める取り組みを実施し、観覧料収入の増加に努める。 【中期計画期間中の増収目標（5年での割合）】 <table><tr><td></td><td>常設展</td><td>特別展</td></tr><tr><td>美術館</td><td>3%</td><td>5%</td></tr><tr><td>自然史博物館</td><td>—</td><td>5%</td></tr><tr><td>東洋陶磁美術館</td><td>—</td><td>3%</td></tr><tr><td>科学館</td><td>5%</td><td>—</td></tr><tr><td>歴史博物館</td><td>3%</td><td>3%</td></tr></table> 保有資産について、新たなテナントの誘致や適切なテナント料の設定、貸会議室の稼働率上昇の取り組み等を実施し、施設の有効利用による増収を図る 【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 62 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得 積極的な寄附金や協賛金等の獲得のため、法人の担当者を定め、取り組みを強化する。 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討し、その適用に努める。		常設展	特別展	美術館	3%	5%	自然史博物館	—	5%	東洋陶磁美術館	—	3%	科学館	5%	—	歴史博物館	3%	3%	(事務局) 令和3年度より実施する機構中期戦略（CRS）によって、収入確保を推進する。 【法人として充実を目指す事項】 次の中期目標期間中の増収目標の他一斉に必要な単年度分の増収をめざす。 ・中期計画期間中の増収目標（2019年4月1日版中期計画より抜粋） （大阪市立美術館） 常設展：5年で3% 特別展：5年で5% （大阪市立科学館） 常設展：5年で5% （大阪歴史博物館） 常設展：5年で3% 特別展：5年で3% （大阪市立東洋陶磁美術館） 特別展：5年で3% （大阪市立自然史博物館） 特別展：5年で5%	61	(事務局総務課) コロナ禍による外出制限や4～5月の休館及び各館の入場者数（座席数）の制限、さらに開館後2ヶ月間の来館者数伸び悩み等の状況を踏まえて、上半期末時点では当初計画していた事業収入から65%減を予測していたが、コロナ対策戦略（CRS）を策定し推進することで3%の増収を実現し、結果62%減に留めることができた。 コロナ感染症対策のための費用として、文化庁による補助金を申請・獲得した（21,227千円）。	3	3
	常設展	特別展																					
美術館	3%	5%																					
自然史博物館	—	5%																					
東洋陶磁美術館	—	3%																					
科学館	5%	—																					
歴史博物館	3%	3%																					
	(事務局) 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討する。 機構と各館のHPを通じたキャッシュレスによる積極的な寄附金や協賛金等の獲得に取り組む。	62	(事務局経営企画課) 市立美術館、科学館、東洋陶磁美術館における価格妥当性について、市民への調査を通じて検討を行った。 また、令和2年度に構築したオンラインでの寄付金募集も順調に実施しており、機構として1,792万円の寄付金収入があった。 法人寄付に関しては、寄付活動実施のため方針を制作した。	3	3																		

	2、オンラインサービスの充実による収入増 オンラインショップの開設や積極的な商品開発により、新たな収益の獲得を実現する。		令和2年度より開設した各館のオンラインショップにて、ミュージアムグッズ販売を順調に行っている。商品を単品で扱うのではなく、組み合わせ商品の開発や、過去の図録の割引販売、また、民間業者との連携による商品開発を実施するなどして、商品価値を高める工夫も行った。		
--	---	--	---	--	--

中期目標	6 財務内容の改善 (2) 経費の節減 ・契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 ・共同調達による経費の縮減
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 経費の節減						
安定的な経営を実現するため、経費の縮減に努める。 【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 63 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 委託費等の契約内容を点検し、契約期間や単価の見直しを実施する。 【中期計画期間中の削減目標】 2022年度から一括契約を導入し、美術館を除く各館の維持管理費(委託費)の5%削減を見込む	(事務局) 業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札を実施する。 令和4年度からの契約手法の見直しを見据え、一括調達や長期契約に向けた規程等を整備する。	63	(事務局総務課) 規程に沿って、競争入札を実施した。 長期契約においても、可能なものについては実施した。 (施設管理課) ・光熱水費の削減に向けて、データを整理するなど技術的なサポートを行った。	3	3	
64 共同調達による経費の縮減 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について、具体的な品目を定めたうえで共同調達を進める。	(事務局) 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定めたうえで、各館室等との共同調達を進める。	64	(事務局総務課) コロナ禍において、オンライン会議ソフトを5館で使用するため、一括購入した。またコピー用紙の共同購入について検討を行い、次年度の共同調達を実施する業者を決定した。	3	3	

大 項 目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項 7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (1) 環境整備 (2) 重要なリスク回避のための体制の構築
-------------	--

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) 法人は、業務を恒常的に維持し発展させることのできる組織を確立するため、リスクを回避できる仕組みを構築し、機能させることで、内部統制の強化に努める (1) 環境整備 ・法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 ・法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 ・情報共有に必要なイントラネットをはじめとするＩＣＴの活用の促進 ・内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 環境整備						
内部統制の確立のため、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。						
【法人として充実を目指す事項】 65 法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づいて法人の内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。 役員及び職員並びに研究者としての倫理指針及び行動指針を遵守する。	65	(事務局総務課) ・契約監視委員会を8月及び2月の2回開催し、機構の契約事務が適正に行われているか、外部委員による確認を行った。 ・2月に内部統制委員会を開催し、今年度のモニタリングの状況やリスク管理に関する進捗について確認を行った。 ・法令や規程等に対する違反、不正行為の早期発見と是正を図るため、内部通報・外部通報制度を令和2年度に引き続き運用した。	3		3
66 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 研究者や博物館人としての倫理観を確保するため、内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。	66	(事務局経営企画課) 科研費従事者への研究者倫理研修を2月に実施した。	3		3
67 各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 役員の役割を明確にし、法人業務を監理・監督を遂行する。 業務執行のための体制と役割分担を明確にし、確実な執行に努める。	(事務局) 組織や役員の分掌に関する規程に沿って、法人業務を監理・監督する。	67	(事務局総務課) ・「館長等任務分掌規程」を整備し、館長及び事務局長の機構における業務執行責任者としての役割を明確化させた。 ・組織が分掌規程に則って運営できているかを監督するため、監事による各種会議への出席、役員との面談などを行った。	3		3

68 法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 理事会や業務執行のための会議体を整備し、迅速な意思決定や情報共有を図る。 業務分担と執行および責任の所在を明確にするための規程を整備し、その確実な運用を図る。	(事務局) 理事会や業務執行のための会議を定期的開催し、迅速な意思決定や情報共有を図る。	68 (事務局総務課) ・ 機構における会議体として、「理事会」「経営会議」「総務連絡会」「学芸連絡会」を定期的に開催し、各階層において迅速な意思決定や情報共有等を図った。 ・ 特に機構発足後の懸案事項であった「経営会議」の位置づけについて、「館長等任務分掌規程」及び「経営会議規程」を整備することで、理事会と経営会議の役割を明確し業務執行責任の一層の醸成を図った。 ・ 昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を随時開催し、コロナ禍での情報共有及び対策を迅速に行った。	4		4
69 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用促進 意思疎通や情報共有のため、テレビ会議システムなどのICT技術の活用を検討する。	(事務局) 意思疎通や情報共有のため、導入したグループワークやウェブ会議のシステムなどの ICT 技術を積極的に活用する。	69 (事務局総務課) ・ 引き続き全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 ・ コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 ・ 導入した在宅勤務を可能とするための端末（モバイルパソコン）を積極的に活用し、意思疎通や情報共有を行った。	3		3
70 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施 内部監査等により定期的に内部統制環境の整備状況・有効性をモニタリングするとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、内部統制に関する必要な見直しを行う。	(事務局) 監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行う。	70 (事務局総務課) ・ 内部監査計画書を策定し、事務局及び各館において業務監査及び会計監査を実施した。 ・ 10月より監事による各館往査を実施し、内部統制環境や年度計画の進捗状況等の監査を行った。 ・ 監事、会計監査人、内部監査室が連携し、内部統制の有効性についてモニタリングを進めた。	3		3

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (2) 重要なリスク回避のための体制の構築 ・リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 ・ネットワークセキュリティの強化
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 重要なリスク回避のための体制の構築						
重要なリスクを回避するため、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。 【法人として充実を目指す事項】 71 リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 適切なリスク管理を行うため、業務の遂行、入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見に努める。	(事務局) 業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応を可能とする規程に沿った運用を行う。 入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避を図る。 建築物（付帯設備も含む）管理・点検を行い施設障害発生リスクの回避に努める。	71	(事務局総務課) ・2月にリスク管理委員会を開催し、機構の各所属におけるリスクの洗い出し及び評価を行い、優先度の高い事例の対策に着手した。 ・機構内の執行責任者による「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を随時開催し、コロナ禍における情勢が目まぐるしく変わる中、柔軟かつ迅速に対策を決定することで、利用者及び職員等の安全確保及びリスク回避を図った。 (事務局施設管理課) ・工事中の火災予防や事故の未然防止、入退館管理の手続き等、工事に関する諸注意事項を整理し、「安全作業心得」としてまとめ、工事前に受注者に配布し講習会を行うなど、工事における安全対策について徹底するよう努めた。 ・建築工事等において、事故・災害が起こらないよう施工者に対して、工程会議などの機会に安全の徹底を指示するよう努めた。 ・大規模な工事が始まることから、職員の安全対策のため、個人用ヘルメットを購入した。	3		3
72 ネットワークセキュリティの強化 個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を一元化し、徹底する。 訓練等を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善に努める。	(事務局) 個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぎ、情報セキュリティ対策の一元化を図るため、情報システムに関する作業部会を立ち上げ、報告をまとめる。 訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。	72	(事務局総務課) ・在宅勤務にかかる情報セキュリティの為の規程整備等については積極的に進めたが、作業部会の立ち上げには至らなかった。 (事務局経営企画課) ・ECから収集する個人情報の取扱いについて検討し、総務課との作業により機構のルールを定めた。	3		3

大 項 目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置 8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (1) 利用者等の安全確保 (2) 環境保全の取組み (3) 情報公開の推進
-------------	--

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) 法人は、時代の要請に応え、社会の理解や支持を得ることで、公共的な施設としての役割を果たす (1) 利用者等の安全確保 ・利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲9) ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲)
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	市長の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価の判断理由・評価のコメント
(1) 利用者等の安全確保					
さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、各館の施設における安全を確保する。 【法人として充実を目指す事項】 73 利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 職員に対する研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	(事務局) 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	73	(事務局総務課) ・安全確保のため、「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」での決定や機構独自のガイドラインに沿って、次の対策を実施した。 新型コロナウイルス対策として策定した、機構独自の「ガイドライン(大阪市博物館機構 関係各館用)」を遵守しながら、以下の通り、利用者の安全確保に努めた結果、現在もクラスター等の発生を回避することができた。 ・入場者数の制限と管理 ・検温 ・消毒液の配備 ・飛沫防止シールドの設置 ・立ち位置の明示 ・館内放送や注意喚起の掲示を実施した。 ハンズオン展示と、座席が隣接すプラネタリウム投影を行う科学館では、次の対策を講じた。 ・プラネタリウムの使用可能座席の制限、 ・トイレ・階段手摺・レストラン設備等への抗ウイルス剤塗布 ・団体等の食事場所の提供休止などの措置 また、各館においては、通常の安全訓練を実施し、訓練を通じて職員の安全に対する意識向上を図った。	3	3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 74 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利	(事務局) 快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備を行	74	(事務局施設管理課) 「8 各館の施設の計画的な整備及び改修」(P12～		

用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設として必要な機能や快適な利用環境の確保に向けた計画的整備・改修を行う。	う。 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。		14)で示した各館の改修計画の立案や、「10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修」(P15～16)に参画し、技術面でのサポートを行った。 あわせて、各館施設の計画的な整備及び改修（5か年の改修計画）の具体的な中身（詳細）を検討し、現状の令和5年度までの中期5ヶ年の改修計画について、点検結果報告や劣化状況、工事手順等を勘案し、計画を修正した。 また、施設の老朽化状況や更新時期を勘案し、令和6年度からの次期5か年の改修計画について立案した。	3		3
75 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。(再掲) さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。(再掲)	建築物の大規模改修時において、バリアフリー化を推進する。	75	(事務局施設管理課) ・既設建築物のエレベーターやエスカレーター、自動扉の作動状況等、現状のバリアフリーの維持管理状況について、毎月の点検結果に基づいて適切に維持管理されていることを確認した。 ・「10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修」(P15～16)に参画し、技術面でのサポートを行った。(再掲) ・東洋陶磁美術館の増築、市立美術館の大規模改修時に、トイレやスロープ、エレベーター等のバリアフリー化を推進すべく設計を進めた。 ・科学館のトイレ改修工事において「大阪市ひとにやさしいまちづくり条例」に基づき設計を進めた ・各館にて現状のバリアフリーの点検を行った。	3		3

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (2) 環境保全の取組み ・省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 ・再生紙その他の資源の有効利用の促進 ・環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 ・新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 環境保全の取組み						
環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、環境に配慮した取組みを進める。						
【法人として充実を目指す事項】 76 省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	(事務局) 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	76	(各館) コロナ禍における換気に留意しつつ、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努めた。 (事務局施設管理課) ・各館における上記の設定・維持に必要な技術的指導を行った。 ・近畿経済産業局主催の省エネシンポジウムや各種省エネセミナーの受講を各館へ奨励し、省エネ意識の向上を図った。	3		3
77 再生紙その他の資源の有効利用の促進 ICTを活用したペーパーレスの推進や、再生紙利用の促進等を図る。 リデュース・リユース・リサイクルの徹底に努める。	(事務局) 再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。	77	(事務局総務課) ICT活用に伴う以下のペーパーレス化を推進した。 ・全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 ・コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の削減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 ・また、事務局及び各館で、再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図った。 ・職員への意識啓発を実施予定。	3		3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 78 環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 環境への取組状況を明らかにするため、その成果を公表する。	(事務局) 建物の大規模改修時に省エネルギー機器の導入を図る。 制定した「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」に沿って、引き続き省エネルギーに努める。	78	(事務局) ・改めて、建物全体の省エネ診断を実施し、削減見込み額の算定を含む今後の計画を立案した。 ・コピー用紙の再生紙購入・利用や配送業者に対する大阪市グリーン配送適合車の使用を求めるなど、3Rに取り組み環境配慮することを公開しているが、指標化が行えていない。	2		2
79 新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進	(事務局) 環境への取組状況をエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき管理する。	79	(事務局施設管理課) ・エネルギーの使用の合理化等に関する法律の下に以下の省エネに取り組んだ。 ・各館の省エネ診断結果をもとに、より効率的な施設整備計画となるよう見直しを図った。	3		3

			・文部科学省・近畿経済産業局へ提出している「中長期計画書」で計画している市立美術館及び東洋陶磁美術館でのエレベータ改修や照明器具のLED化について、それぞれ大規模改修時やエントランス増築の実施設計へ反映した。 ・予防保全による空調機器等の自動制御の更新に取り組んだ。 ・昨年策定したリデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画の浸透を図ることで、各館の省エネ推進に取り組んだ。		
--	--	--	--	--	--

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (3) 情報公開の推進 ・ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 ・情報公開請求に対する迅速な対応
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 情報公開の促進						
運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。 【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 80 ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 業務内容等を広く理解してもらうため、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。	(事務局) 法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。	80	(事務局総務課) 法定事項をはじめ、業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表した。 (事務局経営企画課) 機構ホームページにおいて、展覧会等の報道発表や採用・調達情報などを逐次公表した。	3		3
81 情報公開請求に対する迅速な対応 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	(事務局) 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	81	(事務局総務課) 事業内容や運営状況に関する情報公開請求（令和3年度12件）に対して、迅速に対応した。	3		3